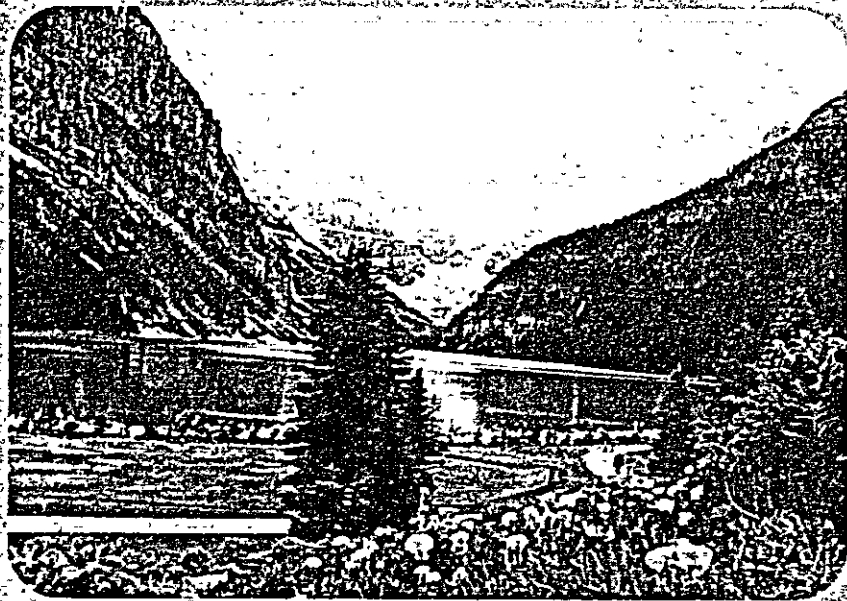


啓発資料 No.1068

カナダ案内
～移住のための手引き～

Introduction to
CANADA



国際協力事業団

昭和56年2月

RY

本資料は、カナダ大使館より提供を受けた
" Introduction to CANADA "
(Manpower and Immigration 刊
1976年)を翻訳したものであります。

移住業務にたずさわる私共にとってもハ
ンディーで有用な資料であり、これからカ
ナダに移住しようとする方にとっては実
に、解りやすいガイド・ブックとなること
でしょう。本資料が皆様方のお役に立てば
幸いです。

国際協力事業団

カナダ案内
～移住のための手引き～

Introduction to
CANADA

JICA LIBRARY



1035598[0]

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 15	801
登録No. 00353	23.4
	EIP

ま え が き

本書は、ほゞ次の二点を主要目的として作られたものである。

1. 今後移住を希望する人のために、カナダについての初歩的、基本的情報および移住手続に関する知識を提供すること。
2. 手続を経てカナダに到着した移住者のための便利な参考案内書として役立つこと。

第I章の最初の4節は、カナダでの生活や仕事等の実際的な側面について詳述する前に、この国の全体像を把握するための手引きとして、地理、国民と伝統、政府および経済などについて紹介している。

第II章では、州、地方、大都市、町等を概観することにより、この国の多様性を多少なりとも示そうという試みを示した。

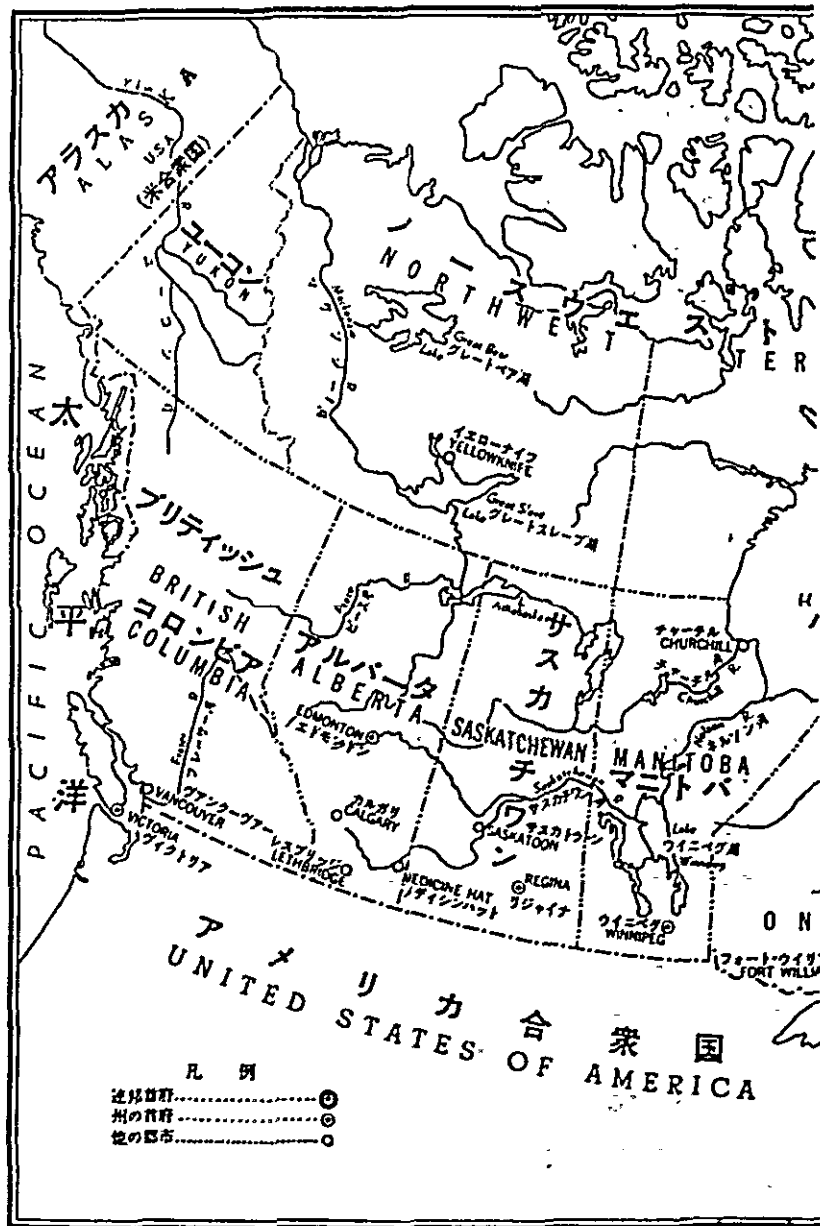
第III章では、移住に焦点をあてている。すなわち、どう申請するか、選考のプロセス、インタビュー、また、出発の準備はどのようにするか、についてである。

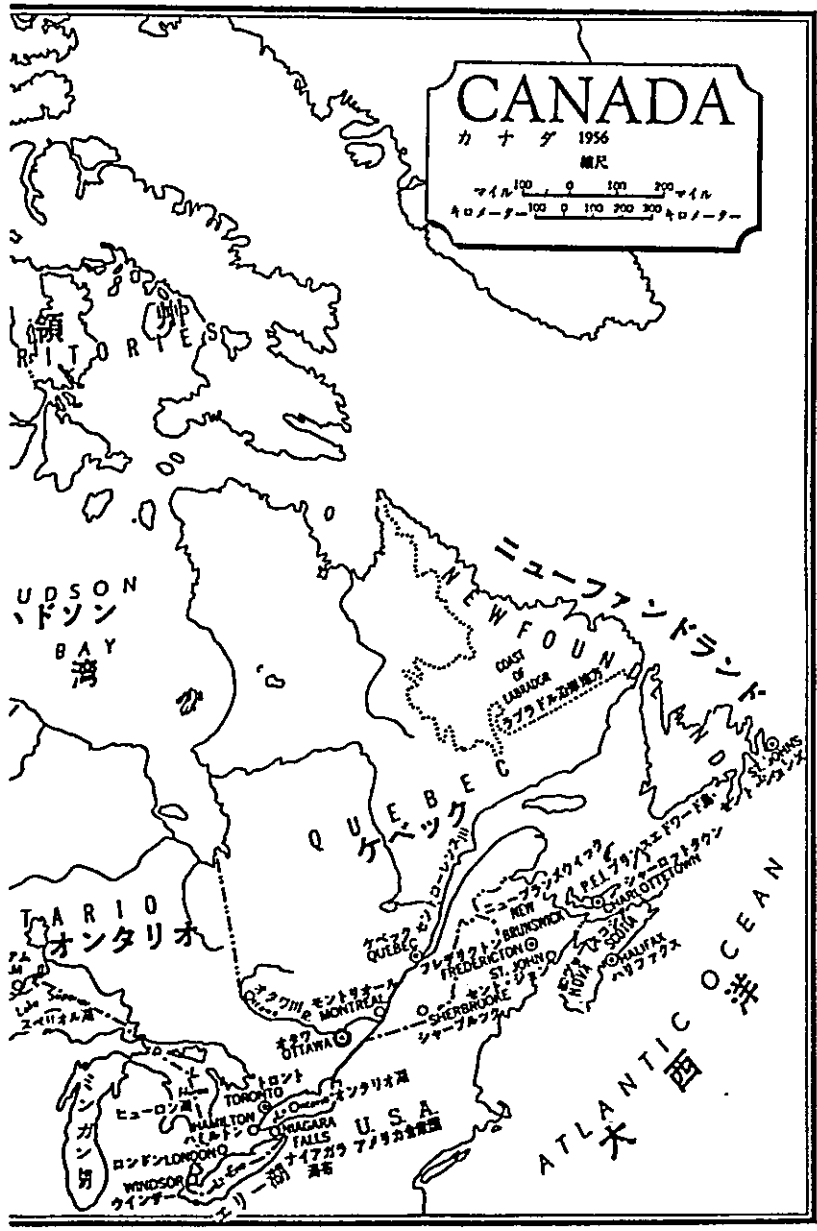
だれであれ、自国の外を旅行したことがない人にとって、見知らぬ国に到着することは戸惑いのある経験である。第IV章に述べる情報により、移住者がカナダ到着の際にどうしたらよいかを知り、そのような変化を容易なものにするのに役立つよう希望している。

最後に、第V章では、カナダ市民の権利と義務について、簡単に触れている。

このガイドから最大限学ぶためには読み返すことをすすめる。つまり、第1回目は、全体的概要をつかみ、2回目に各章を注意深く研究し、もっと情報をほしい問題について書きだすことである。

こうした本においては、頻繁に変動するようなもの、特定の分野にのみ関連しているものまで網羅することはできないが、生活費、賃金、住宅、その他移住についてのもっと特殊な情報については、日本国内にあるカナダ政府事務所て入手して下さい。





目 次

第Ⅰ章 カナダの概要

1. 国土と環境…………… 1
2. 国民と伝統…………… 6
3. 政 府…………… 23
4. 経 済…………… 32
5. カナダでの生活と仕事…………… 42

第Ⅱ章 州、準州を見る

1. 大西洋岸諸州…………… 67
2. カナダ中央部…………… 81
3. カナダ西部…………… 99
4. 準 州…………… 116

第Ⅲ章 移 住

1. 申請のしかた…………… 122
2. 健康診断…………… 124
3. 申請の進行プロセス…………… 125
4. 面 接…………… 125
5. 出発の準備…………… 128

第Ⅳ章 カナダ到着

1. 入国地にて…………… 131
2. 雇 用…………… 132
3. 宿泊施設…………… 133
4. 生活の中の経済…………… 135

5. 定着のために	139
6. カナダ生活に慣れて	141

第V章 市民権

1. 市民としての権利義務	143
2. カナダ市民権法	143

参考資料

1. メートル法	147
2. 休日	148
3. 各地の気温	149

序

カナダは、しばしば、移民の国と言われている。最初の移住者、すなわち、インディアンとイヌート（エスキモー）がアジアからこの大陸に移住してきたのはもう何千年も前である。

そのずっと後、フランス人とイギリス人がやってきた。彼らは国を建設し、その国に諸制度と基本的性格そして、2つの公用語すなわち英語とフランス語をもたらした。

19世紀以来、多くの国々からの移民の流入が続いたことにより、この国の開発が進み、その文化面での生活は大きく豊かなものとなっている。今日、その祖先がフランス人でも英国人でもない人々が、カナダの人口に示める割合は約3分の1となっており、この意味で、カナダは多様文化社会である二カ国語国家と言える。

初期の時代、カナダの広さ、厳しい気候、けわしい国土を克服することは、探険家・開拓者など国の建設者にとって避けて通ることのできない課題であった。

今日、克服すべき課題は、初期の定着民たちのものとはいささか異なっているとはいっても、カナダの地理は、今もお経済的にも政治的にもこの国の生存に関する重要な要素である。

この国の広さにもかかわらず、カナダの人口2,200万人のうちのほとんどが、カナダ・米国国境の巾の狭いベルト地帯に住んでいる。また、この境界線の内側の人口分布も平均しているとは言えない。人々の半分以上が、19の大都市に集中している。

この傾向が続くと、今世紀の終わりまでに10人中9人の人が、都市部にひしめくことになり、その他の地域はほとんど開発されないままに放置されるだろうと予測されている。

すでに、こうした状況は、土地および資源の利用に深刻な地域的不均衡を生

みだしており、生活の質や都市部の公共サービスに悪影響が出つつある。

この傾向を是正し、この国の各地域が十分な経済的、社会的潜在能力を発揮することができる方法をさがすことが、現在、カナダが直面している課題のうちの最大のものである。

第1章 カナダの概要



バンフ国立公園にある美しいロッキー山脈の一部。

- 1-1 国土と環境
- 1-2 国民と伝統
- 1-3 政治
- 1-4 経済
- 1-5 カナダでの生活と仕事

I - 1 国土と環境

a) 面積

カナダは世界第2位の大きさをもっており、北アメリカ大陸の北部の大部分を占めている。大西洋から太平洋まで3,000マイル(4,800キロメートル)以上の広がりを持ち、北へはカナダ米國国境から北極海へ向かい2,800マイル(4,480キロメートル)あり、総面積は400万平方マイル(1,040万平方キロメートル)を上回っている。列車でこの国を横断するには4昼夜かかり、太平洋岸から大西洋岸へ飛行機で飛ぶには、モントリオールからパリへ飛ぶのと同じくらいの時間を要する。

b) 時間帯

国土の大きさのためにカナダには7つの異なった時間帯があり、各時間帯には1時間の時差がある。ただし例外として、ニューファンドランド標準時は、大西洋帯とわずか30分しかちがわない。

だから、ホワイトホース(ニューコン準州)で正午のとき、バンクーバー(ブリティッシュ・コロンビア州)では午後1時、カルガリー(アルバータ州)では午後2時、レジャイナ(サスカチエワン州)とウイニペグ(マニトバ州)では午後3時、トロント(オンタリオ州)とモントリオール(ケベック州)では午後4時、ハリファックス(ノバ・スコシア州)では午後5時で、セント・ジョンズ(ニュー・ファンドランド州)では午後5時30分である。

c) 気候

カナダの気候は、海流、卓越風、山岳地帯、森林地帯、平原、湖沼・河川などに影響され多様であり、世界のその他の多くの地方と比較した場合、予想がしにくい。

極北のように季節が2つ、即ち、長くないへん寒い冬と暖かく短い夏の地方は

例外として、カナダには春夏秋冬の四季がある。

通常、春は3月中旬～5月中旬、夏は5月中旬から9月中旬まで、秋は9月中旬から11月中旬、冬は11月中旬から3月中旬までである。

夏は、普通、非常に暖かく湿度の高いことがよくある。ブリティッシュ・コロンビア州を除き、全地域は冬は寒く雪が多いが、日照時間が長いのがしばしばである。B. C. 州の海岸の気候は、暖かい太平洋の空気によっておだやかで、冬の気温は温和である。

d) 国土の特徴

〈山 脈〉

カナダには、三つの山岳地方がある。一つは西海岸に沿い、また中央部から北部にかけてあり、もう一つは東海岸に沿ったところである。西海岸山岳部は、ウエスタン・コルディレリアスとして知られており、中央部は、カナディアン・シールドであり、東海岸はアパラチア山脈である。

ウエスタン・コルディレリアスは、巾が500マイル(800キロメートル)、長さが1,400マイル(2,240キロメートル)の地域に及んでおり、ニューコン準州、ブリティッシュ・コロンビア州の大部分にかかっている。これらは、カナダでもっとも高い山々である。この山系でもっとも有名な山脈は、カナディアン・ロッキーで、美しい景色で有名である。

カナディアン・シールドは世界でもっとも古い山系であり、ハドソン湾をぐるりと囲むような巨大な蹄鉄形に100万平方マイル(260万平方キロメートル)の地域に及んでいる。大西洋岸に端を築き、ケベック州北部、オンタリオ州の大部分、北部マントバ州とサスカチュワンの一部、ノースウエスト準州の東半分にかかっている。この地域の海拔は様々であり、500～4,000フィート(150～1,200m)である。

シールドの南部は、古代岩で表面がおおわれており、湖、川、沼沢地が点在している。森林も深い。寒く乾いた気候のため、シールドの最北部は木のない

ツンドラである。この土壌の下層部は、決して解けることがないが、短い夏の日々、ツンドラ植物、たとえば、背丈の低い、粗末なかん木、草、こけ、地衣類、北極の花などが生育する。

カナディアン・シールドは、アスベストス、ニッケル、亜鉛、銀の鉱脈が豊かである。この地方は、算定で自由国のウラン供給量の20～30%、また、2億5,000万バレルの石油の埋蔵があるとされている。シールド地方は、鉱山や木材の町が散在してはいるが、大部分が人口希薄である。

アパラチア山脈は、沿岸諸州(Maritime Provinces)とケベック州のガスペ半島の間を通過している。この山系の形成は3億5,000万年以上も前で、天候と時間により侵食がたいへん進んでいて標高はどこもそれほど高くない。

石炭およびアスベストス、スレート、石こうのような非金属の埋蔵も豊かで、岩盤質の地層に含まれている。この地域は、深い森林が多い。

〈内陸部の水系〉

算定によれば、カナダ全面積の約7.6%が淡水におおわれており、これは世界の水系の1/4にあたる。事実、カナダには膨大な数におよぶ湖があり、正確に数えられたことは一度もない。カナダの水系の大部分は、南部オンタリオを囲んでいる五大湖に含まれる。その他の大きな湖は、ノースウエスト準州のグレート・ベア湖、グレート・スレーブ湖、マニトバ州南部のクィンベグ湖である。

カナダには、また、大きな川もある。最大のもの二つは、ノースウエスト準州のマッケンジー川、五大湖から大西洋へ流れ込むセント・ローレンス川である。今日では従前にも増して、水はただ輸送路としてだけでなく動力源としてもカナダの発展にとって重要となっている。

〈森林地帯〉

カナダの偉大な再生可能資源の一つである森林は、ほぼ100万平方マイル(260万平方キロメートル)である。森林は、とだえることなく巾600～1,300マイル(960～2,080キロメートル)の巾で大西洋から太平洋へと伸びている。カナダ原産の木の種類は約140種で、このうち31種は、エ

ソマツ、ダグラスモミ、ツガ、西洋スギ、マツ、バルサムモミのような軟木である。有用木材の資源を多くもつ州は、ブリティッシュ・コロンビア州、ケベック州、オンタリオ州の順である。カエデは東部カナダに見られる。

〈農業地帯〉

カナダの国土のうち耕作可能なのはわずか17%である。このうち約1/3がきわめて質のよい農地である。カナダでもっとも生産性の高い農地は、セント・ローレンス川とヒューロン湖、エリー湖、オンタリオ湖で囲まれたオンタリオ南部のくさび形地帯に見うけられる。この地帯の農業は多様化しており、家畜、家禽の飼育、酪農、野菜・果物栽培、穀物生産などがある。

マニトバ州南西部、サスカチュワン州南部およびアルバータ州のプレーリーは、カナダの「パンかご」として知られ、北米大平原の一部である。この地帯に樹木は少ない。プレーリーの草地は、食肉牛、羊を飼育するのに適しており、その豊かな土壌は小麦の成育に理想的である。

沿岸諸州では、山地が多く、土地も岩石質であり、農業に適した土地は限られている。例外として、プリンス・エドワード・アイランド州がある。ここは起伏した田園地帯で、粗放農業が行なわれている。ノバ・スコシア州とブランズウィック州では、多くの広い谷間や低地平原で、混合農業と果物栽培が行なわれている。こうした中でもっとも有名なものは、ノバ・スコシア州のアナボリス溪谷である。

ブリティッシュ・コロンビア州では、南部の肥沃な谷間で酪農と果物栽培が行なわれている。

〈野生動物〉

カナダの野生動物の棲息は、広汎、多種にわたり、極地では、厳しい気候にもかかわらず、驚くばかりの数の動物や鳥が生棲している。この中には、北極グマ、アザラシ、セイウチ、北極ギツネ、トナカイ、また、かなりめずらしくなったがジャコウウシがいる。北極に一年を通じている鳥の中には、オオユキフクロウ、ライチョウがおり、これらは、羽を夏には茶色っぽい灰色、冬には白にかえる。カナダガモは、冬の間、南に渡るということでもっともよく知ら

れている。

カナダの森林地帯は、また、モリトナカイ、白尾シカ、オオシカなどシカ科の動物を初めとする野生動物の宝庫である。その他、黒クマ、オオカミ、赤ギツネ、ミンク、カワウソ、ジャコウネズミ、ビーバーがいる。

1-2 国民と伝統

a) カナダ小史

カナダの最初の居住者の祖先は、インディアンとイヌート(エスキモー)であり、彼らは、最後の氷河期にベーリング海をわたってこの大陸にわたって来た。インディアンはこの国の南部に拡散して行き、イヌートは極北へと北上していった。

探 険 家 たち

〈バイキング〉

A D 1,000年ごろ、バイキングのリーフ・エリクソン(Leif Ericson)が、ニュー・ファンドランド、ラブラドル、バフィン島を訪れた。

〈イギリス人〉

1497年、イングランドのヘンリー七世(Henry VII)に仕えていたベネチア人のジョン・カボット(John Cabot)が、ニュー・ファンドランドを見つけ、これをイギリス領であると主張した。1576~1578年の間に、イギリス人のマーティン・フロビシャー卿(Sir Martin Frobisher)が、東洋にぬける北西航路をさがしているときにバフィン島とバフィン湾を見つけ探検した。1610年には、もう一人のイギリス人であるヘンリー・ハドソン(Henry Hudson)がやはり、この航路をさがしている時にハドソン湾を発見し、イギリス領であると宣言した。これにより、1670年、ハドソン・ベイ・カンパニー(Hudson Bay Company)が設立され、北部および北西部のインディアンとイギリスとの毛皮取引が始まった。

〈フランス人〉

1534年、フランスの探検家ジャック・カーティエ(Jacques Cartier)は、ガスペ半島に上陸し、これをフランス領であると宣言した。翌年、彼はセントローレンス川をさかのぼって、インディアン居住地のスタダコナ(現在はケベック市として知られている)とホチェラガ(モントリオール)に達した。

植民化

1604年、フランスから来たシュール・ド・モン(Sieur de Monts)は、ノバ・スコシアのポート・ローヤルに定住地を開いた。フランスの探検家サミュエル・ド・シャンプレン(Samuel de Champlain)は、1608年にケベックに、1634年にはトロア・リビエラに入植地をつくった。

フランスから、ぞくぞくと移民が到着するに従い、ニュー・フランスの植民地は繁栄していった。この期間に、フランスの“Voyageurs”(毛皮商人)は、インディアンとの取引をするため、カナダの奥深く浸透していった。

その間、イギリス人はノバ・スコシアに定着し、1628年には初めて入植地を開いた。1700年以後、イギリス諸島から、その後にはヨーロッパからの移民が、ここに定着した。

18世紀末までに、カナダはかなり探検が進み、フランスとイギリスの毛皮商人と探検家により、地図も作成された。

ニュー・フランスの領有権移動

フランス人とイギリス人は到着した時から北アメリカ大陸の覇権をめぐる敵対関係にあった。1759年には、こうした関係は、ケベックで、アブラム平原の戦闘へと発展した。やがてイギリス人が優勢となり、ヨーロッパでの7年戦争および1763年のパリ条約調印をもって終戦した。かくして、ニュー・フランス(つまりカナダ)はイギリス領植民地となった。

1774年、イギリス議会によるケベック法採択により、フランス人は独自の宗教、民法、言語を保持することを保証された。

1791年、この植民地は上カナダ(オンタリオ)と下カナダ(ケベック)に分割され、それぞれを代表する議会が与えられた。

多くの新移住者の到来

1776年のアメリカ独立宣言以後、イギリス王に対してまだ忠誠心をもっていたアメリカの植民地の英帝国支持者達(United Empire Loyalists)は、上・下カナダおよびノバ・スコシア、ニュー・ブランズウィックに定着した。

1815年にナポレオン戦争が終結した時、彼らは、主としてイギリス本国出身のその他の新来者達といっしょになった。ノバ・スコシアやニューブランズウィックへ出て、木材切り出し場、造船所、漁業などで働いた者たちもいたが、大部分の人々は、上カナダへ行き、やぶを切り拓いて農場にしたり、あるいは、当時、あちこちに生まれつつあった新興の町で、商人・教師・事業家となった。

しだいに、農業が毛皮産業にかわって、主要産業となり始めた。道路、運河が建設された。大小の都市が増えていった。そして、ますます多くの宗教、教育機関が設立されるようになった。

責任政府

責任政府を持つ権利は、1837年の上カナダと下カナダでの政治暴動の結果として生まれた。この時をもって、植民者たちは、自国の政治において、より発言力を持つようになった。

連邦成立

1867年、イギリス領北アメリカ法(British North American Act)により、カナダ自治領が生まれた。これは、オンタリオ、ケベック、ノバスコシア、ニューブランズウィックの4州から成るものであった。1870年、マニトバがカナダの州となり、翌1871年には、ブリティッシュ・コロンビア、プリンス・エドワード・アイランドがこれに続いた。カナダの初代首相は、ジョン・A・マクドナルド卿(Sir John A. Macdonald)であった。

ローヤル・カナディアン騎馬警察

1873年に現在ローヤル・カナディアン騎馬警察として知られるノースウエスト騎馬警察が設置され、ちょうど開けつつあった西部において、法と秩序を維持することを任務とした。

移住

1800年代中頃から鉄道は、どんどん西へと伸びていった。1885年にはカナダ初の大陸横断鉄道、カナダ太平洋鉄道が完成した。

こうなると、移住者がどんどん流入するようになり、1896年～1914年

の間に、カナダに定着した移住者は約300万人にのぼった。西部プレーリーに定着した人々の中には、ドイツ人、スカンディナヴィア人、ウクライナ人、ポーランド人、ハンガリー人、ルーマニア人、ロシア人がいた。また、イタリア人、ユダヤ人の移民も多くいたが、彼らは、オンタリオ州とケベック州の都市部に定着していた。又、1900年以後になると大量の日本人、中国人が、ブリティッシュ・コロンビア州に移住してきた。

20世紀の到来とともに、カナダは偉大な経済的繁栄の時代をむかえることになった。1900年から1910年にかけて、小麦の生産は、年間5,600万ブッシェルから2億万ブッシェルへと上がった。また、鉱業資源の開拓、水力発電、木材切り出し、パルプおよび紙、製造業なども急速に発展した。さらに、金、ニッケル、銀、その他の鉱物の発見もまたカナダの富に寄与することになった。

〈新しい2州〉 1905年に連邦政府は以前ノースウエスト・テリトリーの一部を形成していた土地に、サスカチエワンとアルバータの2州を作った。

〈第一次世界大戦(1914~1918)〉 1914年にイギリスが参戦した結果、カナダもイギリスの植民地として自動的に参戦することになり、兵員、金銭、物資を連合国側に出した。こうして戦争に参加したことにより、カナダは農業立国から近代的工業国へと変換することになった。

〈国際的承認〉 連合国側の勝利に寄与したことにより、カナダは重要な国際的承認をうけるにいたり、1918年の講和に参加し、その翌年には、その年創立された国際連盟への加盟を呼びかけられた。

〈主権〉 戦後、強い国家意識がカナダに胎頭しはじめ、これとともに自国の運命をカナダ人自身の手の中にとりもどそうという、強い自治の意識が生まれた。自治への第一歩は、カナダおよびその他の古いイギリス自治領が参加した1926年のロンドンでの帝国会議においてであった。ここでカナダは、イギリスとイギリス領植民地との地位を平等とすると宣言したのである。最後に、1931年にウェストミンスター法が施行されたことにより、カナダは、完全に独立した主権国家となった。

〈大恐慌〉 1929年までに、カナダは世界的規模の経済恐慌におそわれた。また、この上に、プレーリーでのかんばつが数年間続いた。こうしたことにより、カナダは苦境に立たされることになった。

〈第二次世界大戦〉 カナダは1939年に第二次世界大戦に参戦したが、これは、独立国としての参戦であった。再び、カナダは連合軍側に対し、武装兵力、弾薬、その他の物資を送って貢献した。そして、この第二次大戦への参戦により、カナダは、農業国から工業国への発展を完了した。

戦後の発展

戦後まもない時期に、カナダの人口は飛躍的に増加した。その理由は、高い出生率とヨーロッパからの大量の移住者であった。カナダは、新しい経済繁栄の時代に入った。新しい油田、天然ガス、その他の鉱物資源の発掘に加えて、米国による外国投資が増加したこと等も相まって、カナダは世界有数の工業・貿易国となった。

〈ニュー・ファンドランド合併〉 1949年、その時までイギリス領植民地であったニュー・ファンドランドは、カナダの州となった。この州は、セント・ローレンス湾にうかぶ大きな島、ニュー・ファンドランド島およびラブラドルとして知られる隣接する大陸の一部から成るものである。

〈セントローレンス海路〉 1959年、世界で最大級の水路であるセント・ローレンス海路が開通し、海洋を行く船舶がセント・ローレンス川をさかのぼり、五大湖をとおって、スベリオル湖の西端のサンダー湾まで行けるようになった。

〈カナダ権利章典〉 1960年、議会は、カナダ権利章典を通過させ、カナダに居住する、すべての人間の権利と基本的自由を認め、これを保護するようになった。

〈カナダ建国100年〉 1967年、カナダは建国100年を祝った。この年のハイライトは、モントリオールにおけるExpo '67であった。

〈二カ国語主義〉 1969年、公用語法が発効し、英語とフランス語の二カ国語が連邦政府のすべての機関での使用において、同等の地位をもつことが保

証された。

〈多様文化主義〉 1971年、連邦政府は、カナダに居住する各種様々な民族の文化的伝統を認め、これを保持する政策を発表した。

史 跡

カナダには、100以上の旧跡や名所があり、これらの多くがほぼ原型の状態に修復されてきている。これらの中には、毛皮商人の取引所、戦場、保塁、軍隊の兵舎、古い家々がある。よく知られているものとしては、18世紀のケープ・ブレトン島にあるルイスバーグ砦、セントローレンス川流域の上カナダ村、ユーコン準州のクロンダイク・ゴールド・ラッシュ・インターナショナル史蹟公園がある。

b) 国 民

人 口

カナダはその広大さにもかかわらず、その人口2200万人の大部分がカナダ・米国国境沿いの200マイル(320km)の南部の狭いベルト地帯に住んでいる。この人口稠密ベルトの北部の地域は、鉱山、木材切り出し場、発電所、その他の産業地域、極北の前哨地点などの回りに集落が孤立した状態で散在している。

20世紀の初め、カナダ人は5人中わずか2人が都市部住民であった。今日、カナダは都会人の国であり、人口の3/4は都市に住んでおり、半分が19の大都市地域に集中している。

人口希少な地域に、国民を移住させるにはどうすればよいかという問題は、今後、ますます解決をせまられることになろう。

文化的モザイク

カナダは最初の住民、すなわち原住民すらもが何百万年も前にアジアからこの国に移ってきたことから、しばしば移民の国と言われてきた。

カナダの歴史的、言語的の原点は、フランス語社会と英語社会の2つにあるのであるが、今日、約1/3の人々はフランス系にも、イギリス系にも属してい

ない。

1867年以来、世界各地から1,000万人以上の移住者がカナダにやって来た。1971年の国勢調査によると、アングロ・サクソン系カナダ人は人口の44%を占め、フランス系は28.7%であった。あと23%の人々の出身はヨーロッパで、そのうちドイツ系がもっとも多く、以下、イタリア系、ウクライナ系、オランダ系が続いている。その次が、ポーランド系、ユダヤ系、スカンディナヴィア系である。アジア系のグループのうち、中国人と日本人の数がもっとも多い。原住民（インディアン、イヌイト、メティス）は、カナダ人口の約1.5%を占めている。

最近では、イギリス本島やヨーロッパから来る人々の率は下がっており、その一方、アジアやカリブ海地方から来る人の数が増えている。

人口分布

英語を話す国民はカナダ全体に散在しているが、フランス語を話すカナダ人は、主としてケベック州に集中しており、ここでは、その数が600万人以上にものぼり、この州での多数派を形成している。1971年の国勢調査では、ケベック州以外に住むフランス系カナダ人は、約140万人であった。このうちの多数が、北部オンタリオとニュー・ブランズウィック北西部にいる。こうした人々の比率は、オンタリオ州では人口の10%、ニュー・ブランズウィック州では34%である。カナダ西部では、フランス系の人々は、マニトバ州の人口の9%、サスカチュワン州の人口の5.7%、アルバータ州の6%である。

カナダに最初にやってきたヨーロッパ系移住者のうち、フランス系とイギリス系以外の人々は、平原各州に定着しはじめ、ドイツ人はオンタリオ州に定着していった。最近では、移住者はカナダ全土にわたり定着しつつある。

原住民

（インディアン）最初にヨーロッパ人達がカナダにやって来た時、カナダには11の異なるインディアン言語集団があり、その総数は、当時、20万と推定されている。北アメリカへの移住の初期の頃、政府はインディアンと条約を結び、広大な土地と引きかえに彼らの土地所有権を放棄させた。つまり、居

留地の設定である。ここでインディアンは、わなをかけ、狩猟し、漁労するという狩猟生活および伝統的な生活様式に従うことになった。

今日、29万5,000人のトゥリーティー・インディアン(Treaty Indian)がおり、その2/3が居留地に住んでいる。残りのインディアンは、州の王領に住むとか、別のカナダ社会へと入っていった。

〈ノン・ステータス・インディアン(Non - Status Indian)〉

市民権のないインディアンとは、インディアンの生活様式に従い、王領に住んでいるが、彼らの先祖が、ある時期に自分たちの条約権を放棄してしまったところの人々のことである。市民権をもつインディアンと同じく、この人々も漁労、狩猟、わなによる獲物の捕獲(主に毛皮のため)で生計をたててきている。この部類にはいる原住民の数は約25万人である。

〈メティス〉メティスというのは、インディアンとヨーロッパ系の混血のことである。こうした人々の統計はあまり正確なものがない。国勢調査を行う場合、民族の出身ベースとしては父方の祖先が対象とされるが、メティスの大部分は、インディアンの血統を、フランス人やイギリス人の毛皮商人と結婚した母方の祖先にもっているからである。中でもフランス系メティスは、その最初のものであり、数も最も多い。彼らは、もともとこの地へ、オタワ河や五大湖北部周辺の土地から来たものである。

〈イースト(エスキモー)〉ノースウエスト準州、ケベックの北極圏、ラブラドル地方などに散在する50程の集落に、約18,000人のエスキモーがいる。今日、彼らの伝統的な生活様式はほとんど消え去っており、土地からの取獲物で生計をたてている者はほんの一部である。大多数は、臨時の賃金労働、工芸品の製作・製造、また、狩猟、わな、漁労などの種々のものから所得を得、生計をたてている。

〈新しい生活様式〉カナダ原住民が生活様式の変化に適応し、その他のカナダ人と同様の機会を享受できるようにするために解決しなければならない問題はたくさんある。居住区の付近には、しばしば限られた雇用の機会しかないので、多くの原住民は大きな町へやってくるが、既して、インディアンの都市生活へ

の適応は非常に困難である。そこで、インディアン・北方開発省は、現住民やその委員会、組織とともに活動しながら連邦レベルでの各種サービスの調整や援助プログラムの管理をしている。

c) バイリンガリズム

カナダは二カ国語国家であり、フランス語と英語が公用語である。歴史を通じて、フランス語系と英語系の2大勢力の存在は、カナダの国家形成の過程に大きな影響を及ぼしてきた。

1963年に連邦政府は、カナダにおける言語と文化に関連したさまざまな問題の調査を行う機関として、二カ国語主義および二文化主義に関する委員会（B & B委員会）を設置した。この委員会の勧告に基づく成果の一つに1969年9月の公用語法の通過があった。この法の下で、フランス語と英語がカナダの二つの公用語として認められた。つまり、この二カ国語は「カナダ議会ならびに政府のすべての機関での使用については、同等の位置、権利、特権を有する」ということである。

連邦政府は、これにより、フランス語、英語をそれぞれ話すカナダ人が、自分の母語でカナダ政府の各種サービスの取扱いができた働けるような政策実施のためのいろいろなプログラムを作った。

法案22号（ケベック公用語法）

最近のケベック州におけるフランス語使用度の急速な減少は、フランス語系市民にとって、無関心ではいられない段階になってきている。

これには、二つの要因がある。一つはケベック州の出生率が激減していること、もう一つは、ケベック州にやってくる英語使用の移住者の数や、子供を英語学校に通わせる人の数がふえてきたことである。

そこで、フランス語と文化を保護するため、ケベック州政府は、法案22号を提出した。1974年の施行とともに、フランス語はケベック州の業務言語となった。

d) 多様文化主義

基盤となる二大民族の平等の問題を調査する目的で、1963年に二カ国語

主義および二文化主義に関する委員会が設置された時、同時にその他の民族による文化的貢献の考慮も要求されていた。その報告書の中でB & B委員会は、カナダの多数の民族がもっと充分社会の中に統合され、彼らが、カナダの発展と繁栄のためにはたしてきた。そしてこれからはたしつづけるであろう役割が正しく評価されることをめざす諸策を勧告した。

その結果、1971年10月カナダ首相は、政府の多文化政策を発表することとなった。これを発表する際、首相は「カナダには2つの公用語があるが、公用的文化などというものはない」と発言した。

本政策の目標は、その出身にかかわらず、すべてのカナダ人がカナダを自分たちの母国と感じるようにすることであり、それは又、個人およびそれぞれの集団がカナダ社会への帰属意識を持つと同時に、それぞれの伝統の価値と誇りを保持するよう促がすということである。

このことはさらに、個人や集団が相互に作用し合うことにより、すべての文化が再び生氣をとり戻すことを可能ならしめ、そこで美術や音楽、ダンス、演劇、文学の分野での自由な表現が出来ることになるであろう。

各種の連邦政府省庁が、この政策の実施に加わっているが、もっとも直接に関わっているのは、国務省(Department of the Secretary of State)である。

e) 宗 教

宗教の自由は、カナダの生活での重要な部分を占めている。この権利については、1960年に議会を通過した、「人権と自由の承認と保護に対する法」の中に確認されている。

カナダでは、教会と国家は分離しているが、教会が国家の良心として、行動することがよくあり、ある一定の問題においては、教会の政府に対する抗議(陳情)もそれなりの成果を得てきている。

カナダ人の大半はキリスト教徒である。次いでユダヤ教社会が古く、大きく、そして宗教的影響力をもつ集団である。キリスト教社会と比較すればはるかに小さいが、ユダヤ社会はカナダの生活、また、文化面において多大な貢献をし

てきた。

1971年の国勢調査によれば、カナダ人口の75%はローマン・カトリック、統一教会、英国国教会に所属している。

プロテスタントの宗派のうち、統一教会会員が数の上で一番多い。これが成立したのは1925年であり、メソジスト、組合教会主義、長老教会の流れが一つに合併されたものである。1940年以後は、統一教会、英国国教会、キリスト教会使徒派(Disciples of Christ Churches)が統一について論じたが、まだ統一は実現していない。

長老教会ルター派、バプテリスト派の信教者は、人口の約12%である。

カナダでの小規模宗派としては、クエーカー教徒、メソノー派、ハッテリット派がある。ハッテリットというのは、共同体的集団に組織された農民の社会で、強い宗教心と家族的きずなをもっている。

都市部にあつては、かなり大規模で、かつ増加傾向にあるグループとして、イスラム教、仏教、ヒンズー教、シーク教がある。大都市に主として限られているとは言え、ユニタリアン教徒は、相当数の影響力をもつ市民を、その信徒の中にもっている。

最近のカナダにおける宗教生活のきわだった特徴は、キリスト教とユダヤ教、プロテスタントとカトリックといった、大きな宗教団体間の協力である。キリスト教・ユダヤ教カナダ委員会は、1940年代にスタートしたものであり、両者の関係を打ちたて理解を深めていくことについて、大きな貢献をした。この組織は、カナダにおいて、同胞週間(Brotherhood Week)の後援をしている。1960年代には、ローマン・カトリックとプロテスタントの信徒が礼拝式などをいっしょに行ない、聖堂の共同使用を始めた。1967年のカナダ百年祭にはExpo '67で、キリスト教パビリオンの建設を協力して行なった。

最近、カナダ各地で、福音主義者グループの数が急に伸びてきている。中でもペンテコスタルズ(Pentecostales)は、最大の組織グループである。

f) 芸術と文化

カナダの芸術は多数の異った民族、すなわちフランス人、イギリス人、原住民、世界の各地からカナダを故郷として選り移住してきた何百万もの人々の文化表現を反映しているが、さらにもう一つ重要な影響力として、カナダのもっとも親しい友人、米国の存在がある。

カナダは、今、文化的には、歴史上かつてなかったほどに活力がある。ただ芸術活動の量が多いというだけでなく、芸術への関心がこれほどまでに広範に行き渡ったことはないであろう。

〈演劇〉

カナダは二カ国語国家であるため、国民は英語とフランス語の両方の言語で劇を楽しむことができる。オンタリオ州ストラットフォードにおけるストラットフォード・シェイクスピア祭、モントリオールのヌーボー・モンド劇団は、両方とも国際的な名声を勝ち取っている。その他の職業劇団としては、トロント、モントリオール、ハリファックス、ウィニペグ、バンクーバーに拠点を置いてあるものがある。前衛劇は、トロントとモントリオールで盛んである。アマチュア演劇は、カナダでは深く根をおろしており、ほとんどの都市にも、大小に関わらず、少なくとも一つはアマチュアグループがある。

劇場での演劇だけが、カナダ人俳優にとっての舞台ではない。カナダ放送協会(The Canadian Broadcasting Corporation)は、もう一つの政府機関である国立映画製作局(National Film Board)と同様に、ラジオとテレビの両分野で、カナダの俳優の向上を助けるのに役立ってきた。

モントリオールにあるカナダ国立演劇学校は、英語およびフランス語の演劇に関して、俳優、制作、演出家の職業的養成をする学校であり、カナダ中から学生を集めている。

舞台芸術

〈舞踊〉

カナダには、三つの職業バレエ団がある。国立バレエ団、ロイヤル・ウィニペグ・バレエ団、カナダ・グランド・バレエ団であり、すべてが、国内外を問

わず名声をはせている。またよく知られたカナダの舞踊グループとしてはモントリオールのフォークス・フォレット(Feux-Follets)があり、エスキモーとカナダインディアンの舞踊を専門にしている。

〈音楽〉

カナダには、25以上の交響楽団があり、このうち8〜9は職業的楽団で残りも部分的には職業楽団となっている。トロントとモントリオールの交響楽団が、このうちもっともよく知られており、国際的名声をもつ指揮者がいる。米国並びにいくつかのヨーロッパ諸国のオーケストラの有名な楽団が、定期的にカナダを演奏旅行している。また、カナダには、三つの職業歌劇団がある。

〈フェスティバル〉

一年を通じ、カナダ各地で開催される演劇、音楽の様々なフェスティバルに加え、「フェスティバル・カナダ」がある。このナショナル・フェスティバルは、7月いっぱい首都で開かれるもので、7月1日のカナダの建国記念日を祝って行なわれる。このフェスティバルでは、様々な大衆芸能や文化芸術が演じられる。

夏の間はずっと、この国のどこかで多様文化のフェスティバルが開かれている。1974年7月、カナダ・フェスティバルの一環として国が主催する多様文化フェスティバルが初めて開かれた。41のアマチュアの民族舞踊、興行グループが各州から参加し、52の民族を代表していた。

〈国立芸術センター〉

オタワにある国立芸術センター(National Arts Centre)は、1969年にオープン、カナダにおける芸術活動の焦点となっている。2300の座席をもつオペラ・ハウスのほかに、劇場2つ、書店が1つあり、このセンター内には2つのレストランがある。マリオ・ベルナルディ指揮の下にある46人構成の専属オーケストラは、この規模では世界の最高アンサンブルの一つだと考えられている。

視覚芸術

〈絵画と彫刻〉

カナダの画家、彫刻家は、現在、広い国際的潮流を発展させるとともに、カナダの国家意識の胎頭を反映するきわだったカナダ様式を発展させている。

第一次世界大戦が終了したころ、グループ・オブ・セブンとして知られる7人の画家たちにより、カナダの風景画の特徴のある新しい画風が生まれた。もっとも有名だった画家としては、A. Y. ジャクソン (A. Y. Jackson)、F. H. バリー (F. H. Varley)、アーサー・リスマー (Arthur Lismer) がいた。カナダで有名な女流画家の一人、エミリー・カー (Emily Carr) は、グループ・オブ・セブンの現代画家であり、西海岸インディアンの彫刻の面や森林風景画の作品で知られている。

現代の画家、たとえば、アルフレッド・ペラン (Alfred Pellan)、ジャン・ポール・リオベル (Jean-Paul Riopalle)、ハロルド・タウン (Harold Towne) 達は、ヨーロッパ人芸術愛好家によく知られている。その他のよく知られた芸術家としては、ジャン・ポール・ルミオ (Jean-Paul Lemieux)、ジャック・シャドボルト (Jack Shadbolt)、ジョゼフ・プラスケット (Joseph Plaskett)、アンソニー・ソーン (Anthony Thorn)、アルマンド・バランコート (Armand Vaillancourt)、ジョイス・デブリン (Joyce Devlin)、ブルース・ガーナー (Bruce Garner) がいる。

〈国立美術館〉

オタワにあるカナダ国立美術館は、存在しているカナダの美術品のもっとも重要かつ大規模なコレクションがある。また、ここには、フランス印象派の画家たちと巨匠たちの絵画の大きなコレクションもある。このギャラリーの移動展覧会はカナダ中をまわっており、絵画複製所は、北アメリカでもっとも施設のととのった、りっぱな製作所であると見なされている。

博物館

カナダには、数多くのすばらしい博物館とギャラリーがある。国立博物館はすべてオタワにあり、カナダ国立博物館公社の運営となっている。この中には国立美術館、国立人間博物館、国立自然科学博物館、国立科学技術博物館がある。トロントにある、ローヤル・オンタリオ博物館は、カナダ最大の芸術・考古学博物館である。また、営利を目的としないで運営されている一般的また専門的美術館が、各州に多数ある。

長年の間、歴代の政府は、ほんの限られた数のカナダ人だけが、国立博物館やその他の重要な博物館のコレクションを見ることができるのだという考えであった。しかし、1972年3月に連邦政府が発表した新しい博物館についての政策の結果、約20の代表的な博物館からなるネットワーク（国立博物館を含む）が設置された。展示物の交換、移動ユニットの使用により、今では以前よりもはるかに広範な階層のカナダ国民がこのコレクションを身近に見ることができるようになった。

文学

カナダの作家もまた、文学の分野において顕著な活躍をしている。カナダがこれまで生んだもっとも有名な作家は、おそらく、故ステファン・リーコック (Stephen Leacock) であろう。また、もう一人よく知られた作家に、マゾ・デ・ラ・ロシェ (Mazo de la Roche) がいる。

現代作家としては、ヒュー・マクレンナン (Hugh McLennan)、モーデケイ・リッチラー (Mordecai Richler)、ガブリエル・ロイ (Gabrielle Roy)、ピエール・バートン (Pierre Berton)、フバート・アギン (Hubert Aquin)、ロバートソン・デイビス (Robertson Davies)、アービング・レイトン (Irving Layton)、マリー＝クレール・ブレイズ (Marie-Claire Blais)、アン・ヘバート (Anne Hébert)、マーガレット・アトウッド (Margaret Atwood)、マーガレット・ローレンス (Margaret Lawrence)、イブ・テリオル (Yves Thériault)、ファーリー・モワット (Farley Mowat)、ブルース・ハチンソン (Bruce

Hutchinson)、レオナルド・コーエン (Leonard Cohen)、グレイティン・ゲリナス (Gratien Gélinas)、ミッシェル・トレンブレイ (Michel Tremblay) がいる。カナダは、毎年、文学賞を授与し、作家たちを表彰している。文学については、総督賞、ユーモアに対してはリーロック記念賞、フランス語文学についてはケベック州賞がある。

芸術に対する援助

第二次世界大戦後、すべての政府レベルで、つまり連邦政府、州政府、自治体政府で、すべての芸術に対する公的基金活動が栄えんになってきた。連邦政府機関であるカナダ委員会 (the Canada Council) は、1957年の創設以来、何百人ものカナダ人画家、詩人、作家、画家に対し援助を与えてきた。

カナダには文化省というものがないが、国務局はしばしば、非公式的な「文化省」であると言われている。長官は、議会のスポークスマンであり、次の機関に対しそれぞれに応じた責任を負っている。カナダ放送協会 (CBC)、国立映画製作局 (NFB)、全国図書館および公文書保存所、カナダ委員会、カナダ映画産業振興公社、国立博物館公社、国立芸術センターである。

g) カナダの首都

オタワは、カナダの首都であり、オンタリオ州にある。オタワ川の南岸に位置し、南部からはリドウ川が、北部からは、ガティノー川が合流する地点である。この川のケベック州側のガティノーの丘は、国会議事堂や人口約30万人のこの近代的都市の高層ビルの美しい背景となっている。

「オタワ」という名称は、アルゴンキン・インディアンの一部族の名を英語化したものである。この部族は、ヒューロン湖あたりの出身で、フランス人との取り引きのため川をさかのぼってきた人々であった。オタワ地域には、1800年に初めて定住民があらわれ、1826年には一連の運河が建設されこれがオタワ川とオンタリオ湖の都市、キングストンをつないだ。この初期の定住地は、この運河の設計者であるバイ大佐 (Colonel By) にちなんで、「バイタウン」と命名された。1855年までに、バイタウンは都市となっていたが、1858年にはオタワと名を変え、ビクトリア女王により国の首都と

して選ばれた。

首都圏は、オタワとハル市からなっている。ハル市は、ケベック州のオタワ川の北岸にある町である。この地域は、約8 8000エーカー（3 5200ヘクタール）のガティノー丘陵の森林公園（ガティノー公園）を包含しており、他の4 4000エーカー（1 7600ヘクタール）の公園が大きな半月形の形をえがき、オタワの南部を一部とりかこんでおり、これはグリーンベルトとして知られている。

首都委員会（The National Capital Commission）は連邦政府機関で、首都圏の開発に責任を負っている。

美しい自然の背景とともに、みごとなドライブウェイ、歴史的建造物、多くの文化活動のあるこの首都オタワは、多くのカナダ人、そして各国からの旅行者を引きつけている。

1 - 3 政 府

a) 行政機構

行政機関

カナダは、10州と2つの北部準州から成る独立国である。また三段階の行政機構をもつ民主主義の国である。すなわち、連邦政府、州もしくは準州政府および地方自治体の三つである。

行政府の管轄圏

イギリスの領北アメリカ法(カナダの成文法)の下で、国家全体に影響する問題についての責任は連邦政府に課せられており、一方、地域的な関心事については、州政府が負うようになっている。しかしながら、実際は多くの領域において、連邦政府と州政府の責任は重複している。こうした場合、各種プログラムの立案や財政は協力して行なり。たとえば農業、環境、健康、福祉問題がそうである。

〈連邦政府〉

オタワの連邦政府の主要な任務としては、国家の防衛、外交、移住、通商、通貨、金融、刑法、漁業、航空、船舶、郵便事業が含まれる。連邦政府はまた、インディアン問題、カナダの北方開発にも責任を負っている。

〈州政府〉

州政府が管轄している分野としては、民事・刑事裁判、市民・財産権、教育、病院、免許認可、結婚、自治制度、労働条件に関する規制などである。

〈地方自治体〉

自治体が責任を負っているのは、たとえば、警察、消防、地方裁判所、監獄、道路、公衆衛生事業である。自治体は市、町、村、タウンシップ、または、こうした行政区の合併したものから成っている。自治体権力は、

それらが位置している州、準州により規定されているので、それぞれ異なっている。しかし、各自治体は、選挙により選ばれた委員会が行政権をもっており、この長が市長リーブ (Reeve)、オーバー・シアー (Overseer)、ウォーデン (Warden) と呼ばれる。

連邦政府

カナダの議会制は、イギリスの政府機構を手本としたもので、1867年のイギリス領北アメリカ法により設立された。この法によると「カナダには女王、上院および下院で構成される議会を置く」と規定している。

〈首 長〉

エリザベス二世がカナダの正式な国家元首である。また、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの女王でもある。しかしながら、その権限のほとんどは総督（現在ではつねにカナダ人）が代理として行使しており、女王は、総督を通常は一期5年で、内閣の勧告をうけて任命する。

総督の任務は形式的かつ儀式的なものであり、政府法案に勅裁を与えたり、議会の開会、閉会を行ない、代表国の訪問を受けたりすることがその主なものである。

〈首 相〉

カナダの真の行政権は、首相と内閣がうけもっている。首相は、総選挙で下院の議席を多く勝ちとった政党の党首となる。

〈内 閣〉

首相は、下院議員として選出された自党の議員の中から閣僚を選ぶ。各省大臣は、各種の政府機関の指導者である。国家の政策は内閣により立案されるが、その決定は下院議員の多数決による支持を得て法となる。

〈公共事業〉

各省庁には公務員がおり、次官がこの長である。こうした官僚が内閣の諸策と政府の決定を実施に移す。

〈下院〉

下院の議員数は264名であり、ここには首相、閣僚とその議員および野党議員を含んでおり、これは、選挙によって決められる。任期は最大5年であるが、選挙は、首相の自由裁量により、これよりも早期に実施されることがある。

〈野党リーダー〉

連邦選挙において、第二に議席を獲得した党の党首が、正式に下院野党リーダーとなる。政府の一切の活動を検討し、同意しないものについては批判することが、野党およびその他の下院議員の責任である。

〈政党〉

現在、下院には4つの政党、つまり自由党、進歩保守党、新民党、社会信用党が議席をもっている。

〈上院〉

上院は、首相の推選にもとづき、総督が地域的ベースにより指名した102人の議員から成っている。上院は、下院から送られてきたすべての立法の検討をし、通過もしくは却下する。また、上院は公共の基金の支出とは関係のない、小規模な立法措置に着手することもある。

立法過程

カナダでは新たな立法は、議員による法案の提出により始まる。この場合、議員個人による法案提出もめずらしいわけではないが、だいたいが閣僚によるものである。

すべての政府法案は、これが立法化され、法となる前に下院と上院とで三度くりかえして読まれたなければならない。もし、ある法案が下院を通過しても、上院により変更されたり、却下されることがある。しかしながら、重要な法案が、上院によって無期限に留保されることはありえない。すべての法案は、総督により勅裁を与えられる。

総選挙

5年を過ぎることなく総選挙を行わなくてはならないが、政府が必要な支持をもはや持ちえない場合には、もっと早期に実施されることがある。

(政府が、下院の信任を失った時、政府は辞職するか、もしくは総督から解放を要請するかして、総選挙にはいる。)

〈選挙区〉

総選挙のため、カナダはいくつかの選挙区に分けられており、これは人口分布状況により定期的に再調整されることがある。

各政党を代表する候補者は、こうした選挙区を基盤として選挙に立候補する。総選挙前の運動中、候補者は大衆集会、ラジオ・テレビのインタビュー、選挙民との会合などを通じて、自分の見解を人々に知らせる。

〈投票〉

一般に18才以上のカナダ人は連邦レベル選挙の選挙権を持つ。投票は秘密投票で各人が一票ずつ持つ。投票日の何日か前になると、有権者の一覧表が各選挙地区にはり出される。投票日に、選挙民は近くの投票所に行き、投票箱に票を投ずる。

開票の結果、多数の票を獲得した候補者が当選となり、次回議会から、自分の選挙区を代表する代議士となる。

州政府

カナダには、10の州政府があり、それぞれに州知事が長として立ち、選挙によって選ばれた州議会が構成されている。

州知事は国王の代理で、通常、5年任期でカナダ総督が首相の勧告にもとづき任命する。州政府に上院はない。

州選挙の最年少有権者は18～21才で州により異なる。

準州

ユークン準州は、カナダ政府により任命されたコミッショナー1人と7人制の選ばれた人々の委員会が行政権を持っている。ノースウエスト準州は、

カナダ政府が任命したコミッショナー1人と14人からなる委員会(このうち4人は任命、10人は選挙)が行政権をもっている。

b) 立法制度

連邦政府、州政府、準州政府もすべて、それぞれの管轄の枠内においての立法権をもっているが、法的紛争と法解釈は、裁判所の責任である。

カナダにおいては、連邦政府は英国刑法を採用しており、すべての州がこれを施行している。

民法はイギリス慣習法が基礎となっており、ナポレオン法典を使っているケベック州を除き、すべての州でこれが採られている。

裁判所

裁判所は全国にくまなく設立されている。この中には町村レベルの法廷から、終審裁判所であるカナダ最高裁判所までがある。

ある個人が、別の個人、集団または組織によって、被害もしくは不正をこうむったと感じた時、その人はこの問題を法廷にもちこむ権利がある。もしその決定に不服であれば、その個人はより上級の裁判所に控訴する権利をもつ。

〈州裁判所〉

州裁判所は、その州の法に基づいて設立され、次のようなカテゴリーにわけることができる。

- 家庭裁判所、少年審判所、刑事裁判所、小額負債裁判所　こうした裁判所で、小規模の民事、刑事の問題が取り扱われる。
- 地方裁判所 — こうした裁判所は、小額負債裁判所の管轄を超えた訴訟に関する事件を扱い、重大な犯罪以外の刑事事件を扱う。
- 最高裁判所 — 額の大きい金銭のからむ民事事件、重大な犯罪事件はここで取扱われる。

〈連邦裁判所〉

カナダ最高裁判所は、民事、刑事において、カナダ最高の法廷であり、また、州の控訴裁判所、カナダ連邦裁判所からの控訴を受けている。

カナダ連邦裁判所は、税制、商標、著作権、特許、海事、航空法などに関する件を取扱う。また、連邦政府に関する訴訟も取扱う。

その他の連邦裁判所には、税制検討理事会、軍法廷控訴裁判所、移住不服申立て委員会などの特別法廷がある。

判 事

カナダでは、判事は、管轄がどこにあるかによって、州政府または連邦政府により任命され、そのいずれか一方から給与をうける。判事は政治からは独立しており、干渉や指示をいっさいうけることなく、職務を遂行している。

法的援助

何人も、判事や陪審員が「その人間は有罪である」と確信するに足るような、合理性をもった証拠によって裏打ちされない限り、有罪の決定をされない。

最近では、たいていの州政府は、公けに基金をつのる法的援助システムを確立して、その財政状況により、無償もしくは適度な費用で裁判をうけられるよう、経済的に限度のある人々への援助を企画している。その内容は、州により異なるものであるが、目的は人々がその経済状況にかかわらず、適切な法的措置を受けることができるようにするということである。連邦政府は、州政府に財政的援助を行っており、これは刑法に関する訴訟事件の際に出される法的援助の費用、また、えん罪を着せられた人に対する補償にあてられている。

警 察

警察力は、連邦、州、自治体の各レベルで設定されている。ある地域の一般的警察業務は、自治体の責任である。独自の警察力をもっていない自治体は、連邦もしくは州の警察を利用する。

州警察官の任務は、パトロール、州道の交通整理、重大犯罪調査における自治体警察への助力、中央情報サービスなどが含まれる。

〈RCMP (Royal Canadian Mounted Police)〉

RCMPは、連邦政府が維持している民警である。RCMPは、ユーコンとノースウエスト両準州における唯一の警察力であり、独自の警察力をもたない、すべての州で仕事に就いている。さらに、この警察は、麻薬、密輸、商業サギ、移住、政府財産および高官の保護などの多くの連邦政府の法と秩序のために責任を負っている。

RCMPは1949年以来、国際刑事警察機構 (Interpol) に属している。

c) 外交関係

カナダは主要な中堅国家として、平和と国際的繁栄の道を引き続き求めており、技術・経済援助を通じて、あまり思われていない諸民族がよりより社会・経済状況を求める運動に関与し、より広範で自由な国際通商活動を追求している。

カナダの、国際関係の確立など外交問題の責任機関は、第一に外務大臣と外務省である。

国連加盟

カナダの外交政策における基本的姿勢の一つとしては、カナダが憲章加盟国として参加したところの、国際連合での役割を積極的に演じていくということがある。1946年以来、カナダは食糧、医療援助、教育プログラムなどを、それを必要としている国々や発展途上にある国々へ送るなど、国連各機関を通じて貢献に努めている。

カナダは、また、国連において、国際的軍縮討議にも積極的である。

英連邦

カナダは、かつては大英帝国の一部であったが、今は独立国家となっている国々が自発的に組織した英連邦の、その初めの時期からの積極的なメンバ

一であり、これらの国々と多くの価値と伝統を共有している。コロンボ・プランその他のプログラムの下で、英連邦内の開発途上国に対し、かなりの援助を行なっていることに加え、カナダは、この32カ国から成る英連邦の将来の発展と変化に対し多大な貢献をしてきている。

フランス語社会

カナダは、*フランス語圏・文化技術協力機関(The Agency for Cultural and Technical Cooperation of Francophone Countries)の創設時からのメンバーである。この機関は1970年に創立され、フランス語およびフランス文化の伝統を共有する国々間の関係を進展、強化する目的をもっている。この機関のプログラムや活動には、青年の交流、国際映画祭教育、科学研究などがある。

開発援助

カナダが国際的開発援助に関わり始めたのは、1951年コロンボ・プランの創設メンバーとしてであった。このプランは、南アジア、東南アジアの新興独立国を援助する目的で創られた。もちろん、これらの国々は、今でも主要な援助対象地域であるが、カナダの技術・資本援助は、現在、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ、英連邦カリブ地域等約70カ国に広がっている。カナダ国際開発機関(CIDA)は、援助に責任を持つ組織である。

カナダと米国

カナダと米国の関係ほど、隣国との関係が親密かつ友好的関係であるような国はほとんどない。カナダと米国は、世界的にも長い国境線に防衛手段もたず、共通の伝統、同程度の生活水準を有している。時として、違いは起こるものの、この二つの国民、政府の関係の基本的な性格は、友好的であり、かつ相互理解、協力への恒常的努力を続けている。この二国は、国際合同委員会という、国境河川、運河、両国に影響を及ぼす政策などの問題解決のために創設された委員会でのパートナーである。

d) 防 衛

カナダの防衛政策は、カナダの主権を保持し、集団安全保障により世界平和の維持に貢献するという目的にそったものである。国家の防衛に関するすべての問題の管理・運営の責任は国防長官が負っている。

NA TO

カナダは北大西洋条約機構の一員として、ヨーロッパに勃発するかもしれない一般的紛争の危険を減じる目的で、軍隊およびその装備に力を入れている。NA TO加盟国は、また、カナダ人外交官が他のNA TO加盟国と政治、経済、文化、科学の問題について情報の交換を行なうためのフォーラムを設けている。

カナダ-米国防衛

カナダと米国は、NA TOの下にある北米防衛空軍総司令部(NORAD)による相互協力を目的として連けいしている。1940年以来、両国は大陸の防衛を進めるための防衛常任合同委員会(The Permanent Joint Board on Defence)にも属している。

カナダの防衛と外交政策の重要な部分としては、特に国連の下で行なわれる平和維持・休戦委員会をあげることができよう。

軍 隊

1968年2月1日のカナダ軍改組法の下で、王国カナダ海軍(Royal Canadian Navy)、カナダ陸軍(Canadian Army)、王国カナダ空軍(Royal Canadian Air)は統一され、一組織となりカナダ軍(Canadian Armed Forces)と呼ばれている。

軍の兵役は完全な志願制である。

1 - 4 経 済

a) 交通・通信

カナダの広大な土地と散在する人口は、どうしても効率のよい連絡手段を必要とする。電信電話、ケーブル網のネットワーク同様、奥地までのびた鉄道、道路、その他の輸送経路により、各コミュニティは連絡を保つことができ、カナダの発展の重要な役割を演じている。

輸 送

〈水上交通〉

12の主要港とともに水上交通は、カナダにとり非常に重要である。モントリオールは、海から1,000マイル(1,600km)離れた内陸地の港であるが、その規模は世界最大級である。1959年にセント・ローレンス水路が完成したことにより、五大湖は、世界の水上輸送の80%にまで開放された。この水路の所有・運営はカナダと米国の合同によるものである。

〈鉄 道〉

鉄道はカナダの輸送網のバックボーンである。大陸横断鉄道は主要なものが2つある。政府所有のカナダ国有鉄道(CNR)と民間のカナダ太平洋鉄道(CPR)である。鉄道経営のほかに、この両者とも全国電信電話網と大きなホテルチェーンを運営している。

〈道 路〉

カナダの道路は延べ50マイル(80万km)におよび、そのうち5,000マイル(8,000km)が、大西洋岸から太平洋岸へのびているカナダ横断ハイウェイである。連邦政府は、北部開発計画の一部として、ニューコン、ノースウエスト両準州に、道路網を建設中である。

〈自動車〉

多くのカナダ人にとり、バスは基本的な交通手段となっている。労働人

口の約3/4が、自家用車を利用して仕事に出かけているが、車を持たない人のため、公共交通網がすべての都市に整備されている。また、都市と主要な町・村をつなぐ都市間バスも広く普及している。

〈空 路〉

カナダには、二つの国際航空がある。公営のエア・カナダとCPRの子会社であるカナダ太平洋航空である。両方の航空会社とも、カナダの主要都市と多くの世界の首都をつないでいる。国内航空は、カナダの北部を含めたその他の地域をつないでいるが、それらは、バンフィック・ウェスタン航空、トランス・エア、ノード・エア、ケベック・エア、イースタン・プロビンス航空である。

〈パイプライン〉

6,200マイル(9,920km)以上の長さにおよぶパイプラインが、西部平原からカナダと米国各地に石油とガスを運んでいる。主要パイプラインは、ロッキー山脈から西海岸、南下して米国へ、そして東に進んで五大湖とセントローレンス川の岸に沿った工業地帯にのびている。

電信・電話

〈電 話〉

カナダの電話システムは、世界でももっとも近代的なものであり、カナダ人の電話使用率は非常に高い。現在では、長距離電話オペレーターの呼び出しなしで、北アメリカのほとんどの所と直接ダイヤル通話ができる。

〈ラジオ・テレビ〉

カナダ・ラジオ・テレビ委員会(CRTC)は、ラジオ、テレビ、有線テレビ等、カナダの放送のすべての側面について規則をつくり、監督している。

〈公共放送〉

カナダ放送協会(CBC)は全国に放送事業を行なっている。そのラジオ・テレビ施設は大西洋岸から太平洋岸へ、そして極北へと伸びている。英語放送のネットワークの中心地はトロントであり、フランス語放送につ

いてはモントリオールである。

CBCの北方サービスは、北部地域に全国・地方のテレビ・ラジオ放送、短波放送を行なっている。1973年、最初の通信衛星であるアニク（イヌイト語で「兄弟」の意味が上げられ、カナダ北部の遠隔地域にもテレビ・ラジオ放送が送れるようになった。

CBC放送の短波放送である「カナダ国際放送」は、毎日11の言語でヨーロッパ、アフリカ、ラテン・アメリカ、カリブ海地域、北アメリカ、オーストラリアに放送している。本部はモントリオールにある。

〈民間放送〉

カナダの民間放送は、200を越すAM放送局、50のFM放送局、50のテレビ局、二つのネットワーク、また数多くのラジオ中継局をもっている。映画、テレビ製作は、最近では民間においてますます競争性が高くなってきた。

〈各国語放送〉

CBCは、それぞれ異なったラジオ、テレビの番組を通じて、諸民族のさまざまな文化、関心事、意見を反映させようとしているが、まだ各国語放送事業にとりかかっているわけではない。しかし、現在、その可能性をめざして研究中である。それでも、カナダ中の民間のラジオ・テレビ局の多くが1週間のうち、数時間は各国語放送を行なっている。

〈公共電信システム〉

カナダの電報事業を行なっているのはCN-CPテレコミュニケーションズで、テレックス・サービスも行なっており、カナダ最大のテレタイプライター事業を行なっている。テレックスは直接的な長距離ダイヤル、テレプリンターであり、これにより、ネットワーク内の加入者同志はだれにでも互に利用出来る。

郵便事業

郵便事業は、連邦政府の管轄下であり、事業地域は全国各地に及んでいる。1等郵便物は、配達手段として最も迅速である航空便で配達される。郵便番号制をカナダが導入したのは1971年4月で、これにより、郵便物の分け作業が前よりも速くできるようになった。

マスメディア

〈新聞〉

新聞はカナダの歴史の中でも重要な役割を果たしてきた。言論、出版の自由の獲得はもちろん、カナダにおける「責任政府」、*Confederation（連邦制）の制度的確立から、最終的には完全な自治権の獲得にいたるまでの過程自体、新聞論調に負うところが大きい。

今日、新聞はカナダ国民にとって主要な情報源、娯楽源である。100以上の英語版、約10のフランス語版日刊紙のほか、900の週間紙、隔週紙があり、このうち100以上がフランス語である。さらに母語がフランス語でも英語でもないカナダ人のために、約90の各国語の新聞がある。これとともに、無数の消費者向け、文化的、レクリエーション的出版物がある。

カナダには、全国紙というものはなく、バンクーバー、トロント、モントリオールで発行される多くの日刊紙が、各州を中心として、州外にも普及している。カナダの日刊紙は、ほとんどが集団所有であり、そうした日刊紙の約10紙ほどで、全国発行部数の3/4以上のシェアを占めている。

カナディアン・プレスは、国営通信社でこれを共同所有し、運営している100以上もの日刊紙に、カナダ内外の情報を提供している。

〈映画〉

1968年まで、カナダには特色をなすような映画産業がなかった。この年に政府は、映画産業振興公社を設立し、映画製作者に対する財政援助をすることにより、この産業の振興を目的とした。

国立映画製作局は1939年に創設された連邦政府の一機関であり、カナダ内外での上映を目的とした、英語、フランス語のドキュメンタリー・フィルムを製作し、こうした映画で数々の国際的な賞をうけている。国の製作施設は、モントリオールにセンターを置いている。

b) 財 政

通 貨

カナダの通貨は十進法で、100セントが1ドルである。カナダ銀行によって発行されている紙幣は、それぞれ1ドル、2ドル、5ドル、10ドル、20ドル、50ドル、100ドル、1,000ドル紙幣である。このうち、最初にあげた5種類の紙幣がもっとも多く流通している。

一方、硬貨は、1ドル、50セント、25セント、10セント、5セント、1セントが王国カナダ造幣局から発行されている。

銀行制度

カナダにおける主要な銀行としては、特許銀行がある。これは、カナダ協会が出した許可や認可に基づいて営業するものである。カナダの特許銀行は、預金、ローン貸付け、外貨の取扱い、貴重品預りなど、巾広い各種の銀行業務を行なっている。銀行は、銀行法という一つの法の下で営業活動を行っており、この法の下に、全国の銀行制度は統一されている。特許銀行は全国で10行ある。モントリオール銀行、ノバ・スコシア銀行、トロント・ドミニオン銀行、カナダ・プロビンスアル銀行、カナダ・インベリアル商業銀行、カナダ・ローヤル銀行、カナダ・ナショナル銀行、カナダ・メルカンティル銀行、ブリティッシュ・コロンビア銀行、ユニティ銀行である。

特許銀行の他に、カナダにはその他種々の銀行がある。協同信用組合は、会員の貯金をプールし、ローン貸付もやっているが、これは、すべての州にある。ケベック州においては連邦憲章の下で営業しているのは、貯蓄銀行が一行であり、それはモントリオール・シティ・アンド・ディストリクト貯

蓄銀行である。ニュー・ファンドランド州、オンタリオ州、アルバータ州では、預貯金のための諸機関は州政府が経営している。

たいていの銀行が、海外支店とともに国内にも全国的に広範な支店網を持っている。

信託・抵当ローン会社 (Trust and Mortgage Loan Company)

約100の異なった信託、抵当ローン社が、カナダ国中に支店網をめぐらせている。この会社は、預金を受けとり、個人・法人の年金資金、個人の不動産の管理をし、資金を受ける会社を営営し、自治体と法人に対する財政面のエージェントとしての役目を果たしている。

カナダ銀行

カナダの中央銀行であるカナダ中央銀行は、カナダの国民経済に資するよう、信用および通貨を管理、規制することを任務としている。この銀行は、カナダ政府の会計エージェントとなっている。すなわち、カナダ中央銀行は事実上、政府の歳入・歳出にかかわる預金勘定を運用しており、また政府のための借入金・外国取引の扱いをしており、経済・財政の顧問としての役目をもっている。

保 険

カナダ人はだいたい生命保険か定期保険にはいっており、また、財産や個人の動産にも同様に保険をかけている。

生命保険産業は、240の会社と友愛組合によって運営されている。生命保険に加え、たいていの会社は、疾病の際の出費をカバーし、病氣期間中に失う賃金を加入者に保証するような保険を売り出している。多くの会社は、火事、盗難、自動車の損害、その他の災害についての保険を出している。

保険の購入は、認可の保険セールスマンから、または会社経営者、職業組合、労働組合などの運営する団体プランにより行なわれる。

税 制

イギリス領北アメリカ法の下で、連邦政府と州政府は、個人所得に課税して歳入を得ることができる。

これに加え、連邦政府、州政府、地方自治体は、それぞれのレベルでその他の課税を行なうことができる。これには輸入品にかかる関税、カナダで生産されるアルコール、タバコ類にかかる物品税、うけついだ遺産にかかる財産贈与税、自治体立の学校税、財産税、小売品販売税、ガス・オイル税などが含まれる。

c) 産 業

第一次産業

〈 鉱 業 〉

カナダは鉱物資源に恵まれており、カナダの第一次産業に示める鉱業の位置は、純生産、総生産額においても第一位である。カナダは、アスベスト、ニッケル、銀、亜鉛の生産において世界第1位であり、石こう、モリブデン、カリ、ウラン、硫黄においては世界第2位である。また、アルミニウムの生産は世界第3位で、銅、鉛、鉄鉱石、金、プラチナ、コバルトなどの主要な鉱物の生産においても高い地位を占めている。

鉱物資源は各地域に分散しているが、オンタリオ州は、カナダでもっとも進んだ鉱業技術をもっており、カナダの鉱業総生産高の約半分を占めている。第2位はケベック州である。

アルバータ州は石油とガスの生産が全国一であり、また、カナダにおける最大の石炭資源を有している。カリの世界最大の埋蔵地域がサスカチュワン州に見つかっている。サスカチュワン州はまた、ウラン鉱の主要生産州でもあり、カナダで唯一のヘリウム天然資源をもつところである。カナダで探掘されるアスベストの約80%は、ケベック州産であり、ニッケルはオンタリオ州である。銅は、プリンス・エドワード・アイランド州を除いたすべての州で生産されている。最大の銅資源があるのはブリティッシュ・コロンビア、オンタリオ・ケベックの各州である。鉄鉱石の主要生

産地は、ニュー・ファンドランド、ケベック、オンタリオ、ブリティッシュ・コロンビアの諸州である。

〈農 業〉

農業人口は、カナダの労働人口の6%以下にしかすぎないが、農業はカナダの第一次産業の中で2位を占める。その理由は、農業が高度に商業化、機械化、専門化されているからである。実験農場や農業大学は、農業の発展に重要な役割を果たしている。

実際に行なわれている農業としては、穀物、その他の畑作物の栽培、酪農、家畜、家禽、果物、野菜栽培、タバコ、ハチミツ、サトウカエデ製品、毛皮などのような特産品の生産などがある。

小麦は、カナダ最大の畑作物である。大部分がプレーリーの各州に育っており、この地域では農業が一大主要産業である。その他の主要穀物でカナダ西部で栽培されているものとして、大麦、ナタネ、カラス麦、亜麻種子、ライ麦がある。

家畜飼育（主として肉牛とぶた）は、アルバータ州とオンタリオ州で重要である。家禽はオンタリオ州とケベック州でもっとも広く行なわれており、酪農場の数は最大である。

もっとも重要な果物はリンゴである。商業用リンゴ園は、ノバ・スコシア州、ニュー・ブランズウィック州、ケベック州南部、オンタリオ州全域、ブリティッシュ・コロンビア州内陸部、とくにオカナガン溪谷にある。

ジャガイモは、カナダでもっとも重要な野菜である。プリンス・エドワード・アイランド州の主要作物であり、また、ニュー・ブランズウィック州では重要な作物となっている。サトウカエデ産業は、ケベック州の東部の町が中心である。カエデ・シロップは、ノバ・スコシア州、ニュー・ブランズウィック州、オンタリオ州で商業的に生産されている。

カナダには、675以上の毛皮農場があり、ミンクとキツネを主に生産している。

〈林業〉

森林は、カナダの面積のうち約100万平方マイル(260万km²)をおおっており、全面積の35%にあたる。カナダの資源の中でも、もっとも重要なものとして、パルプ、製紙産業、製材所、家具工場、その他木製品、紙製品産業の原材料となっている。ケベック州は、紙・パルプ生産において、ブリティッシュ・コロンビア州は木材において第一の州である。

森林地帯の2/3は針葉樹林であり、主としてエゾマツ、アメリカカラマツ、バルサム、モミ、ジャックパインである。このタイプの森がニュー・ファンドランド州全土をおおっており、ラブラドル沿岸から、西へはロッキー山脈、北西へはアラスカとつながったベルトのようにのびている。

針葉樹林の南部は落葉樹との混合林である。落葉樹の種類の主なものとして、カエデ、カン、シナノキ、ニレ、ポプラ、クルミ、トネリコがある。ダグラスモミ、ウエスタン・ヘムロック、アカスギは、バンクーバー島の大部分に広がっており、ブリティッシュ、コロンビア州の南沿岸につづいている。

〈漁業〉

カナダの漁業は、500年も前にさかのぼり、現在も引き続き重要な第一次産業である。漁業が最も盛んなのは、大西洋岸地帯で、そこでは、イセエビ、タラ、ホタテガイ、ニシン、ヒラメがとれる。一方、太平洋岸で最も盛んなのはサケ漁であり、次にオヒョウ、カキ漁がつづく。

第二次産業

〈製造業〉

カナダでは、農業、漁業、林業、鉱業、建設にたずさわる人数をあわせると、もっと多くの人々が、製造業に従事している。製造業の発展は第二次大戦中の急速な産業の成長を契機に、水力発電の発展、石油・ガス資源の大量の発見および、その輸送のためのパイプラインの建設、多量の鉄鉱石および基礎金属の発見、そして、人口の急増、それにとりなり消費

需要の増大が促がされた。

カナダの主要工業地帯は、オンタリオ州、ケベック州、ブリティッシュ・コロンビア州である。販売面で最大の製造業は、自動車工業、パルプ・製紙業、食肉・肉加工業、石油精製業である。雇用面での最大は、第一次繊維、あみもの、洋品工業、パルプ・製紙業、木材加工業、各種機械装置製造業、製鉄製鋼所である。

〈建設〉

建設業は、第二次産業の中で第二の雇用人口をもつ。オンタリオ州は、ケベック州につき、建設労働者の数が多い。

〈観光業〉

観光業に従事する人も多い。またこれによる収入は年間数十億ドルである。ブリティッシュ・コロンビア州、オンタリオ州、ケベック州においては、観光は非常に重要である。カナダを訪れる観光客は、米国とイギリスからが最も多く、その次に、ドイツ、フランス、オランダ、日本、イタリア、オーストラリアの順になっている。

貿易

カナダの主要貿易相手国は米国であり、次はイギリスである。この二国をあわせるとカナダの外国貿易の3/4に達する。その次に大きな市場は日本、次がドイツである。ソ連と中国はカナダの小麦の最良の輸入国である。

カナダの主要輸出品目は、自動車および部品、新聞用紙、小麦、軟材、パルプ、原油、アルミ合金を含めたアルミニウム、鉄鉱石である。

連邦政府の通産省は、カナダの外国貿易の促進に責任をもっており、50カ国以上にその駐在員を置いている。この省の一機関である政府観光局は、カナダへの旅行あっせんを行なっている。支局は、ロンドン、パリ、フランクフルト、メキシコ・シティ、東京、ハーグ、シドニー、また米国各都市にある。

1-5 カナダでの生活と仕事

a) 生活水準

カナダの生活水準は、世界でも最高である。カナダ人労働者の賃金は、他の国々と比較してもかなり高い。また、広範に収入の安定、社会、健康サービスの向上がめざされている。しかしながら、こうした公共サービスは、ある程度、比較的高い生活費や税金により相殺されるとみなさなければならない。

カナダにおける教育は、中等学校まで無料であるが、大学生を援助するための奨学金制度もある。

最近のコスト高騰は、住宅所有を困難にしているものの、カナダの半分以上の世帯が現在、住宅を所有しているか、もしくはローン支払い中である。同時に、家の購入価格が上がることにより、貸家賃が上がることになったので、アパートや貸家でも低価格のものが高価格なものに比べ、入手しにくくなってきている。

カナダでは、電気・電話料は比較的安いので、たいていの家庭で利用している。各家庭やアパートにあるその他の標準的施設としては、セントラル・ヒーティング、温冷水配給、一つまたは二つの入浴室がある。メイドを雇っている家庭はほとんどないが、週のうち数時間、家事その他の仕事をうけもつ人を雇っている世帯もある。

都市と郊外、近隣の町までの距離がはなれているため、多くの家庭で、仕事や買物あるいは長期休暇や家族旅行を楽しむために自動車が必要である。こうした理由から、自動車はぜいたく品というより、むしろ必需品である。

b) 教育

カナダでは、教育に関する責任はどのレベルよりもすべて基本的には、州政府がもっている。しかしながら、連邦政府は中等教育以後の教育の援助、成人人材訓練プログラム、ヨーロッパ配備の軍隊の子弟、インディアン、イヌートの子弟、連邦刑務所の収監者たちなどのような特殊な人々のグループに対する教育プログラムを通じて、重要な役割を果たしている。無料の公立学校システムの他に、多

くの私立学校がカナダにはある。

組織と管理

教育については州政府が責任をもっているということから、大ざっぱな方式は、どこも共通しているが、詳細については10州それぞれに異なった教育システムを発達させている。

各州には、州の教育制度の内容についての監督責任をもつ教育省がおかれており、教師の認定、教育委員会への資金補助、学習課程の決定などを行なっている。

また、教育省は校舎の建設や整備について、地域の学校当局の代表として、教師の雇用や時にはカリキュラムの編成なども行なう。

教育予算

公立初等、中等学校の教育は無料で行なわれ、地方税と政府助成金によりまかなわれている。

助政的援助は、公立学校制度の範囲内で、セパレートスクール（通常、教派別の学校をさす）に対しても行なわれるが、いくつかの州では、税金や助成金でこれをまかなっているところもある。セパレート・スクールで大きいのは、ローマン・カトリック学校である。数の上では、このような学校に在学している生徒は、カナダ全体の小・中学生数のうちのごくわずかである。

大学は授業料、寄贈、寄付の他に、かなりの額の助成金を州政府から受けており、学校運営経費の約50%は、連邦政府から徴収している。

教育制度

私立学校の場合を除き、授業料と教科書は中学校まで無料である。

すべての子どもは6才から学校へ行かなければならないが、学校を出る最小年齢は、州により14～16才とまちまちである。たいていの学校は男女共学で、卒業時の年齢は、普通18才である。

小学校から大学にいたるまで、学校は9月が新学期で、初等学校、中等学校の場合には6月で終わる。大学の授業は、三学期義務制の学校以外は、普通4

月か5月に終わる。3学期制は、いくつかの州の中等学校でも実施されている。

カナダの学校制度は、次の4つのレベルからなる。

- ・就学前(保育園、幼稚園)
- ・初等学校(公立)
- ・中等学校(高校)
- ・中等学校以後(コミュニティ・カレッジ、大学、その他の高等教育機関)

就 学 前

〈保育所〉

大きな都市には、数は限られてはいるものの、両親が就業中の半日あるいは一日中、2～5才の就学前の幼児の保育にあたる保育所がある。(保育所は私立もしくは、自治体立で料金は夫々異なっている。)州によっては、保育所の設置について教育・厚生省の認可を得なければならないところもある。

〈幼稚園〉

ほとんどの子どもにとって、最初の教育の場は幼稚園である。設備面がゆるせば4才児も入園させているが、だいたいの幼稚園は5才児だけをとっている。

幼稚園教育での強調点は、園児同士はもちろん、大人との間にもよい関係をつくることである。同時に、幼稚園のプログラムは、音楽、物語、図画工作などの一定の教育手段へと子どもたちを次第に導いていくことを目的としている。たいていの場合、幼稚園は小学校の中にある。

初等学校

初等学校は8年制で、ケベック州、ブリティッシュ・コロンビア州では7年制である。最近では、生徒が自分自身の能力に応じて進級できるよう、特に学年をもうけなかったり、または学年を無視して継続的に進級させるという方針に向い傾向が強くなっている。こうして、多くの州でこのやり方を初等・中等学校で実施している段階にあるが、子どもたちは普通、12～14才で初等学

校を卒業する。

中等学校

初等学校を修了すると、生徒たちは中等学校へ行く。ここで、生徒たちは、将来大学へ行くためのジュニア、シニアに入学するか、もしくはハイスクール卒業後仕事につくため、技術的、職業的訓練をうけるかにわかれる。州により異なるが、ジュニアの修了は3～4年、シニアの修了は5年である。

〈ジュニア、シニアハイスクール〉

いくつかの州では6年間の初等教育修了後に、生徒はジュニア・ハイスクールに入学する。ここで、彼らはシニア・ハイスクールにうつる前に2～3年間、履修しなければならない。そこで、大学入学資格を得るため、あと3～5年間の課程を修了しなければならない。

私立学校

カナダの学生の約2割が私立学校に通っている。ここでも、公立学校とカリキュラムは同様であるが、一般的には、大学進学のための準備が強調されている。私立学校は、公共機関の財政によるものではなく、個人の授業料や団体、法人による出資によってまかなわれている。

技術・職業訓練

職業ハイスクールのほかに、その他の基礎的職業訓練施設が利用できる。これには、公立・私立の商業学校、職業訓練所、コミュニティ・カレッジ、ビジネス・カレッジがある。このうち、学業単位（ハイスクールと同程度）を与えるところもある。職業技術コースは、普通1年で修了するが、技術コースの方は、だいたい2～3年である。公立の職業訓練プログラムは、また実業界、産業界との協力により、教室外でもやられることがある。

中等教育以後

中等教育が終了すると、学生はコミュニティ・カレッジであれ、私立職業学校、通信教育、大学のいずれであれ、学業を続けるためには、その費用は自分

で払わなければならない。しかしながら能力のある学生は、奨学金、ローン、補助金という形で、連邦政府や州政府から資金援助を得ることができる。

〈コミュニティ・カレッジ〉

コミュニティ・カレッジでの課程は、1～4年の巾に拡がっており、応用技術、ビジネス管理、テクノロジーなどのコースがある。ハイスクールの卒業が通常、入学条件となるが、多くのカレッジは、高校卒業資格をもたない学生に対してもチャンスを与えており、比較的年令の高い志願者を「成年」学生として区分している。コミュニティ・カレッジの一年間の学費は、大学よりずっと低い。

〈CEGEP(S (Collège d'enseignement Général et professionnel))〉

ケベック州にあるCEGEP(Sは、その他の州のコミュニティ・カレッジと同じである。CEGEP(Sでの授業は無料であり、学生はただ教科書代だけ払えばよい。

〈大学〉

カナダには、60以上の大学があり、規模、開講数や種類によって、かなり異なっている。ハイスクールが、ただジュニアの修了課程しか認定しない州の学生は、大学のコースに入学する前に大学やカレッジの一年間の資格認定コースをとらなければならないことがある。通常の学業資格を欠いた年令の高い学生には、入学試験に合格するか、「成人」学生と認められれば入学資格を受けることができる。

カナダ国外からの学生の入学は、大学が独自の見解で決める。一般規則として、外国での同等資格が、入学資格として取り扱われる。

大学の一学年は、約8カ月であり、多くの学生が夏にアルバイトして学費を稼いでいる。連邦政府は、費用を援助するため、学生にローンを出している。この資格をうるためには、まず、カナダ国民もしくは、正規移民であり、すくなくとも一年間、カナダに居住した人でなくてはならない。ケベック州は、全国プランに参加していないが、独自に、ほぼこれに相当

するプランを持っている。

看護人学校

看護人の養成は、公認看護人（R. N.）の資格を与えるプログラム、つまり伝統的には病院学校で与えられていたのであるが、今では地域の看護人学校やコミュニティ・カレッジで与えられるものから、大学の看護科学での学士・修士の学位として与えられるものまで範囲がある。大学の中には1～2年長く課程をとれば、大学の看護学学位の資格のある看護学位を学生に与えるところもある。さらに、准看護人のプログラム、たとえば、X線技師やその他の医療分野の労働従事者のためのプログラムが数多くあり、カナダ中のカレッジに、このコースが開かれている。

（教員養成）

数年前、師範学校は、主たる中等教育以後の大学にはなっていない機関であった。しかしながら、今日では大学で初等教育の教員を養成しようという傾向になってきている。ニュー・ファンドランド、プリンス・エドワード・アイランド、マニトバ、サスカチュワン、アルバータ、ブリティッシュ・コロンビアの6州においては、初等学校、中等学校いずれの教師を志望する人でも、大学での学位取得が条件づけられている。これ以外の州でも、現在、教員の養成は師範学校から大学へと舞台がうつりつつある。

成人教育

これまで述べてきた教育以外に、成人に対してさらに学業、技術、教養を与えている機会はたくさんある。毎年、約130万人の成人が中等学校または中等学校以後の高等教育に参加して自分の教育程度を高めている。楽しみながら夜の大学レベルのクラスに出席する人もいれば、最終的には学位をとろうとしている人も多い。

技術・職業訓練に対する連邦政府の援助

カナダ人材訓練計画の下で、失業者または半失業者の成人労働者の中には、このコースにより、収入を引きあげたり、雇用の可能性を高めるためにこの訓

練コースに登録する者も多い。この制度は、訓練生に生活資金をも給付する他、見習い訓練プランという教室授業の一部や、雇用主が行なり職務につきながらの訓練にも援助を出す。コースは、カナダ中にあるカナダ人材センターにより計画されている。

見習制度 (Apprenticeship)

見習い訓練プログラムは、州政府の管轄である。訓練の内容は、組織化された職務につきながらの実習と、通常、商業学校の中において行なわれる教室講義とを合わせたものである。見習い期間は、普通4年でもちろん州や職種によって異なるが、だいたい2～5年の間である。職種は、建設、自動車修理、大工、配管、その他たくさんである。最低年齢条件は16才である。教育条件は州によってちがっているが、すべてが2年以上の中等学校教育を条件としている。訓練が終わると卒業した見習い生は職人資格がもらえる。

教育の言語

ケベック州では、人口の約80%がフランス語を話している。多数派であるフランス語系カナダ人は、ローマン・カトリックに属しているので、カトリック学校での教育用言語はほとんどフランス語である。一般的に、カトリック系でない学校は、この州でも、教育は英語である。しかし、いずれの学校に通っても、生徒はそれぞれ別の言語の教育をうけ、読み方や話し方に関する知識を得ている。

ケベック公用語法(法案22)の下では、第一言語が英語でもフランス語でもない生徒は、彼らが英語学校に登録するに際して英語の知識が、十分あるかどうかを審査するための資格試験を受けなければならない。こうした人たちの中で、このテストに受からなかった者、そして英語にもフランス語にも流ちょうでない者は、フランス語学校に行かなければならない。試験の結果、学校委員会もしくは評議委員会がその生徒たちを他の学校に移すことを決定する場合もある。カナダの他の州においては、教育は英語で行なわれている。ただ例外としてフランス語を話すカナダ人たちがいるところは別で、この場合、教育はフ

ランス語もしくは英語の両方で行われている。

c) 雇 用

二十世紀をむかえた時、カナダは主として農業国であった。その時以来、人口も産業も大きく構造変化し、今日ではカナダは高度に工業化され、世界の工業国の中で第5位をしめている。この間、第一次産業、特に農業に従事する者は年々減少している。カナダの労働力は、現在約一千万人に近づいているが、熟練労働者を必要としている。最も需要が多いのは、事務系、販売、サービスそして経営経験を持った人々である。その次に専門的能力、さらに貿易、技術的な能力を持った人が要請されている。雇用移民省が最近行なった行動調査によると、カナダ人にとっては家族関係は別にして、仕事が自己達成のための最も重要な手段であるということが示されている。多くの工業国と同じく、カナダの労働者には、一定の権利、特権、責任が賦与されている。下に示したものはこれらの幾つかで、カナダにおける労働条件の一般的なレベルを表わしている。

公平な雇用

カナダにおいては、雇用の際の人種、国籍、皮膚の色、宗教による差別は法により禁止されている。いくつかの州、準州では、さらに性別、年齢、又は既婚、未婚による区別等に基づく差別が、やはり禁止されている。

市 民 権

カナダに上陸した移民は、民間企業においてはカナダ市民と平等に雇用される権利を持っている。しかしながら、公共部門における雇用については、カナダの市民権を持つものが優先権を受け、外務省、軍隊、ローヤル・カナディアン騎馬警察に入るには、市民権の獲得が条件となる。

言語の条件

英語もしくはフランス語が話せるという条件は、あらゆる職業において必須のものである。非常に危険度の高い仕事においては、作業上の用語知識があるということは欠かせないことである。なぜなら労働者は、雇用者によって決め

られた安全基準、保護策を明確に理解しなければならないからである。カナダのある地方においては、英語とフランス語両方話せる能力が必要である。このことは特に一般的な人々と接触することの多い職業について必要とされる。

能力証明書

労働者は、熟練労働者として雇用される前に、能力証明書が必要である。労働者は、認定を受けた州、もしくは準州の見習い訓練プログラムを終了することによって、もしくは仕事を得ようとしている地域の業務や仕事の内容に関する知識の試験を受けた後で、職人の証明書を受けることによって資格を得ることができる。州によっては、暫定的な能力証明書が与えられることがあり、これによりカナダに新しくやってきた人たちは、資格試験を受ける前に暫定的に仕事につくことができる。

免 許

カナダにおいて、専門的職業に従事するためには、働こうとしている州の指定機関から免許を得なければならない。カナダにおける、ほとんどの専門職業の基準およびその内容は、政府立法および職業機関によって規制されている。カナダにおける多くの専門技術者は、全国レベル、州レベルでの組合を作っており、これが専門職の基準を決め、加盟員の条件を決めている。そのほかの基本的な機能としては、この分野で働いているもの、もしくは組合に参加している者が、情勢の変化に関する一連の情報を持てるようにするということである。

労働組合

カナダにおいては、全労働者の約三分の一が、労働組合に属している。あらゆる労働者は自己の選択で労働組合に加盟し、合法的な活動に参加する自由を持っている。労働組合は連邦政府、および州政府によって、法的にも認められ、労働賃は賃金、労働時間、労働条件、その他職場に関係のあることから関係する労働者の利益のより一層の向上をはかっている。産業のある部門においては、組合への加入、不加入は労働者の意思に任されているが、別なところではユニオンショップ協定が行なわれている。これは、労働者が仕事を得るに際し

ては、労働組合に参加する必要はないが、雇用された後は必ず、加入しなければならないというものである。又、別の産業部門においては、クローズド・ショップ協定というのがあり、この下では労働者は、仕事を得るために、前もって労働組合の資格のあるメンバーとなっていなければならない。

組合の新規加入者は、通常、入会費を払う。これは業種によっても、又、職場によっても様々である。定期的な月額組合費はその後払う。主要な全国的労働組合の組織はカナダにおいては、カナディアン・レイバー・ कांग्रेस (CLC) であり、約180万人の組合員をかかえている。その次に規模が大きいのは、コンフェデレーション・オブ・ナショナル・トレード・ユニオンズ (CNTU) で、ケベック州に集中しており、組合員は約19万人である。

先任制 (Seniority)

カナダにおいては、労使の間の労働協約の結果、労働者の勤務期間に基づいて算定される先任順位が、大規模なレイ・オフ、およびその後の再雇用、昇給そして休暇時期の選択などの場合に一般的に認められている。

労働時間

カナダにおいて、ほとんどの労働者は、8時間労働、週5日制である。しかしながら、事務系労働者の労働時間は、そのほとんどが37時間半、もしくはそれ以下である。

年次有暇

8つの州が、年次休暇を法律で定めているが、そのうちには一年につき、一週間の有給休暇を与えている法もあれば、二週間の有給休暇を与えているものもある。

賃 金

すべての管轄部門で最低賃金法が施行されている。そして、農業労働と家内労働以外のほとんどすべての職業について、これをカバーしている。給与の基準は、専門か非専門か、職種、その地方の条件、経験、教育、又職場によって

かなり述べている。普通、高度の技術もしくは、危険性の高い職業、又はその完成に困難を要する仕事に対して高賃金が支払われている。奨励金やボーナス、出来高払制が実施されているところでは、未熟練工の方が、基本給こそ安くても、結果としてより多い収入を得ることがある。

給料からの控除

労働者が給料として受けとる小切手、もしくは現金での金額は、自分が稼いだ金額ではない。と言うのは、失業保険の労働者負担分、所得税、病院・医療保険、年金プラン、組合費などが控除されていることが多いからである。

職業上の安全と事故の防止

労働者の健康と安全は、立法化された基準や、規制によって守られている。たとえば衛生、暖房、照明、電気、又危険な機械の取扱い等に関して、詳細な規程が設定されている。カナダ労働法の第4章（労働者の安全性）は、連邦政府の管轄の下にあるすべての労働者に対して、安全な労働条件を保障するものである。ほとんどの産業もしくは職業の下において、勤務中の事故、あるいはそれにもとづく病気によって労働不能になった労働者は、州の労働者補償委員会による補償を受けられる。補償金は雇用者のみが支払っている資金から支払われ、医科費、入院費、リハビリテーションの費用にあてられる。恒久的な廃疾の場合には、生涯にわたり、年金が支給され、本人死亡の際には扶養家族に対して補償がなされる。

失業保険

失業者に対する財政的援助を行なう全国レベルの制度は、失業保険委員会によって運営されている。（詳細については、社会保障の章を参照のこと。）

カナダにおける女子労働

カナダにおける労働者の三分の一は女性である。未婚女性はほとんど働いており、ここ数年のうち、既婚女性の就業率も急速にのびている。働く女性の権利を定義した、多くの分野での反差別立法が通過しており、又働く両親のため

の子供の施設も発達しつつある。多くの女性労働者は、事務、販売、サービスの部分に雇用されており、そこでは女性が常に優位を保ってきた。雇用者、労働者の両方に指示を与えている各種の政府プログラムは、こうした職業分布を広げようとしている。労働運動もまた、女性が労働組合の中でますます積極的な役割を演じるにつれて、女性に対する機会均等をめざしている。

失業及び地域的格差

季節的な失業は、カナダ各地で問題となっている。きびしい天候条件の結果、たとえば建築、農業などのようなある種の産業が、冬の間、スローダウンするか、または数ヶ月間停止されてしまう。こうした分野で働く労働者の中には、その他の職業を得る者もあるが、中には不運な者もいて、普通失業保険給付によって生活するものもある。しかしながら、最近、連邦政府によって始められた雇用拡大、雇用再獲得プログラムによって、こうした季節的失業問題は軽減する方向に進んでいる。地域的格差は失業のもう一つの原因である。1969年に地域経済拡大省が、連邦政府の中に作られ、州同士の協力を高めて、カナダ各地域の経済格差を少なくする計画をすすめている。

d) 住宅事情

カナダの人口が着実にふえつつあること、又、農村部から都市部への人口の流入ということにより、全国的に新しい住宅の需要が高まっている。社会生活のパターンの変化も又、カナダにおける住宅状況に影響を与え、十代の子供達、そして老人達が家を離れ、自分自身の家に住むという傾向がすすんでいる。一般的に住宅不足はないが、低価格の施設は数が少ない。

住宅に対する連邦政府の援助

全国住宅法の下において、連邦政府は、新しい家の建築、現在ある家の修理、近代化及び、住宅生活環境の向上といったことに力を入れている。その目的は、もっと多くのカナダ人、特に低中所得層の人たちに、その必要性に応じて住宅施設を所有、もしくは賃借する可能性を与える事である。中央担当・住宅公社

(CMHC)は、政府機関の一つであり、カナダ全土の主要センターにあるその支局の機構を通じて、この立法を実行する責任を負っている。CMHCによって行なわれる援助の内容には、新しい家屋、現在ある家屋、アパートの改良、また賃貸住宅、アパート、ホテル、宿泊場の建設に対してローンを提供すること等が含まれている。

家の購入

最近では、たとえば各物資のコスト、労働力、土地、妥当の価格の上昇など数多くの要因によって、家の価格も高騰しており、賃金労働者にとって自分の持家を買うことは、ますますむずかしくなっている。家を所有するに際して、最も大きな障害となるのは、高額の前金であり、これは購入価格の10%以上にのぼることもある。価格はカナダの地方によって大きく異なっているが、賃貸料にせよ、購入価格にせよ、普通、大都市の近くでかなり高くなっており、都市、町、村に行くにしたがってだんだんと安くなっている。政府が援助している住宅ローンは、その条件に100%合致すれば、25年ないし40年の間利用できることになっている。ローン最高額は市場の状態により、地域により異なっている。

賃貸住宅

家屋の購入費が高くなったことから、多くの人々は賃貸住宅に住まざるを得なくなっているが、この賃貸住宅に対する需要ののびが必然的に賃貸料を引き上げることになっている。一般的にアパートや家屋は、高家賃のものは比較的たやすく入手できるが、この場合、子どもやペットに対する規制もまた強い。

住 宅

カナダの住宅は、大きさや建築様式において多様である。一階、中二階、二階建ての家もあり、また階を分けて、デュプレクス(2つの住居に分けた家、片方が2階、もう片方が下の階である。それぞれに入口が付いている)、セミ・detached住宅(一つの屋根の二軒が並ぶ家)、およびタウン・ハウス(列になった家で、普通、人口稠密地に建てられる)などがある。

家屋の約3/4は、枠組を建ててから、外側の木もしくはレンガ、化粧しっくいなどで仕上げたものである。新しい建築資材が、ますます多く使われるようになり、これとともに、最近の建材として、固定レンガ、石、セメント、もしくは、燃えがらブロックなども利用されている。

カナダの住宅のほとんどは、建ててから40年を経ていない。そして、普通、修理もいきとどいている。新しい住宅のほとんどは大都市の郊外、もしくは急速に発展している新しい町にあり、古い住宅は普通、町の中心部、または農村部の町の中に見られる。

家屋の約90%には、地下室がある。地下室は普通、暖房機械、洗たく施設、貯蔵庫があって、時として作業場やリクリエーション・ルームとしても利用できるほど十分なスペースがある。

たいていの家には、1台または2台の自動車用のガレージ、カーポートがある。新しい家では、ガレージは住宅の一部となっており、古い家では別である。カーポートは一側面が家についでいる、屋根つきの自動車置場である。

たいていのカナダ人の家には、大きさやタイプがそれぞれ異なった庭がある。なかには、芝生と花だんを合わせたところもあり、また、花と野菜を組み合わせたところもある。又、多くの者が家庭用プールを持っている。敷地と敷地とをへだてる壁、高いへい、かきねはほとんどないが、しばしばかん木や木立がある。

カナダ人の家は、他の多くの国々と比較するとつくりが大きく、一家族あたりのへや数も多い。典型的な一家族用の家としては、2〜3ヶの寝室、居間、台所、浴室、ガレージ、暖房、洗たく室、またリクリエーション・ルームに転換できるへやを含んだ地下室がある。

個人住宅の貸間またはフラット

多くの都市や町において、古くて大きい家は、たいていその全部、もしくは一部が貸間やフラットにかえられている。これらには、家具付きと家具付きでないものがあるが、家具付きの方が部屋代は高い。

家具付きでない方は、通常、造りつけの食器戸だな、おし入れ、ガスまたは電気のクッキングテーブル、冷蔵庫がついている。だいたいセントラルヒーティングで、浴室つきである。中には、ベネチア風ブラインド、ドレープ、カーペット、ゴミ捨てユニット、駐車場のついたものもある。個人住宅にある貸間は、多種多様であるが、大規模な共同住宅に見られる標準タイプのものよりはスペースが大きい。

アパート

アパートの建物は、大きさ、年数、建築様式によりそれぞれ異なっている。高さは2階から30階建てまでのもの、最近建てられたものから、20年代後期、30年代初期の建築といったものもある。アパートは、独身用アパートから、寝室が、1、2、3とあるものまでいろいろある。

〈独身用アパート〉

独身用アパートは、個人用で、浴室、台所、寝室として役だつ大きな室1つ、応接間、食堂がある。主として、独身用として設計されたものであるが、時として収入も多くなく、子どももいない夫婦が住んでいることもある。

〈アパート内の設備〉

だいたいのアパートは賃貸で、家具なしであるが、価格の高いアパートの場合は、空調設備、血洗い機がついており、カーペットが敷きつめてある。新しいアパートの建物にはだいたい、洗たく場と駐車場がついており、もっとぜいたくなアパートになると、屋内、屋外のプール、サウナ、リクレーション・ルーム、会議室等がついていることもある。

暖房は石炭が使われることもあるが、通常は石油か天然ガスである。又、電気暖房が、ますます一般的になりつつある。

共同住宅 (Condominiums)

共同住宅は、比較的新しい都市型生活の特徴であり、これにより、自分自身の独立した家をもつかわりとしている。共同住宅は、高層アパート、列型住宅、

タウンハウスの形態をとっており、賃貸というよりは、むしろユニットを買い
よりの形式になっている。所有者達は、建物の中の設備やサービスなどの費用
を共同で出している。また、共同住宅の住民の中で選ばれた代表者が、入居そ
の他の規則を作っている。

モービルホーム

モービルホームは、新しい低価格の住宅の一形式であり、最近、カナダでは、
ますます増え、拡がってきている。これは、工場で作られた一家族用住宅で、
シャーシと車輪のシステムによって、住みたいと思う場所から場所へ移動させ
ることができる。このタイプの家を設置するのに設計された区画には、2つの
タイプがある。1つがモービルホーム・パークで、もう1つがモービル・ホー
ム・サブディビジョンである。この両方とも、水道、下水、電気、電話、道路、
雷かき、ゴミ集めなどの公共サービスを受けることができる。

暖房

セントラルヒーティングと断熱設備により、カナダの家は全般的に住み心地が
よい。壁と屋根にある断熱材は、ただ冬の間、熱をにがさないようにするだけ
でなく、夏には過剰な熱をさえぎっている。たいていの家には、サーモスタッ
トがあり、それにより熱をコントロールし、温度は自動的に望むレベルに保た
れる。セントラルヒーティングで暖炉はいらないのであるが、多くの古い家には
暖炉があり、新しい家を建設する人も暖炉が一般的なので付けている。

暖房費は、どのタイプの燃料を使うか、家の大きさ、断熱状態によりかなり
異なる。家が建っている場所によっても、地方により違っている冬の条件によ
っても暖房費に差がでてくる。

e) 健康

カナダに住む人々の健康をよりよく保つために、多くのサービスや施設が設立
されている。

州の機関が主として、厚生サービスの実施にあたり、一方、連邦政府は

州の病院・医療プランの費用の半分を出しているが、それに加えて、全国的な分野の特定の厚生問題の多くに対して管轄権をもっている。

州の任務

州の保健局は、病院・医療プログラムを行なうほかに、結核、精神病などになやむ人々に対して、医療をほどこしている。又、ガン、アルコール中毒、薬物中毒に関連したプログラムも発展させてきた。

州は、地方、地域の厚生組織に、力をかなり注いできており、それらと協力して環境衛生、伝染病の防止、母と子の健康、学校での健康管理、栄養、歯の健康、職場での健康管理、大衆の保健教育、ホームケアの活動等に力を入れている。

連邦政府の任務

厚生省は、州立病院と医療保険プログラムの連邦政府に割り当てられた側面を管理するだけでなく、国民の健康保護に対する全般的な責任を負っている。更に、食料、薬品、化粧品、医療品の販売に関して、適度な基準を作ったりする他、伝染病については、これが環境や健康に与える影響についての調査、規制、研究を行なっている。

この省は、また、原住民とニューコン、ノースウエスト両準州の住民の医療・厚生サービスの提供にもあたっている。

病院・医療保険制度

カナダには、国民健康保険制度が2つある。一つが入院、他方は医療措置についてである。この制度は、10の州とノースウエスト準州、ニューコン準州で、入院・医療費の給付を行なうものであり、全国規模のものであるが、管理運営は州と準州当局があたっている。入院・医療プランのほとんどは、運営が別々であるが、場合によっては、一つの州政府のプランの中にはいっている場合もある。

〈病院保険〉

保険に含まれている病院サービスには、(a)入院患者の治療、(b)州により

幾分かは異なるが、外来患者の医療を対象とするものがある。入院患者の治療という場合には、だいたい宿泊、食事、必要な看護、診察、薬剤、手術室の利用、ケースルーム、麻酔施設などが含まれ、また場合によっては、放射治療、物理療法が含まれる。

入院料は、すべての住民に対して支給されるが、ケベック州においては新来者は、入院保険を獲得する前に3カ月間、この州に住んでいなければならないという条件があるが、費用の支弁はケベック州への定着第1日目に逆のほって支給される。

〈医療保険〉

保険の対象となる治療には、医師が医学的に必要と認めるすべての治療が含まれており、また病院の歯科外科医の行なう外科的歯科治療も含まれている。本保険には適用除外疾病はなく、医学的に必要とみなされる妊娠を含むような前症状に対しては待機期間は設けられていない。

医療保険制度は、州によって幾分かは異なっているが、医療費の支給は全住民に対して行なわれる。しかし、ブリティッシュ・コロンビア州では、新しい居住者に対しては、三か月の待機期間を決めている。この三か月間の居住条件を満たしていない者は、民間の保険会社の一時給付が利用できる。

州の医療制度は、内科医が行なう医療措置の大部分について支払いを行なうというものである。州の制度のうちには、専門医による治療のように連邦政府と費用を折半するには適さない医療について、住民の利益を保證しているものもある。入院を必要とするような外科的歯科治療費は支給されるが、一般的な歯科治療 - これはカナダでは高額であるが - については、州の医療プランにまだ含まれていない。州によっては、目の検査については支給しても、目がねの購入費は含んでいないところがある。

健康保持

カナダでは、体の鍛錬を通じて病気を予防することについての関心が高まっている。そこで長期プランにより、国民生活の質を改善することにおける体の

鍛練の重要性を認識させようとする計画が、今、行なわれている。この1つが連邦政府の健康プログラムで、より積極的なレジャー、さらに進んだスポーツとリクリエーション活動などが奨励されている。厚生省は、国内の、または国際的な競技会の選手、コーチ、役員などに補助金を与えたり、リクリエーション施設やジュニアホッケーやリトルリーグ野球のようなプログラムの開発促進のため、州や自治体に助成金を出して奨励している。また、この省はオリンピック、英連邦、パンアメリカ、カナダの各ゲームへのカナダの完全参加のための努力をおしすすめている。

f) 社会保障

カナダでは、広範囲にわたる生活保護、社会サービスなどが、連邦政府、州政府、地方自治体およびボランタリー組織により行なわれている。

連邦政府

連邦レベルでは、厚生省が生活保護について大きな役割をこなしている。この省は、カナダ年金制度、老年保障、保証所得補助、家族給付について、その運営にあっている。又、カナダ援助プランを通じて、州の社会援助プログラム、児童福祉、療養所治療も含めた老人福祉などの充実をめざしている。

州政府

各自治体は、社会援助と福祉サービスを、必要としている人々に対して提供するという任にあたる。

ボランタリー組織

カナダには、ボランタリーの組織網があり、患者に対する直接のサービス、保健教育、情報サービス、保健研究への援助などを含めた各種の専門的なボランタリー・サービスを行なっている。

国、各州、各地方の機関は、特殊な障害、たとえば関節炎、リウマチ、盲目、脳性マヒ、聾啞、てんかん、糖尿病、精神病などの人々に対し、サービスを行なう。

社会保障プログラム

次に示すような全国規模の調整が必要なプログラムは、連邦政府が行なっている。

〈カナダ年金プラン〉

この年金プランは、将来の被支給者である労働者による給与の一部からの納付が前提となる。保険料はすべての労働者に強制的に課せられ、その額は給与に応じたものとなっている。自営業の人も、同様に保険料を支払う。

65才で定年退職する労働者は、以前の給与に応じた月払いの年金を受ける資格を持つ。これは、老令保険から出る給付に上のせされる。保険加入者が廃疾になった時も、このプランの下で給付が受けられる。このプランに4年間加入していると、もし、加入者が死亡した場合、給付は、その配偶者および扶養子弟に対して支払われる。

ケベック州は、連邦プランと似かよった州独自の年金プランをもっており、他の州にも持ち込むことができる。

〈老令年金制度〉

カナダ政府は65才以上で、ある居住条件を満たしている人に対し、老令保障年金を月払いで支払っている。1977年7月1日以降、カナダにやってきた人についての最低条件は、18才以後、カナダに総計10年間居住しているということである。年金の資金源は、一年につき総受給額の40分の1の割合で、18才以上のカナダ人によってまかなわれることになっている。18才を過ぎてから、総計40年間カナダに住んだ人は、65才で完全給付を受ける資格があり、また40年に満たない人は完全年金の一部についてのみ受給資格をもつ。詳しいことについては、居住希望地の州都にある老令保障地方長官、所得保障プログラム支部、厚生局に聞くことができる。

現在カナダは、イタリアとの間に社会保障についての相互契約を結んでおり、これにより18才を過ぎてからイタリアに住んでいた人は、最低居

住条件を満たすという点においては、カナダに居住していた者と同様に扱われる。同様の協定は、フランスとの間に締結されたが、まだ実施には入っていない。

尚、この小冊子は、印刷の時点での最新情報をのせてはいるが、出版後の規定やデータの変更については、詳細を関係各局に照合されたい。

〈保証所得補助〉

収入の道をもたないか、もしくは非常に小額の収入しかない人については、老令保険に加え、さらに、こうした月額支払いの給付が与えられる。

〈家族給付〉

家族に18才以下の子どもがいるカナダ居住者は、子ども1人についての月額給付を受けることができる。家族給付は、所得として課税対象となっている。

〈失業保険〉

一時的に失業した人のための連邦政府による財政援助に関する業務は、失業保険委員会がその運営にあっている。保険料は、労働者、雇用主ならびに政府の三者によってきょ出されている。給付を受けるに際して、請求者はその前年のうちに、少なくとも8週間又は最後に失業保険給付を申請した時から、少なくとも8週間は働いていなければならない。この期間中に20週間以上保険に加入している人は、病気、妊娠のために失業した時に15週間まで給付を受ける資格をもつ。失業給付の請求をした人が、給付をうけることのできる期間は、何週間保険に加入しながら雇用されていたかということと、国や州の失業率によって決まる。給付率は、保険にかかっている労働者の平均給与により計算され、支払いは、毎年調整されている。

福 祉

ぜひとも必要としている人なら「救済 (relief)」あるいは「福祉 (welfare)」と呼ばれる一般援助を申請することができる。財政援助やその他の福祉、たとえば老人用リハビリテーション、カウンセリング、家事あるいは

保育のサービス、社会開発プログラム、特殊なグループに対する援助などを、州、自治体、ボランティアの各機関からうけることができる。援助の対象となる者としては、寡婦、援助の必要な子どもをもった母親、孤児、失業者、収入が特に不十分な者がある。

〈児童福祉〉

児童福祉に関する業務は、州政府の機関の管轄下にある。州の福祉省またはボランティア組織は、普通、児童援助協会と呼ばれているもので、見捨てられたり、一時的もしくは恒久的に両親の保護をうけられなくなった子どもを対象とする。

〈家族計画〉

子どもの数、年令間隔に関して、自由で個人的な選択をできるようにする知識や手段を一般に普及させるため、開業医、ボランティアの家族計画クリニック、州・自治体の厚生機関、病院などが、家族計画についてのサービスを提供する。たいていの場合、こうしたサービスは一部もしくは全部を、医療もしくは入院保険でカバー出来る。

〈老人者のためのサービス〉

公共組織やボランティア組織の下の各種の社会サービスが老人に対して行なわれている。これらには、広報活動、カウンセリング、依頼サービス、訪問、住宅登録、ホームヘルパー、リクリエーション、社会参加活動などがある。

老人のために特に設計した低価格の賃貸住宅プロジェクトがたてられており、連邦の低金利ローン、州、自治体、ボランティア、組織の基金により財政援助されている。独立できない老人たちのための施設は、公共機関、ボランティア、宗教組織などにより運営されている。

連邦の厚生省により管理されている「ニュー・ホライズン・プログラム」は、退職した市民が、その後、社会の利益に資するような活動を選んで実行する場合、この活動に対して助成金が出るというものである。

g) リクリエーションとスポーツ

カナダは、戸外生活を楽しむ人々にとっては、自然のパラダイスである。川、

湖、公園、森と四つの異なった季節により、レジャーを楽しむ方法は様々である。

すべての国民が冬を熱狂的に好きなわけではないが、いつもこみあっているスキー場を見れば、冬の人気は疑うべくもないものであろう。スキー行楽地は約70あり、その他、これより小さいものは、カナダには何千とある。もっともよく知られたスキー場は、ロッキー山脈、ガティノー丘陵、イースタン・タウンシップス、ローレンシア山地などにある。

クロス・カントリー・スキーは、カナダでますます人気が出てきている。魅力の一つとしては、スキー場より、値段がやすいことがある。スノーモービルやスケートも多くの国民の人気をあつめている。

屋内スポーツを楽しむ人々にとっては、カーリング、バドミントン、ボーリング、各種の観覧スポーツが一般的である。カナダは、アイスホッケーの発祥地であり、多くのファンが、プロアマの試合を見にくる。カナダでは、もっとも寒い季節にカーニバルがある。もっとも有名なのが、毎年2月に開かれるケベック・ウィンター・カーニバルである。

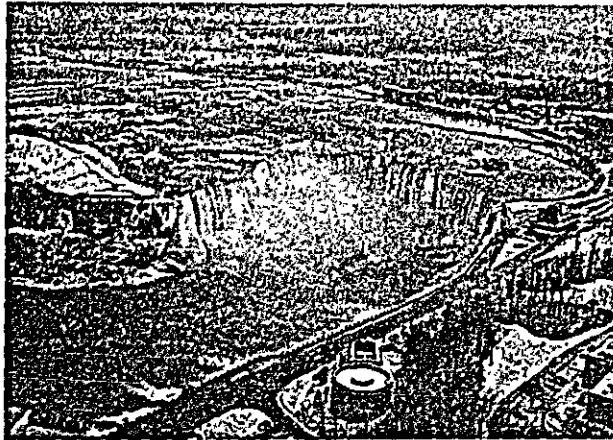
晩春や夏になると、多くの国民が、郊外の湖や川の近くのレンタルの、もしくは自家用の別荘に向かう。低価格で休暇をすごそうという人は、650ある州立公園や自治体のキャンプ地で、キャンプをする。数多くの夏の行楽地は、バラエティに富んだ戸外生活を楽しませてくれる。水泳、釣り、ボート、水上スキーなどである。カナダでは、テニスとゴルフに人気があり、たいいていの都市・町には公立のコートやクラブがあり、だれでもが適度な料金を支払うことができる。大きな都市では、サイクリングやハイキングが家族づれの人気を呼んでおり、多くのコースが敷設されている。

冷たく、すがすがしい空気と、目をみはるような秋の色にかこまれて、秋は写真、フットボール、サッカー、ラグビーの季節である。秋はまた、国中の町や村で、例年の秋祭りが行なわれる時でもある。ここでは、手工芸品、ホーム・クッキング、ホース・ショウ、夜のダンスなどが出し物が特徴的である。

一年を通じて、カナダ人の多くは夜間芸術や工芸の教室に通っていて、その

費用も、ほんの申し分け程度のもが多い。また、アマチュア演劇やミュージカル・グループに入っている人もいる。

第Ⅱ章 州および準州の概観



オンタリオ州から見るナイアガラの滝は多くの観光客をひきつける。

Ⅱ-1 大西洋岸諸州

Ⅱ-2 中央カナダ

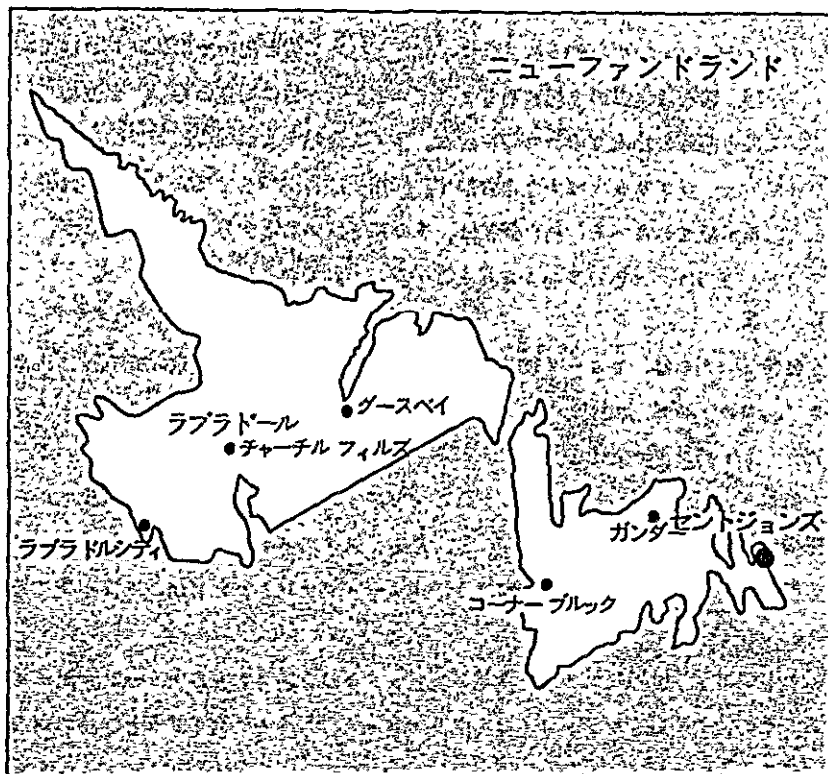
Ⅱ-3 西部カナダ

Ⅱ-4 準州

※本章における人口に関する数値は、1971年度の国勢調査に基づくものである。

Ⅱ - 1 大西洋岸諸州

a) ニューファンドランド州



人 口 522,104人

主要人種 イギリス系 98.5%

フランス系 1.5%

州 都 セント・ジョンズ

(人口 都市圏 131,814人)

(市 内 88,102人)

地 理 ニュー・ファンドランド州は、ニュー・ファンドランド島は大陸部のラブラドル地方からなっている。島は、北部を除いて岩と浅い土壌におおわれており、中部、西部は良質の土壌にめぐまれている。森が島の面積の約 $\frac{1}{3}$ を占めている。東部と南部の出入りの深い海岸線は、多くの漁船やその他の船舶の恰好の港となっている。ラブラドルは大きな台地で、海岸線は岩がつきでており、鉱物資源と水力発電に恵まれている。島の気候は、大洋にちかいことから、温暖であるが、ラブラドル地方は、一年のうち6カ月も雪におおわれており、気候は厳しい。

産 業

〈漁業〉 たらは、ニュー・ファンドランドでもっとも知られた資源である。イセエビ、カニ、エビ、ホタテガイ、ニシン、ハドドック、シタビラメ、ハリバもまたグラント・バンクスとその沖合でとれる。川と湖には、マスとサケが豊富にいる。

〈鉱業〉 主要な輸出鉱物は、鉄鉱石であり、ラブラドル西部の広大な埋蔵地から採掘する。その他の鉱物には、銅、金、亜鉛、アスベストがある。

〈製造業〉 パルプ・紙製品の製造が、ニュー・ファンドランド州の主要産業である。

〈水力発電〉 世界最大の水力発電プロジェクトはラブラドルのチャーチル滝にある。その他の発電プロジェクトは、ツウィン滝と、デイ・デスプアなど、島の南海岸にある。

都市と町

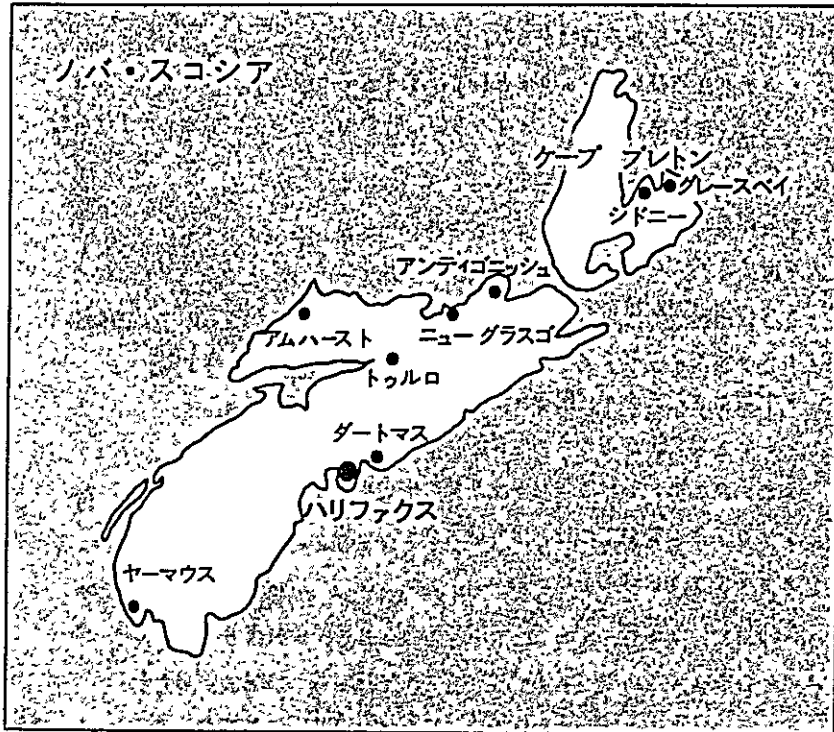
〈セントジョンズ〉(人口 都市圏: 131,814人)

(市 内: 88,102人)

・アバロン半島の東海岸に位置している。

- 州都であり、北アメリカでもっとも古い都市の一つ。
 - 重要な海運の中心地・教育、商業の中心地
 - ニュー・ファンドランド博物館は、絶滅したインディアン、ベオスーク族のめずらしい興味ある遺物がある。
 - カナダ百年祭プロジェクトとして、1967年に建てられた芸術、文化センターは、海洋博物館部門、ギャラリー、図書館、上演芸術のためのすばらしい劇場などが特徴となっている。
 - 芸術サマー・フェスティバルの開催地
- 〈コーナー・ブルック〉（人口：26,309人）
- この州の西海岸のハンバー川の河口に位置している。
 - ニュー・ファンドランド州、第二の都市
 - 主要なターミナル、配送センター
 - 一年を通じ、海運のための良港
 - この島の湾におけるニシン漁産業の中心地
 - ボウォーター製紙工場は、世界最大級
 - メモリアル大学の分校がある。

b) ノバ・スコシア州



人 口 788,960人

主要人種 イギリス系 77% フランス系 10% ドイツ系 5%

州 都 ハリファクス(人口 都市圏: 222,637人)

(市内中心部: 190,289人)

地 理 ノバ・スコシア州は大陸部 — 巾380マイル(608km)の半島 — とケープ・ブレトン島から成っている。この島は、高架道路と鉄橋であるカンソ・コースウェイにより大陸と連結している。土地の約 $\frac{3}{4}$ は森林で、農業に適した土地はわずか $\frac{1}{10}$ である。入りくんだ海岸線が、多くの漁船やその他の船舶に天然の港を与えている。ノバ・スコシア州南部は、丘陵地帯で、湖、川、谷などが奥地には多い。ノバ・スコシア州の気候は、温暖で、暑くはないが、心地よい暖かい夏があり、一年中雨が多い。

産 業

〈漁業〉 ノバ・スコシア州の住民の大部分は漁業に従事している。タラ、ハドック、イセエビ、その他の海産物の収穫高は、年間数百万ドルにもなる。

〈農業〉 土地面積の約10%は農地と分類されているが、主として酪農である。ファンディ湾とセントローレンス湾に沿った谷間はリンゴやその他の小さな果実を栽培する果樹園が有名である。

〈鉱業〉 ノバ・スコシア州は石炭の産出が全国一であるが、さらに鉛も採掘されており、近年鉄鉱業がさかんになっている。

〈製造業〉 各種の製造、加工、抽出の基幹産業がこの州全土にわたって発展し始めたところである。又造船業が活発である。

都市と町

〈アムハースト〉 (人口: 99,666人)

- ・ノバ・スコシア州/ニュー・ブランズウィック州の境界線の付近にある。
- ・皮革製品、鋳鉄、洋品、鉄鋼製品、酪農品、航空機部品を製造している。
- ・付近で石炭採掘が行われている。

〈アンティゴニッシュ〉 (人口: 5,489人)

- ・ハリファクスとシドニーの中間点に位置する。

- ・聖フランシス・ザビエル大学で有名。この大学は、ローマカトリック系の共学の大学であるが、共同企業と社会指導における成人教育プログラムの開発の共同研究で国際的に知られている。

〈ダートマウス〉（人口：64,770人）

- ・ハリファックス港の東海岸に位置している。
- ・造船所、箱工場、精油所のある産業の中心地
- ・海洋研究の中心地として知られる。
- ・ベッドフォード海洋学研究所は、ここにある。

〈グレース・ベイ〉（人口：22,440人）

- ・ケープ・ブレトン島の東海岸に位置している。
- ・250年間、重要な採掘中心地であった。
- ・カナダ最大の石炭鉱業をかかえる。

〈ハリファックス〉（人口：都市圏 222,637人）

（市 内 122,035人）

- ・ノバ・スコシア州の州都で歴史的な都市
- ・世界でも良港の一つとされる港がある
- ・重要な陸・海軍駐在地
- ・主要産業としては造船、水産加工・製造がある。ボルボの自動車組立工場は、ここにある。
- ・大学には、キングズ・カレッジ大学（英国国教系）、マウント・セイント・ピンセント大学（ローマン・カトリック系）、ノバ・スコシア芸術デザイン大学、セント・メリー大学、アトランティック教育大学、ドルホーシェ大学（1818年創立）がある。
- ・この町は、アトランティック交響楽団とネプチューン劇場の本拠地であり、カナダでもっとも古い常時上演劇場がある。

〈ニュー・グラスゴー〉（人口：10,849人）

- ・イースト川河岸にある
- ・石炭、鉄鋼業で有名

- ・過去10年間、経済成長が急速であった。

現在、10マイル(16Km)半径内に20以上の製造・加工工業がある。

〈シドニー〉 (人口 都市圏：91,162人 市内：33,230人)

- ・ケープ・ブレトン島の産業・商業の中心地
- ・鉄鋼・石炭工業の中心地
- ・この地域での石炭採掘は、ほとんどすべてが海底炭田である。

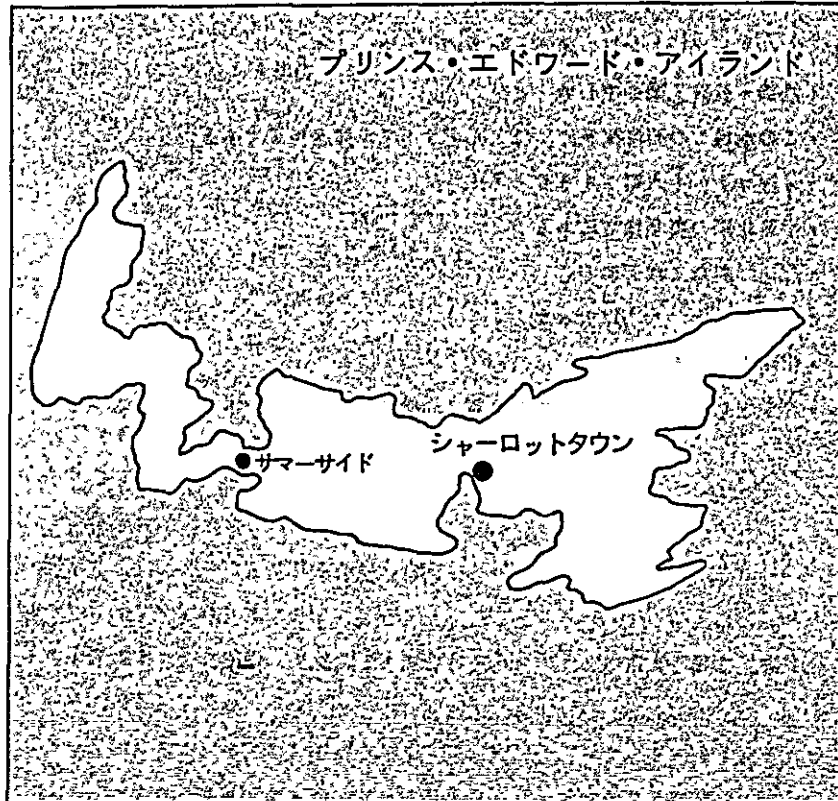
〈トゥルロ〉 (人口：13,047人)

- ・半島北部の農業地帯にある
- ・配送、製造、教育の中心

〈ヤーマウス〉 (人口：8,516人)

- ・州南端に位置している
- ・産業としては、綿工業、乾燥魚製造、機械、木材プラントなどがある。

c) プリンズ・エドワード・アイランド州



人 口 111,641人

主要人種 イギリス系 79%、フランス系 17%、ミック・マック・インディアン 1%

州 都 シャーロットタウン

(人口 都市圏：25,253人)

(市 内：19,133人)

地 理 この州の面積はカナダで最小であり、長さは約140マイル(224km)で、平均巾は20マイル(32km)である。セントローレンス湾にうかび、ニュー・ブランズウィック州、ノバ・スコシア州を沖にみるこの島は、二系統のフェリーと空路により、大陸と連結されている。島の景観は低地の緑の牧場、まがりくねった山々、森からなっている。島の海岸線は長い砂浜と赤い砂岩の絶壁とでふちどられている。この州は、マルベク湾の深いくい込み、ヒルズ・ボロー州河口とにより、3つの地方に分けられる。気候は温暖湿潤であり、冬は温和ではあるが、北大西洋から吹く冷たい風が春の到来を遅らせがちである。

産 業

〈農業〉 豊かで、肥えた土壌と、温和な気候とが相まって農業をかなり発展させている。プリンス・エドワード・アイランド州のジャガイモは大陸中で有名であり、この島の主要作物である。

〈漁業〉 イセエビ漁は、この島の住民にとり重要な収入源であり、イセエビの缶詰工業は主要産業の1つとなっている。マルベク湾のカキは、その品質の良さでよく知られている。

都市と町

〈シャーロットタウン〉 (人口 都市圏：25,253人、市内：19,133人)

- ・島の南側中央に位置している
- ・州都であり、かつ、商業・教育の中心地
- ・東海岸には最高級の港がある
- ・芸術同盟センター(Confederation Center of Art)は、1,000席をもつ劇場であり、“フォーク・フォレス(Feux Follets)”というカナダ

の国立舞踊団の本拠地である。

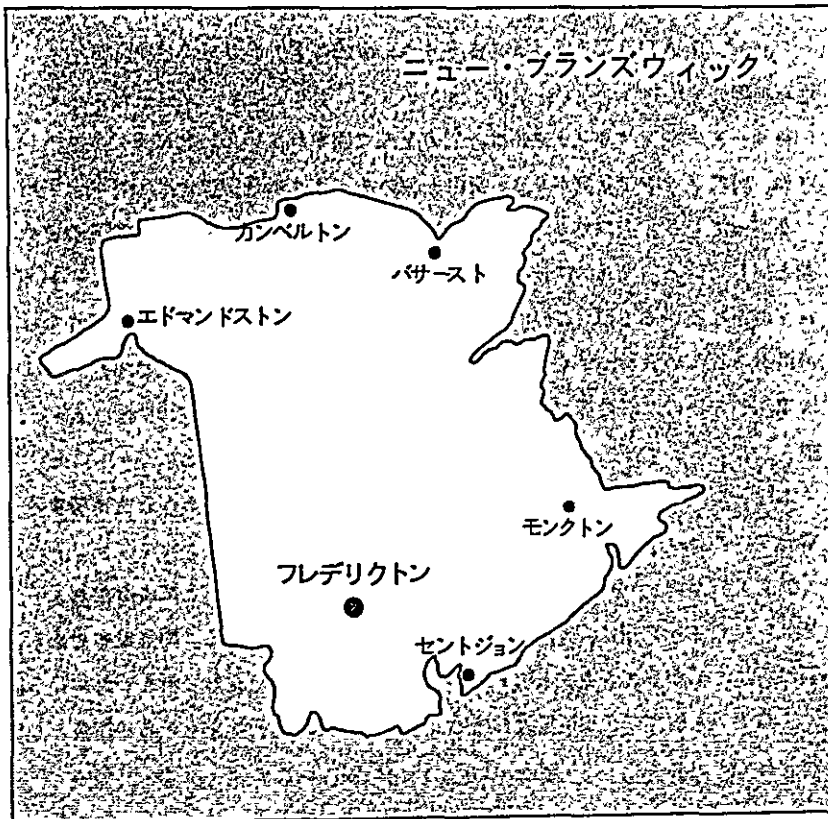
・プリンス・エドワード・アイランド大学はここにある。

〈サマーサイド〉（人口：9,439人）

・島の南岸にあり人気をあつめている夏の行楽地

・農業社会として繁栄している。また、マルベケのカキ産業の中心地

d) ニュー・ブランズウィック州



人 口 634,557人

主要人種 イギリス系 64%、フランス系 34%

州 都 フレデリクトン

(人口 都市圏：376,844人、市内：24,254人)

地 理

ニュー・ブランズウィック州は、二方を海で囲まれている。北にセントローレンス湾、南にファンディ湾がある。東は、狭いチグネクト地狭でノバ・スコシア州とつながっており、西側でガスペ半島と境界線をもち、さらに南側は、米国のメイン州と接している。全体的に丘陵地で、場所によっては、海拔2,000フィート(600m)のところがあるが、この州は川が多い。土壌は岩盤質で、農業には適さないが、降雨があるため森林がよく成長している。ニュー・ブランズウィック州の気候は温暖で、冬と夏の寒暖の極端な差はない。

産 業

〈木材〉 州の北半分は深い森林におおわれ、木材切り出しはもっとも重要な産業の一つである。

〈農業〉 セントローレンス溪谷の豊かな土壌と好ましい気候とにより、ニュー・ブランズウィック州は、カナダ有数のジャガイモ生産地である。酪農は中央から南部にかけて拡がっており、果物・野菜栽培はあちこちに散在して行なわれている。

〈漁業〉 大西洋の漁場に接近しているため、漁業は高利益をもたらす産業として発達している。

〈鉱業〉 ミント盆地にはある程度石炭が埋蔵されており、又、最近、銅、鉛、亜鉛が発見されたことからこの州の鉱業生産はふえる見込みである。

〈製造業〉 この州では製造業が盛んであり 食品・飲料、木材、紙および関連品輸送装置、電気製品、非金属鉱物製品、化学製品等を生産している。

都市と町

〈バサースト〉 (人口：166,744人)

- ・ シャロー湾南岸に位置している
- ・ 産業、海運、観光の中心地

- ・漁業、林業、鉱業の中心地

〈キャンベルトン〉（人口：10,335人）

- ・レスティゴッチュ川に面している。
- ・主要産業は木材切り出しと、パルプ材の積出しである。
- ・ハリファクスとモントリオールの中心にあり、カナダ国有鉄道（CN）の地方支部
- ・湖や川の数が多く、サケ、マス漁が豊かである。

〈エドモンドストン〉（人口：12,365人）

- ・セント・ジョン川の上流にある。
- ・この州のパルプ・紙工業についての中心的基地
- ・手織の布、木彫りなどのような手芸品で有名
- ・人口の70％はフランス語を話す

〈フレデリクトン〉（人口 都市圏 37,684人、市内 24,254人）

- ・州都、木立ちと魅力的な公園のある絵のように美しい町
- ・ニュー・ブランズウィック大学、州立教育大学、セント・トマス大学、カナダ農業研究センターはここにある。

〈モンクトン〉（人口 都市圏：71,416人、市内：47,891人）

- ・ベティコディアク川に面しており、セント・ジョンズから90マイル（144km）ハリファクスから160マイル（256km）離れている。
- ・州第二の都市、海運の中心地。モントリオールの東にある最大の鉄道、航空路の中心地
- ・主要工業品として、木材、化学製品、金属、ビスケット、羊毛製品、飲料がある。
- ・ケベック市の東方で、フランス語の学位を与える唯一の大学、モンクトン大学がここにある。

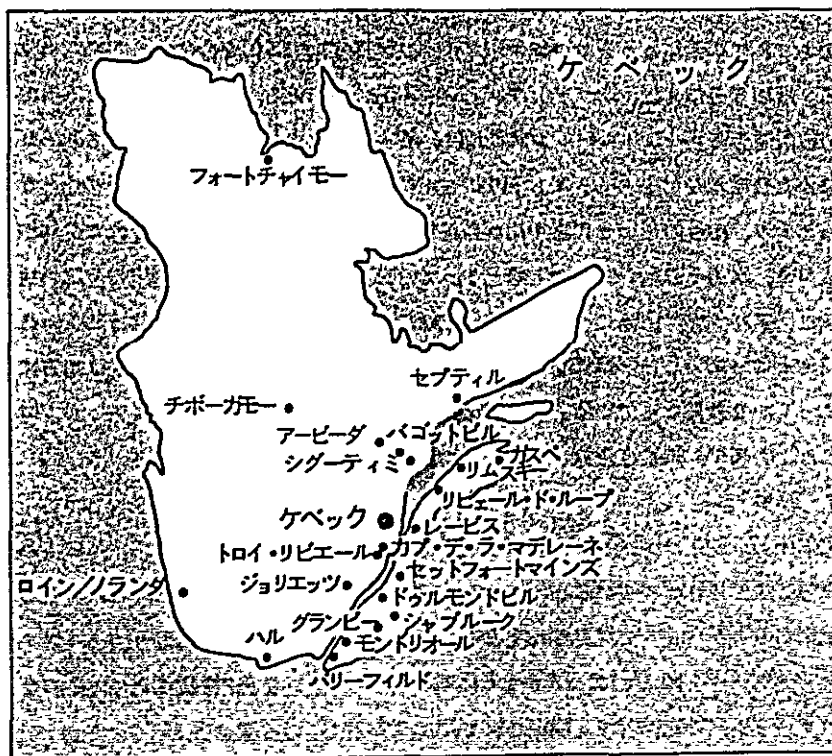
〈セント・ジョン〉（人口 都市圏：106,744人、市内：89,039人）

- ・セント・ジョン川の河口に位置している。
- ・北アメリカでもっとも古い町の1つ

- ニュー・ブランズウィックの商業・工業の中心
- カナダの不凍港の一つ。嵐を避けることのできるこの港は、大西洋岸で良港の一つとなっている。
- 産業としては、造船、石油精製、砂糖精製、建設用鋼材、しんちゅう、家具、紙、木材、水産品、茶、コーヒー、香辛料、カンヅメ製品などが生産されている。他に、この町は穀物と木材の輸出の中心地でもある。

II - 2 カナダ 中央部

a) ケベック州



人 口 6,027,764人

主要人種 フランス系 80%、イギリス系 11%、イタリア系 3%、ユダヤ系 2%

州 都 ケベック・シティー

(人口 都市圏：480,502人、市内：186,088人)

地 理

ケベック州の面積は、60万平方マイル(156万Km²)と、カナダでは最大の州であり、この面積はまたフランス、ドイツ、スペインの3国を合わせたものに相当する。州の5分の4は、カナディアン・シールドの中にあるので、その土壤は不毛で岩盤質である。セントローレンス低地は、最も人口集中した産葉の中心であり、又、豊かな農業地帯でもある。モントリオールの北は、有名なローレンシア行楽地となっており、山々のあいまに湖や川が点在している。その向こうには、巨大な森林が広がり、水力その他の資源の宝庫となっている。セント・ローレンス川の南部の地域は、アパラチア山脈の一部を構成しており、その高地は深い森林、低地は良い農耕地となっている。一口にケベックと言っても、その広大さゆえに、気候は地方によってかなり異なっている。北部、北西部は、寒冷で天候は安定しているが、南部は、温暖で、天候は急激に変化しやすい。

産 業

〈鉱業〉 鉱業はケベック州の最も重要な産業である。各種の金属が何十年にもわたって採掘されてきているが、最近になってかなりの埋蔵量が見とまれる鉄鉱石の鉱床が中央ケベックで見られている。ガスベでは銅が採掘されており、イースタン・タウンシップスでは、アスベスト、金、銅、亜鉛などが採掘されている。金はケベック州の北西部でも採掘されている。

〈水力発電〉 水は、ケベックの第二の主要な資源であり、他の州にくらべて、利用度も高く、より広範な可能性を持つ資源でもある。安い電力の即時供給という恩恵によって、数々の産業がこの地で発生している。

〈林業および林産品〉 ケベック州の森林はカナダのパルプの36%、紙生産の35%を供給している。

〈農業〉 セント・ローレンス川北岸に沿った地域、およびイースタン・タウンシップスの土壌は混合農業に非常に適している。ケベックは、砂糖カエデシロップの生産で有名である。

都市と町

〈アービーダ〉（人口：1 8 4 4 8 人）

- ・サグネイ川に面しており、ケベック・シティの北、約1 3 5 マイル（216km）にある。
- ・世界最大のアルミニウム溶解工場の一つがあり、カナダ最大の計画都市である。

〈バゴットビル〉（人口 6 0 4 1 人）

- ・サグネイ川に面しており、ケベック・シティの北1 3 2 マイル（211km）のところ、ラク・セント・ジーン地域にある。
- ・重要な空軍基地
- ・主要産業としては、木材、紙製品、コンクリートの生産がある。

〈カブ・デ・ラ・マデレーネ〉（人口：3 1, 4 6 3 人）

- ・セント・モーリス川とセント・ローレンス川の合流地点にあり、モントリオールの東、1 0 3 マイル（165km）のところにある。
- ・新聞用紙や数々の木材副産物を生産している3つの製造工場を含め、45の工場をもつ、産業上の重要な拠点である。

〈チコーティミ〉（人口 都市圏：1 3 3, 7 0 3 人、市内：3 3, 8 9 3 人）

- ・サグネイ川に面しており、セント・ローレンス川との合流地点から、約70マイル離れており、ラク・セント・ジーン地域にある。
- ・州政府および連邦政府、教育、宗教組織にとって重要な行政上、管理上の中心地である。主要産業としては林業およびパルプ、家具、アルミニウムの窓枠、鍛造品、皮革製品、靴類などの製造をしている。
- ・ケベック大学の分校がここにある。

〈ドゥルモンドビル〉（人口：3 1, 8 1 3 人）

- ・モントリオールの南東60マイル（96km）に位置している。
- ・70以上の工場をもつ工業都市。人絹・メリヤス・綿製品、紙製品、照明機材、

金属、染物製品などを生産している。

〈ガスベ〉(人口：17,211人)

- ・ガスベ半島の東端に位置している。
- ・以前は林業と、漁業が主要産業であったが、現在は埋蔵量豊かな銅、石油資源の開発がこれにとってかわっている。
- ・サケ、トラなどがこの地域でとれるが、国内向け、外国輸出向けともに現在需要はかなり多い。

〈グランビー〉(人口 都市圏：39,307人、市内：34,385人)

- ・モントリオールの南東58マイル(93km)のところに位置している。
- ・ゴム製品、菓子類、化学製品、家具類、プラスチックの製造などが主要産業である。
- ・カナダで最も有名な動物園の一つがここにある。

〈ハル〉(人口 都市圏：149,230人、市内：63,580人)

- ・オタワ川の北岸に位置している。オタワの向い側の都市、ハルは、首都圏の一部である。
- ・この地域で最大の雇用主体は連邦政府であり、パルプ、紙製品の製造が主要産業である。
- ・ケベック大学の分校がここにある。
- ・(国の首都の章を参照のこと)

〈ジョリエツ〉(人口 20,127人)

- ・モントリオールの北東37マイル(59km)のところに位置している。
- ・工業、商業の中心地であり、有名なタバコを生産する農業都市
- ・産業としては、化学製品、紙製品、鉄鋳、繊維製品の製造がある。

〈ジョンキエール〉(人口 28,130人)

- ・ラク・セント・シオン地域に位置しており、ケベック・シティーの北135マイル(216km)のところにあり。
- ・主要産業としては、印刷、観光、製材、鉄鋼板、繊維、ドア、シャーシ、木製品、酪農品の製造がある。

〈ラチネ〉（人口：4 4,112人）

- ・モントリオールの新国際空港ミラベルに向う自動車道に沿ってモントリオールから5マイル（8km）のところにある。
- ・約700の工場がこの地にある。それには電話機と電話ケーブル、ディーゼル、モーターとタービン、モーターと電気製品の製造が含まれる。

〈ラバル〉（人口：237,000人）

- ・モントリオールの郊外、ジェーヌス島にある。
- ・産業中心地で、1,200以上の商社、製造会社がある。主要産業としては、パイプライン、配電機、換気設備、紙製品の製造、印刷業がある。
- ・この地域の鉱物資源としては、砂、みかげ石、長石およびコロソビウムがある。

〈レービス〉（人口：16,597人）

- ・セント・ローレンス川の南岸にありケベック・シティの対岸に位置している。
- ・重要な金融機関である、Caisse populaires Desjardinsの本社がある。

〈ロンジュール〉（人口：116,478人）

- ・セント・ローレンス川の南岸に位置している。モントリオールから2マイル（3km）のところにある。
- ・工業の一大中心地。主要産業としては、航空機部品の製造、タイル、羊毛品、おもちや、家具などがある。
- ・3,000以上の企業がここにある。

〈モントリオール〉（人口 都市圏：2,743,208人、市内：2,537,035人）

- ・1642年に作られた歴史的な都市。カナダ最大の都市。オタワ川とセント・ローレンス川の合流地点、モントリオール島にある。
- ・海から1,000マイル（1,600km）離れているが、モントリオールは重要な海港であり、更に、財政、商業、工業の中心地である。
- ・5,000以上の工業がある。石油、機関車、車両、建築資材、鉄材、タバコおよび化学製品、繊維、航空機、電気製品など、無数の品目が製造されている。その他の産業としては、造船、食肉包装などがあり、モントリオールはまた、重要な動力資源の中心地である。

- 数多くの銀行、保険会社等、カナダの主だった企業がここに本社を置いている。
 - 新国際空港であるミラベルは、世界で最も近代的な空港の一つである。二つの国際航空組織である、I C A OとI A T Aの本部がある。
 - 1967年のワールド・フェア(Expo '67)および1976年のオリンピック開催地。
 - 市の人口の3分の2は、フランス語を話す。
 - 大学としては、モントリオール大学、マギール大学(カナダで最も古い大学の一つ)、コンコルディア大学(以前はサー・ジョージ・ウィリアムカレッジおよびローヤルカレッジ)およびケベック大学の分校がある。
 - 文化面では、モントリオール工芸博物館(カナダで最も古い美術機関)、ブラセ・デアーツ(上演芸術を専門とするいくつかの劇場のあつまり)、バレエ団、劇団およびモントリオール・シンフォニー・オーケストラ等がある。
 - 北へ約40マイル(64km)行ったところからローレンシア・リゾート・エリアが始まる。これは、世界でも最大のスキー場であり、夏は野外活動の場として人気がある。
- 〈ケベック・シティ〉(人口 都市圏：480,502人、市内：186,088人)
- ケベック州の州都であり歴史的な町。1608年に建設。セントローレンス川の北岸に位置しており、モントリオールの北東155マイル(248km)のところにある。
 - ケベック・シティは二つの部分からなっている。アップータウン(新市街)およびロウアータウン(旧市街)である。
 - 産業の発達面においては、モントリオールに次ぐ州第二の都市。
 - 産業としては、缶詰工業、製紙業、鋳造業、毛皮加工また、洋品、キャンディー、チョコレート、茶、靴、皮製品、タバコ製品、箱類、清涼飲料水の製造がある。
 - ケベック大学(フランス語系の宗派のない大学、分校はチコーティミ、モントリオール、ハル、リムスキー、トロイ・リビエール)が、ここにあり、カナダで最も古い大学の一つであるラバル大学(フランス語)は、サント・フォイ

の近くにある。

- ・毎年2月、2週間開催されるケベック・ウィンター・カーニバルは、カナダおよびアメリカ合衆国から多くの観光客をまつめる。雪の彫刻や色彩豊かな雰囲気がある。ケベック・カーニバルの出し物としては、パレード、野外劇や、セント・ローレンス川でのカヌーレース、ドッグ・ダービー、国際カーリング、ボンスピエルなどのスポーツ競技が行なわれる。
- ・文化面では、ケベック・シンフォニー・オーケストラと、グランドノクターがその質の高い作品で有名である。

〈リムスキー〉(人口 28,051人)

- ・セント・ローレンス川の南岸に位置しており、ケベック・シティの東、185マイル(296km)のところにあり。
- ・行政の中心地、モンジョリと共にセント・ローレンス川南部地域の経済の中心地を形成している。
- ・道路、鉄道、航空路によるガスペ半島への出入口
- ・主要産業としては、金鉱、電気製品、エレクトロニクス、ケーブル、印刷がある。

〈リビエル・ド・ループ〉(人口 129,760人)

- ・セント・ローレンス川の南岸に位置し、ケベック・シティの東、125マイル(197km)のところにあり。
- ・ガスペ半島および、ニュー・ブランズウィックをつなぐ重要な交通路
- ・人気のある夏の行楽地
- ・教育、商業の中心地
- ・州最大の泥炭ゴケ植物がある。

〈ロインおよびノランダ〉(人口 ロイン:17,821人、ノランダ:10,741人)

- ・ツイン・シティであるロインとノランダはモントリオールの北東、390マイル(624km)のところにあり。
- ・ロインは、商業の中心地で、ノランダは工業の中心地、住宅地である。
- ・この2つの都市の主要産業は、金、銅、亜鉛の採掘である。

〈セント・フォイ〉（人口：68,385人）

- ケベック・シティーから、2マイル（4km）のところにあり、主として住宅都市である。
- 数々の保険会社、およびこの地域の主要な病院の本部がある。
- ラバル大学はここにある。

〈セプティル〉（人口：24,320人）

- ケベック・シティーの東、350マイル（560km）のところにあり。
- 北岸低地最大の都市であり、積出港である。
- 北に広がる広大な鉱脈から採掘される鉄鉱石は、カナダと米国の鉄鋼所へむけて、この港から積み荷されている。

〈シャウィニンガン〉（人口 都市圏：57,246人、市内：27,792人）

- セントモーリス川の西岸に位置している。
- 大規模な水力発電所があり、その結果、ここはケベックで最も重要な工業都市となっており、大きなパルプ、紙工場がある。その他アルミニウム、セロハン、プラスチック、繊維、化学工場などがある。

〈シャブルーク〉（人口 都市圏：84,570人、市内：80,711人）

- モントリオールの東97マイル（155km）のところに位置しており、シャブルークは、イースタン・タウンシップの女王として知られる。
- この地域には、約120の工場があり、チョコレート、パルプ、紙、繊維、重機械の製造をしている。
- 豊かな農耕地に囲まれており、この町は農業と酪農品で有名である。
- カナダで最も急速に発展したスキー場のの一つがある。
- シャブルーク大学（フランス系）はここにある。

〈ソレル〉（人口：19,247人）

- セント・ローレンス川南岸に位置しており、モントリオールの東44マイル（70km）のところにあり。
- 重要な産業都市。産業としては金属加工工場、機械工場、電気オーブン、海軍砲兵器、鋳造および造船所がある。

〈セイント・ヒヤシンス〉(人口: 24,562人)

- ・モントリオールの南東35マイル(56km)のところにある。
- ・工業、商業都市。産業としては、紡績工場、家具製造および世界的に有名なオルガン工場がある。
- ・フランス系の獣医学校がここにある。

〈セント・ジーン〉(人口: 32,863人)

- ・モントリオールの南25マイル(40km)のところにある。
- ・工業都市であり、かつ農産物取引地でもある。
- ・主要産業には、ミシン、粘土製品、機械、ゴム製品、羊毛品の製造がある。
- ・ローヤル・ミリタリー・カレッジ(フランス語)がここにある。

〈セツフォード・マインズ〉(人口 都市圏: 26,126人、市内: 23,003人)

- ・シャブルークの北東64マイル(102km)のところにあり。
- ・世界最大のアスベスト鉱床がある。
- ・この地域には、塩素、銅、燧石の鉱床がある。

〈トロイ・リビエール〉(人口 都市圏: 97,930人、市内: 55,869人)

- ・セント・ローレンス川の北岸にあり、モントリオールとケベック・シティの中間にある。
- ・重要な港で年間を通じて使える良い港である。
- ・世界で最大級の紙生産の中心地である。
- ・その他の産業としては、繊維、洋品、靴、化学製品、電気製品などがある。
- ・ケベック大学(フランス語)の分校がここにある。

〈バリーフィールド〉(人口: 30,173人)

- ・セント・ローレンス川の南岸に位置しており、モントリオールの南西33マイル(53km)のところにあり。
- ・ケベックのベニスとして知られるこの町は重要な河港であり、産業の中心地である。
- ・産業としては、菓子製造、繊維工場、化学工場がある。
- ・北アメリカでの製紙工業の発祥地(1834年)

b) オンタリオ州



人 口 7,703,106人

主要人種 イギリス系 59%、フランス系 10%、ドイツ系 6%、イタリア系 6%、オランダ系 2%、ウクライナ系 2%、ポーランド系 2%、ユダヤ系 1%

州 都 トロント(人口 都市圏:2,628,043人、市内:712,786人)

地 理 オンタリオ州はカナダ第2の州である。高地は大部分が岩が多くてこぼこした地形で、森は深い。南部の半島は、ほとんどが五大湖によってかこまれており、このため気候は温暖である。南端とセント・ローレンス川に沿った地域は、カナダで最も豊かな農業地帯である。州は広大な広がりを持っているために、北と南では気候が大きく違っている。オンタリオ南部は、夏冬とも温暖な気候であるが北に行くにしたがって気温は下がって来る。

産 業

〈鉱業〉 オンタリオ州北部の最も重要な産業は鉱業である。主要鉱物としては金、銀、ニッケル、銅、亜鉛、石ころ、岩塩がある。オンタリオ州はカナダの鉱物資源生産の約半分を占めている。

〈林業〉 広大な森林資源がオンタリオ州北部にあることによって、木材、製材、パルプ、製紙業が、広範な地域にわたって発達している。

〈商業〉 オンタリオ州南部はカナダでも最も工業化された地域であり、この国の商業交通の大部分はセント・ローレンス水路および五大湖の水路システムによって行われている。

〈農業〉 オンタリオ州の南部においては、混合農業、酪農、果実栽培、市場園芸が主要である。ナイアガラ半島は、モモ、サクランボ、ブドウ、その他の果実、市場野菜の生産およびよく発達したかん詰工場等で重要な地域である。

都市と町

〈バリー〉 人口(都市圏:38126人、市内:27676人)

- ・シンコー湖湖畔に位置しており、トロントの北49マイル(78km)のところにある。
- ・工業都市であり、又、大きなシンコー湖観光の中心地でもある。

- ・州の6つのハイウェイがここで合流する。

〈ベルビル〉(人口:35,128人)

- ・オンタリオ湖のキンテ湾に面しており、トロントの東、113マイル(181Km)のところにある。
- ・工業都市で、オンタリオ州におけるチーズの最大生産地の一つである。
- ・CN鉄道の重要なターミナルにあたる。

〈プラットフォード〉(人口 都市圏:80,284人、市内:64,421人)

- ・トロントの南西65マイル(104Km)に位置する。
- ・150を越す工場がある。
- ・電話の発明者アレキサンダー・グラハム・ベルの故郷

〈チョーク・リバー〉(人口:1,094人)

- ・オタワ川に面しており、オタワの西、約100マイル(160Km)のところにある。
- ・世界で初めての原子力研究所の一つがある。

〈チャザム〉(人口:35,317人)

- ・テムズ川の岸辺に面しており、オンタリオ州南西部に位置する。
- ・豊かな農業地帯の中心地
- ・主要産業としては、農産物加工工場、肥料、種子工場などの他、自動車およびその付属品の製造にかかわる広範な自動車産業がある。まわりを囲むゆたかな農業地帯では、トウモロコシ、トマト、大豆、米、小麦、野菜、果物などが栽培されている。
- ・オンタリオ州の天然ガス生産の中心である。

〈コーンウォール〉(人口:47,116人)

- ・セント・ローレンス川に面しており、モントリオールの西、69マイル(110Km)のところにある。
- ・米国に始点をもつインターナショナル・ブリッジの終点でもある。
- ・セント・ローレンス海路会社の恒久本部がここにある。
- ・産業としては、化学プラント、パルプ、製紙工場、ナイロン・レニオンおよび

その他の合成繊維工場、また世界唯一のラクロスのスティック製造工場がある。

- ・カナダで最もみごとに再建された古い町である上カナダ・ビレッジは、コーンウォールの西、約25マイル(40km)のところにある。

〈ゲルフ〉(人口 都市圏：62,659人、市内：60,087人)

- ・オンタリオ州南部の豊かな農業地帯の中心に位置しており、トロントの西、約55マイル(88km)のところにある。
- ・150を越す工場があり、電気製品、ラジオ、医薬品、繊維製品、タバコ、酪農製品を生産している。
- ・ゲルフ大学はここにある。
- ・特別行事の一つとして、毎年5月に開かれるゲルフ・スプリング・ミュージック・フェスティバルがある。

〈ハミルトン〉(人口 都市圏：498,523人、市内：309,173人)

- ・オンタリオ湖の西端に位置している。
- ・主要な工業都市(700以上の製造工場がある)であり、カナダでも重要な鋼鉄生産の中心地
- ・豊かなナイアガラの野菜畑、果樹園、酪農地帯に対する主要配送センター。
- ・内陸港であるが、カナダにおける水運の貨物取扱量は第3位
- ・マクマスター大学はここにある。

〈ケノラ〉(人口：10,952人)

- ・オンタリオ州西部にあり、マニトバ州との境界線の東、32マイル(51km)のところにある。
- ・夏の行楽地として人気があり、ウッズ湖に通じる北の出入口
- ・この地域における何千もの湖は、ハンティングと釣りに非常に適している。

〈キングストン〉(人口 都市圏：85,877人、市内：59,047人)

- ・オンタリオ湖がセント・ローレンス川に注ぎ込むところにあるサウザント島の先端に位置している。
- ・歴史的な町
- ・ローヤル・ミリタリー・カレッジ(重要な軍事訓練センター)、カナダ陸軍士官

大学および国家防衛大学の基地がある。

- クウィーンズ大学はここにある。

〈キッチナー〉(人口 都市圏：226,846人、市内：111,804人)

- トロントの南西、63マイル(101km)のところにあり。キッチナーは、そのツイン・シティであるウォータールーと共に、オンタリオ州南部の産業の中心地となっている。もともとはドイツ人開拓者たちが定着したところである。
- 豊かな農業地域にとりかこまれている。
- ウォータールー大学とウィルフレッド・ロリエ大学がここにある。毎年10月には10月祭(Octoberfest)という9日間におたるドイツ祭りがもよおされる。

〈ロンドン〉(人口 都市圏：286,011人、市内：223,222人)

- テムズ川の溪谷にあり、トロントの南西にあたる。
- 商業、工業、金融のオンタリオ州西部の中心地
- ウェスタン・オンタリオ大学がここにある。

〈ミッドランド〉(人口：109,922人)

- ジョージア湾に入るところに位置する製造業の中心地
- プラスチック、ファイバーグラス繊維、ワイヤ・ロープ、ケーブル、鋳鋼品、ステンレス製品、ポンプ、カメラ、光学レンズ、顕微鏡等を製造している。
- 小麦粉工場、靴工場、石炭積出しドックがある。
- ヒューロン・インディアンの村がある。これはこの地域で300年以上前に見つけられた典型的なヒューロン・インディアンの要塞村を正確に再現したものである。

〈ナイアガラ・フォールズ〉(人口：67,163人)

- ナイアガラ瀑布で世界的に有名なナイアガラ川に面している。
- 製造業の中心地でもあり、又カナダで最良の農産物、果樹の成育する土地であるこの地域一帯の重要な集散地
- ジョージ・バーナード・ショーの劇を呼び物とする“ショー・フェスティバル劇場”がナイアガラフォールズから8マイル(13km)のところにあり、ナイアガラ・

オン・ザ・レイクにある。

- ナイアガラ・ワイン・フェスティバルは10日間にわたる祭典で、多くの文化グループによる催し物と呼び物としており、毎年ここで開かれる。

〈ノース・ベイ〉(人口:49,187人)

- ニピッシング湖の岸辺にあり、トロントの北、220マイル(352km)のところにある。
- 輸送および配送の中心地であり、又、観光客に人気のある場所でもある。
- 主要産業として、この地域における金、ニッケル、ウラン鉱に役立つダイヤモンドドリル、その他の採掘機材、木製品および燐素を製造している。

〈オリリア〉(人口:24,040人)

- 美しいシンコー湖とユーチチン湖の湖岸に位置する。
- 産業の中心地であるが、夏の行楽地としても最高である。
- カナダで最も有名なユーモア作家、スティーブン・リーコックの故郷

〈オシャワ〉(人口 都市圏:120,318人、市内:91,587人)

- オンタリオ湖に面しており、トロントの東、32マイル(51km)のところにある。
- オンタリオの主要産業センターの一つ
- ゼネラル・モーターズおよびその他の工業基地がある。
- 大洋航海を行う船を修理することができる良港

〈オタワ〉(人口 都市圏:453,280人、市内:302,341人)

- この国の首都であり、連邦政府もここにある。オンタリオとケベックの州境をなすオタワ川の南岸に位置している。(ハル市は、ケベック州にあるこの川の北岸の町である)
- 300を越す工場が、オタワ・ハル地域に発達しており、これにはエレクトロニクス機器、洋品、食品加工、バルブ・紙製品などの製造業、多くの企業、連邦政府機関およびテクノロジーの高度な発達をその特徴としている英連邦企業がある。
- 大学は、カールトン大学(英語系)およびオタワ大学(2カ国語)がある。

・（国家の首都の章を参照）

〈ビーターボロー〉（人口 都市圏：63,531人、市内：59,346人）

- ・トロントの北東、76マイル（122km）のカワーサ湖地区にあり、有名な行楽地である。
- ・大規模な殺物工場をもち、100以上もの工場をもつ工業の中心地
- ・水車発電機、ゴムホース、船外モーター、チェーンソー、置時計、時計の製造の中心地
- ・ビーターボロー空港は、アメリカ大陸のあらゆる地方にチャーター便のサービスを行っている。
- ・トロント大学はここにある。

〈セント・カトリース〉（人口 都市圏：303,429人、市内：109,722人）

- ・トロントの南、約35マイル（56km）のところにあり、オンタリオ湖の対岸で、カナダの“ガーデン・シティ（Garden City）”として知られている。
- ・豊かなナイアガラ果樹地帯に属し、カナダで最も豊かなブドウ栽培の中心地
- ・重要な産業都市で150以上の工場がある。主な生産物としては、パルプ、紙、道具、自動車部品、ブドウ酒、重工業、機械工業がある。
- ・ブロック大学はここにある。

〈サーニア〉（人口 都市圏：78,444人、市内：57,644人）

- ・カナダ・米国国境から102マイル北（163km）のところにあり。
- ・オンタリオ州の石油精製業および石油化学の産業基地である。

〈ソルト・セント・マリー〉（人口 都市圏：81,270人、市内：80,332人）

- ・ヒューロン湖とスベリオル湖をつなぐセントマリー川に面している。
- ・カナダ第2の鉄鋼製造の中心地
- ・その他の産業として、動力資源および紙製品の製造がある。観光もますますさかんになっていく産業である。

〈サドバリー〉（人口 都市圏：155,424人、市内：90,535人）

- ・トロントの北西、240マイル（380km）のところにあり、カナダ太平洋鉄道とカナダ横断ハイウェイの大陸横断路線上に位置する。

- ・オンタリオ州中部、北部の広い地域における商業、物資の集散、交通の中心地
- ・この町的发展は、鉱業によるものである。主要鉱物としては、銅、ニッケル、これに次いで鉄鉱石、イオウ、コバルト、銀、金がある。
- ・そのほかの2つの主要産業は、農業とパルプ・製紙業である。

〈サンダー・ベイ〉（人口 都市圏：112,093人、市内：108,411人）

- ・以前のポート・アーサーとフォート・ウィリアムの2つの都市が合併したもの
- ・スペリオル湖に面していて、ウィニペグの東、450マイル（742km）のところにある。
- ・カナダで第3に大きな港、セント・ローレンス五大湖水路の西側ターミナルで、750フィート（225m）のドライ・ドックがあり、ここでは最大級の船舶の修理が可能である。
- ・世界でも最大級の穀物積出し港があり、また、4つの大規模なパルプ、製紙工場がある。
- ・何百万トンもの穀物、鉄鉱石、パルプ、紙製品がここから毎年積み出されている。
- ・レイク・ヘッド大学はここにある。
- ・レイク・ヘッド交響楽団本部がある。

〈トロント〉（人口 都市圏：2,698,043人、市内：712,786人）

- ・オンタリオの州都でカナダ第2の都市
- ・主要な産業、商業、金融の中心地
- ・五大湖の中で最も出入りのはげしい港の一つ
- ・6千以上の工場と、何百もの下請会社がある。
- ・カナダで主要な企業の本社がここに沢山ある。
- ・株式市場センターがあり、又、カナダにおける最も人気のある伝統都市の一つでもある。カナダ最大のデパート2社の本社がある。
- ・カナダ最大の博物館、ロイヤル・オンタリオ博物館がある。
- ・諾科学にわたる450以上の展示物をほこるオンタリオ科学センターの本部
- ・マッセイホール（トロント交響楽団をもつ）およびセント・ローレンス芸術セ

ンター（トロントの1967年の百年祭プロジェクトの一つで、芸術各分野の上演センター）がある。

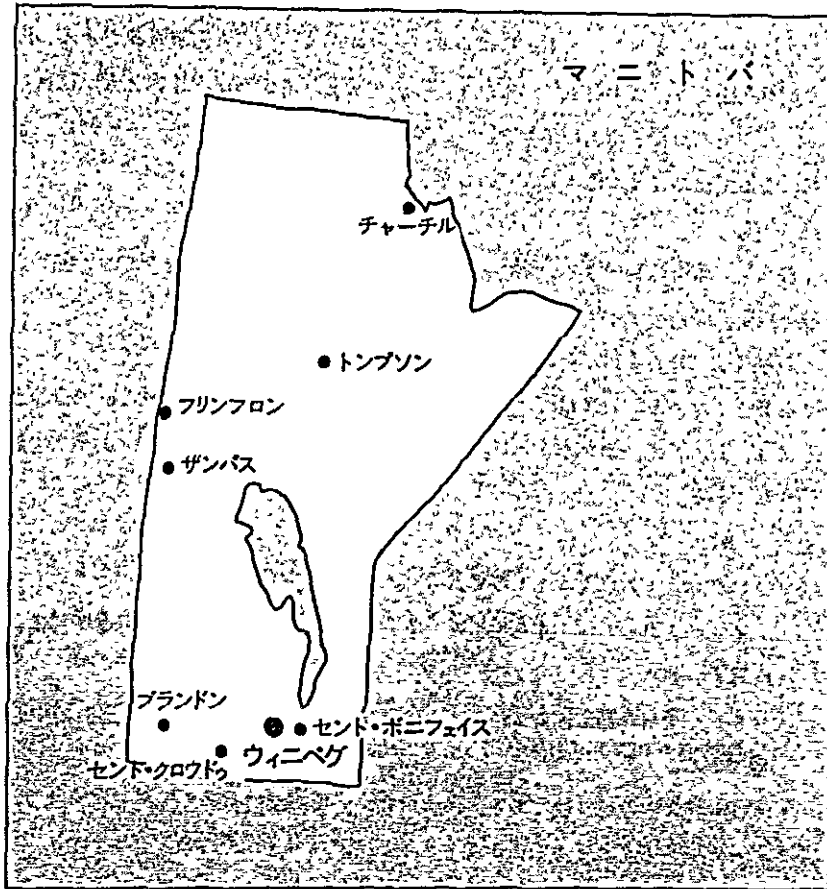
- イギリス連邦最大の教育機関であるトロント大学がここにある。
- その他の大学としては、オンタリオ教育研究大学、ライヤースン工業大学およびヨーク大学がある。
- 特別行事としては、カナディアン、ナショナル・エキジビション（毎年行なわれる博覧会としては世界最大）およびローヤル・アグリカルチャー・ウインターフェア（北アメリカで最も有名な農業フェアの一つで、呼び物はローヤル・ホース・ショーで、世界のトップレベルの馬術チームが競いあう）。

〈ウインザー〉（人口 都市圏：258,643人、市内：253,300人）

- カナダの主要な産業都市の一つ。デトロイト川をはさんで米国ミシガン州のデトロイトと対峙している。
- カナダ・米国国境にある最大の都市
- 500以上の工場施設がある。
- 主要製造品目としては、自転車、トラック、自動車付属品、アルコール飲料、繊維製品、薬品、化学薬品、機械、エレクトロニクス機材、その他の製品がある。
- この都市の地下深くには、岩塩が広大に埋蔵されており、2つの大きな製塩会社がある。附近には、数々の快適な浜辺や、行楽地があり、さらに美しいドライブウェイや公園がある。
- ウインザー大学はここにある。

Ⅱ-3 カナダ西部

a) マニトバ州



人 口 988,247人

主要人種 イギリス系 42%、ドイツ系 12%、ウクライナ系 12%、フランス系 9%、原住民 4%

州 都 ウィネペグ (人口 都市圏 : 540,262人、市内 : 246,246人)

地 理

マニトバ州は、フランスを多少上回るほどの面積を持っている。平原3州の1つとして知られ、カナダの西部州の最も東にある。この地域は、ほとんどが平原で、北部はカナディアンシールドの中であり、森林が深く、豊富な鉱物資源がある。湖や川が沢山あり、水力発電に恵まれている。平原と、なだらかな起伏をもつ放牧地が、この州の南部と南西部にわたって三角地帯を形成している。マニトバ州は、季節による気候の変化が顕著で、夏は高温、乾燥、冬は寒い。

産 業

〈農業〉 農業は引き続きこの州の主要産業であり、小麦が主要作物である。酪農と混合農業、家畜生産がますます重要性を持ってきている。

〈製材業〉 製材業は、特にこの州の東部においてさかんである。

〈鉱業〉 マニトバ州には、多くの金山と銅山がある。その他の主要な鉱物資源としては、銀、亜鉛、石コウがあるが、最近、大規模なニッケル鉱がトンプソンで開発されている。

都市と町

〈ブランドン〉 (人口 : 31,150人)

- ・ウィネペグから西へ140マイル(224km)、アシニボイニ川河岸にある。
- ・州第2の都市
- ・マニトバ州南西部全体およびサスカチュワン州南東部における地域経済の中心地である。
- ・マニトバ大学の姉妹校である、ブランドン大学の本部がある。

〈チャーチル〉 (人口 : 1,600人)

- ・300年前からある深い入江をもった海港である。カナダ最北端の港であり、ヨーロッパへのカナダからの最短ルートである。

- ・ハドソン湾岸にあり、ウイニペグの北空路650マイル(空路1,040km)のところにある。
- ・ここからヨーロッパに年間2,000~2,500ブッシェルの小麦が積み出されている。

〈セント・ボニフェース〉(人口:4,714人)

- ・カナダ西部にある最も古いフランス人定着地の一つであり、この州におけるフランス語系住民の中心地となっている。
- ・ウイニペグ市とは、経済的に統合されている。
- ・産業としては、食品、金鉱、機械の製造、第二次木材加工等がある。
- ・文化面では、肩のこらない劇場や、新式の文化センターがある他、フェスティバル・デ・ボヤゲールという大きなウインター・カーニバルがある。
- ・セント・ボニフェース・カレッジはフランス語系、ローマンカトリックの共学大学の他に、マニトバ大学の芸術学部の主要部分がここにある。

〈その他のフランス語系社会〉

- ・数多くの小さなフランス語系共同体が州の農村部、特にウイニペグ南部にある。セント・アンスおよびセント・ビエールは、レッド・リバー・バレーにあり、両村は酪農、特作物および市場園芸で有名である。
- ・ベンピナ山麓の中にあるウイニペグから南西に60マイル(96km)行った所にはノートルダム・ド・ルーデと、セント・クロードがあり、ここでは酪農および肉牛飼育、混合農業、穀物生産が行なわれている。
- ・主な食肉牛の飼育と放牧地域は、セント・ローゼ・デ・ラックで、ウイニペグの北東175マイル(280km)に位置する。
- ・こうしたフランス語圏の社会のほとんどは、人口が500~1,500であり、マニトバ州にはこの他にもフランス文化の影響を持った数々の村がある。

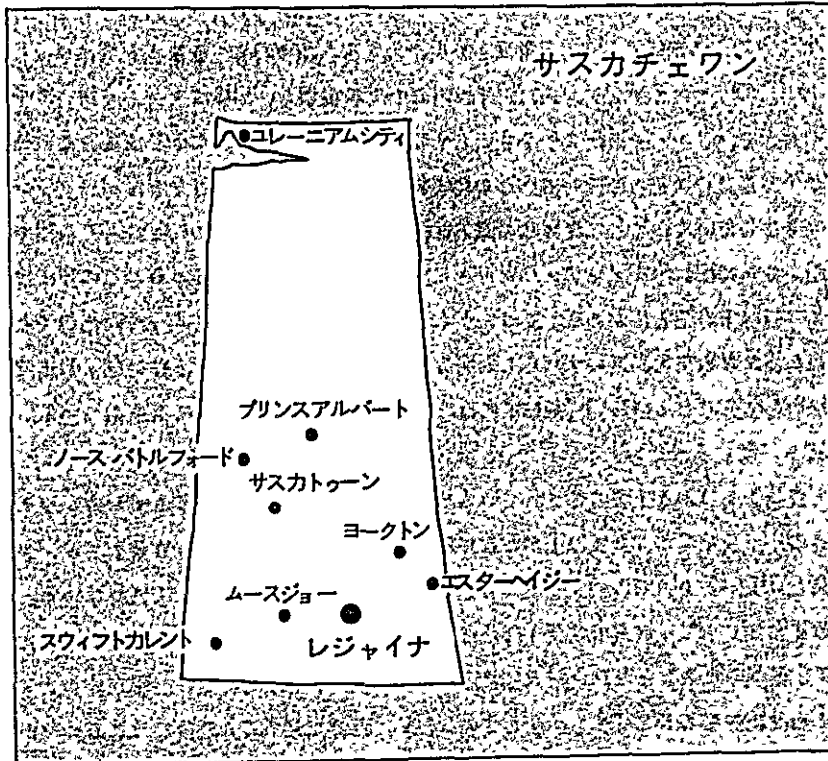
〈トンブソン〉(人口:1,900人)

- ・ウイニペグの北空路400マイル(640km)
- ・この経済はニッケル採掘に依存している。
- ・中央からは離れているが、巧みに計算された町づくりで、近代的である。

〈ウィニペグ〉（人口 都市圏：540,262人、市内：246,246人）

- マニトバ州の州都、カナダ第4の都市で、マニトバ州の都市人口の約80%をかかえる。
- 世界でも、有数の穀物市場の一つ
- 食肉包装工業および大規模な製粉工業が発達している。
- すぐれて伝統的な都市である。CNとCPの鉄道会社の西部本社がある。
- 文化、教育の中心地
- ウィニペグ大学およびマニトバ大学がここにある。
- ロイヤル・ウィニペグ・バレエおよびウィニペグ交響楽団の本拠地

b) サスカチュワン州



人 口 926,242人

主要人種 イギリス系 42%、ドイツ系 12%、ウクライナ系 9%、フランス系 6%

州 都 レジナ(人口 都市圏:140,734人、市内:139,469人)

地 理 サスカチュワン州は、平原州の中央に位置し、面積はマニトバ州よりやや大きく、アルバータ州より小さい。平らなプレーリーに作られた小麦畑は、この州の南部3分の1を占めている。この地域のすぐ北側は起伏のゆるやかなパークランドとなっている。さらに北方は、深い森林地帯となっており、ここは、多くの川や湖、さらには、カナディアン シールドの広大な鉱床をかかえている。この州には10万以上の湖と川がある。夏は短かく、暑い、冬は長く、寒い。この州のすみわたった青い空と、夏のすばらしい明るさは有名である。人口は、農村部、都市部平均して分布しているが、地理的にはほぼこの州の南部3分の1に集中している。

産 業

〈農業〉 豊かな土壌に恵まれているため、農業は、主要産業となっており、カナダの小麦栽培量の60%以上がここに栽培されている。主要な畑作物としては、小麦と大麦があり、その他ライ麦、カラス麦、ナタネ、アマなどが栽培されている。家畜の飼育も又、農業の主要な部分である。

〈鉱業〉 サスカチュワン州南部に莫大な埋蔵量の石油が発見され、現在、カナダの石油総生産の約20%を生産している。又、世界で最大の埋蔵量をほころかりが探掘され、加工されている。さらに、南部では石炭の探掘も行なわれている。サスカチュワン州は、ウラン鉱の主要な生産地でもあり、カナダで唯一のヘリウム天然資源がある。その他の鉱物には、銅、鉛、亜鉛、金、砂、岩塩、硫酸ソーダがある。

〈製材業〉 ここ10年間の間、この州の広大な森林資源の開発が大規模に進められて来ている。

都市と町

〈エスターヘイジー〉(人口:2886人)

- ・サスカチュワン州、マニトバ州境界線から24マイル(38km)のところにある。
- ・サスカチュワン州最大のカリ鉱をもつ。

〈ムース・ジョー〉（人口：3 1,2 8 4人）

- ・マニトバ州のウイニペグ、アルバータ州のカルガリーの中間点にある。
- ・硬質小麦地域における重要な産業都市
- ・産業には、製粉、食肉包装、石油精製、ワイン醸造、衣料品製造および家畜飼育がある。

〈プリンス・アルバート〉（人口：2 7,6 1 3人）

- ・ノース・サスカチュワン川に面しており、多くの主要鉄道路線の合流地点にある。多様な農業の取引きの中心地であり、広大な森林、北部の鉱物資源、リクレーション地帯への出入り口にあたる。
- ・この州で唯一のパルプ製造所をもつ。

〈レジャイナ〉（人口 都市圏：1 4 0,7 3 4人、市内：1 3 9,4 6 9人）

- ・この州の州都
- ・サスカチュワン州南部の中央に位置している。
- ・カナダで最も主要な工業中心地の1つ
- ・豊かな穀物生産地域のサービスセンター
- ・産業には、食肉缶詰、製鉄工業、石油精製、紙パックおよびベンキの製造
- ・サスカチュワン大学（レジャイナ・キャンパスがここにある。）
- ・サスカチュワン芸術センター、グローブ劇場、レジャイナ交響楽団の本拠地である。

〈サスカトゥーン〉（人口：1 2 6,4 4 9人）

- ・美しい絵のような町で、サウス・サスカチュワン川に面しており、レジャイナの北西170マイル（272km）のところにある。
- ・サスカチュワン州第2の都市
- ・カナダ最大の農業地帯の中核を為し、重要な配送、産業、教育の中心地でもある。
- ・産業としては、工業用・農業用化学薬品、建設用資材、石油製品、金属製品、セメントの生産があり、その他製粉、印刷、カリ探掘、衣料品製造なども行なわれている。
- ・カナダ最大の食肉缶詰工場がある。

- ・サスカчевン大学(サスカトゥーン・キャンパス)がここにある。

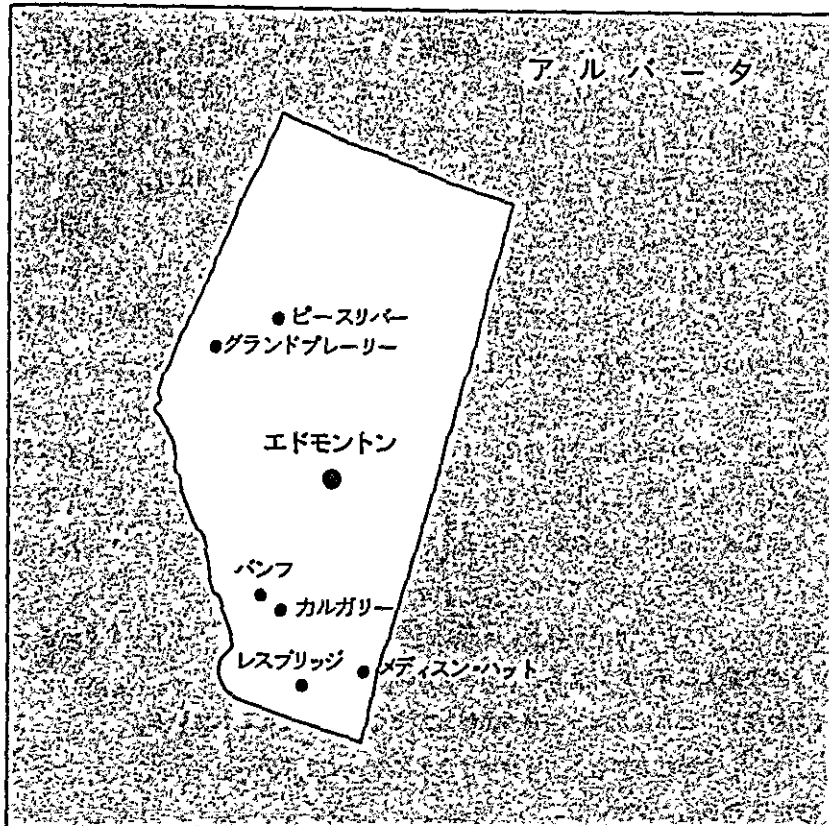
〈スウィフト・カレント〉(人口:15,048人)

- ・サスカчевン州西南部に位置している。
- ・1952年この地で油田が発見され、以来、スウィフト・カレントは、急速に石油採掘の基地として発達した。現在、サスカчевン州の石油総生産の約3分の1がこの地域35マイル以内(56km)でまかなわれている。
- ・広大な農地で、機械化された小麦農業および牛、馬の牧畜がいとなまれている。
- ・各種の穀物および家畜の重要な取引がここで行なわれる。

〈ヨークトン〉(人口:14,200人)

- ・サスカчевン州の南東に位置しており、レジアイナの北にある、マニトバ州との境界の近くにある。
- ・サスカчевン州東部、中部の農業地帯に対する医療、教育、取引、配送の中心地
- ・この地域には夏の行楽地が多く、しばしばプレーリーの公園と呼ばれている。
- ・成長株の農業用具製造メーカー2社の本社がここにある。

c) アルバータ州



人 口 1,627,874人

主要人種 イギリス系 46%、ドイツ系 14%、ウクライナ系 8%、スカンジナビア系 6%、フランス系 6%

州 都 エドモントン (人口 都市圏：495,702人、市内：454,751人)

地 理 アルバータ州は、平原3州のうちで最大である。南部は樹木のないプレーリー、北部は混合樹林となっている。西部は、ロッキー山脈のふもとにあたり、北東部はカナディアン・シールドとつながっている。アルバータ州には、数限りないほどの湖があり、そのうち、レザー・スレイブ湖、アサバスカ湖、クレイル湖は、アルバータ州の3大湖である。南部の夏は長く涼しいので、一部にはかんがいが必要な地域もあるが、一般に農業に向いている。冬には暖かいチヌーク風が山を越えてこの州の西部に、急激な温度の上昇をもたらす。

産 業

〈農業〉 農業は最も重要な産業の1つである。最も一般的に普及しているのは混合農業で、主要穀物は、小麦、カラス麦、大麦である。家畜の飼育は、馬や牛を飼うのに最適の条件である温暖な気候と、豊かな牧草にめぐまれたロッキー山脈のふもとで大規模に行なわれている。

〈鉱業〉 アルバータ州の石油、天然ガスの生産量は、この国第1位であり、また、カナダで最も広範囲にわたる石炭資源をも持っている。

〈製材業〉 これは北部、西部の山麓地帯でさかんに行なわれている。

〈工業〉 全般的な製造業がますます重要になってきている。

都市と町

〈バンフ〉 (人口：3,219人)

- ・カナダで最も有名な夏冬とおした行楽地の1つである。カルガリーの西75マイル(120km)のところに位置しており、美しく、由緒ある国立公園の1つである。バンフは、1年を通じて訪れることができ、夏は温泉で有名である。
- ・アルバータ大学の姉妹校であるバンフ工業美術学校の本部がある。
- ・特別行事としては、バンフ・インディアン・デーの祭りがある。毎年7月の第2週に開かれ、ストーニー・インディアンやその他の部族がはなやかな祭典を

くりひろげる。

〈カルガリー〉（人口：403,319人）

- アルバータ州南部の、ロッキー山脈の山麓部にある。
- 牧場経営がこれまで第一の産業であったが、今でもこの地域の経済の主要な要因となっている。
- その他の産業としては、石油精製、製粉業、鉄道修理場がある。約400におよぶ企業が石油産業と結びついており、この町を拠点としている。
- 特別行事の一つとしては、カルガリー、スタンビードがある。これは7月に行なわれる10日間の祭りで、ロデオの世界選手権、競馬、チャック・ワゴン・レース（税馬車レース）、花火、家畜展示会、インディアン・ビレッジ、工業展示会、美術・写真サロン、スタンビードパレード、連日のインディアンの街頭での祭り、カーゴイとスクウェアダンスなどの催し物がある。
- カルガリー大学はここにある。

〈エドモントン〉（人口 都市圏：495,702人、市内：438,152人）

- 州都であり、この州最大の都市である。
- ノース・サスカチェワン川に面している。
- カナダの石油産業の中心地であり、中心的な工業都市として発展しつつある。
- 西部カナダに対する輸送上の拠点であり、カナダ北極部の資源活用のビジネスセンターでもある。
- アルバータ・ゲーム・ファームは、1,000エーカー（400 ha）におよぶ天然の森林地に、熱帯性およびその他の動物を飼っているもので、エドモントンの東、14マイル（22 km）のところにある。
- ジャスパー国立公園は、エドモントンの西、235マイル（376 km）のところであり、すべて山岳公園の最大なもので、山の頂きがずばぬけた美しさを見せていることで有名である。

〈レスブリッジ〉（人口：41,217人）

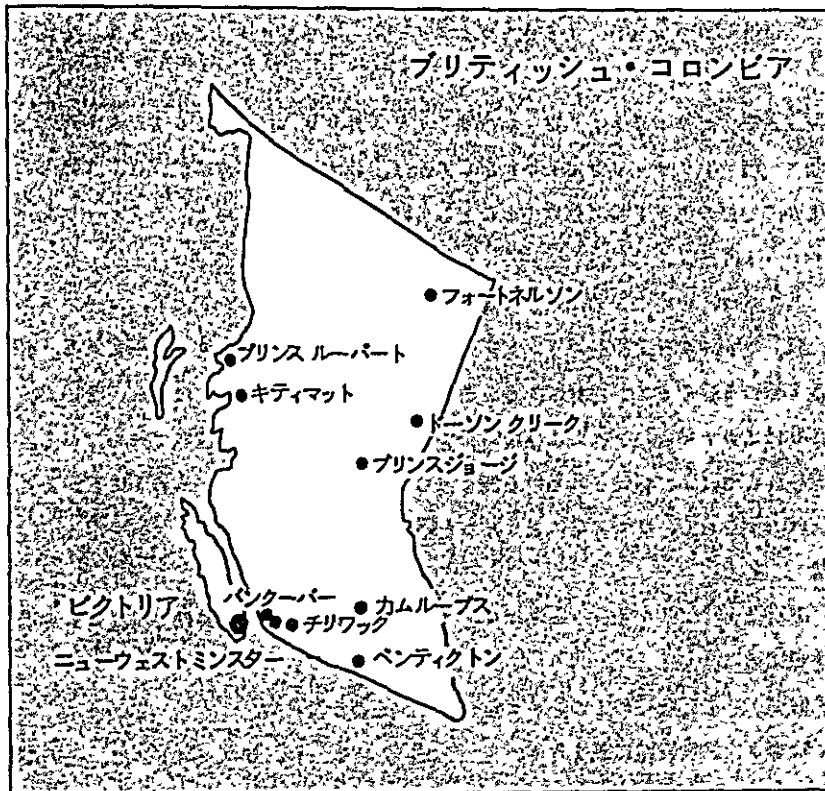
- カルガリーの南東138マイル（221 km）、アメリカ国境の北、65マイル（104 km）のところにある。

- 豊かな農業および牧場地域の輸送上の拠点である。
- この地域は、かんがいほ頼っており、かんがい地域は、100万平方エーカー（40万ha）におよぶ。
- その他、テンサイ栽培、野菜、かん詰加工、冷凍加工、工業等が行なわれている。
- レスブリッジ大学がある。

〈メディスン・ハット〉（人口 都市圏：28,776人、市内：26,518人）

- アルバータ州の南東部に位置している。
- 莫大な天然ガスの埋蔵があり、無限の燃料供給を期待できるため、多くの工場を引きつけている。
- 製造品としては、小麦粉、亜麻仁油、粘土、レンガ、タイル、コンクリート・ブロック、タイヤ、化学製品、ガラス、陶器などがある。
- 無数の公園や、リクリエーション施設がある。

d) ブリティッシュ・コロンビア州



人 口 2,184,620人

主要人種 イギリス系 50.5%、ドイツ系 9%、スカンジナビア系 5.5%、
フランス系 4.5%、ウクライナ系 3%、イタリア系 3%、中国系
2%

州 都 ビクトリア(人口 都市圏:195,800人、市内:61,761人)

地 理 ブリティッシュ・コロンビア州は、カナダの西海岸に位置し、大陸部の
ほか沿岸の島々(特に目立つものとしては、バンクーバー島と、クウィーンシャ
ルロット群島)を含む。

この州は、いくつかの山脈と台地からなっている。アイランド山脈、コースタル
山脈、フレイザー高原、コロンビア山脈およびカナディアン・ロッキーである。州
の4分の3近くまでが森林で、豊かな水力資源をもつ。耕作地はほとんどないが、
農業はオカナガンバレイのようにいくつかの細長くのびた河川流域で栄えてある。
太平洋の海流が、気候を和らげる働きをしており、冬でも気温が氷点下になるこ
とはめずらしく、夏も非常に暑くなるということはない。

産 業

〈製材業〉 ブリティッシュ・コロンビア州の木材、パルプ、製紙工業はカナダ第
1位である。

〈漁業〉 主要産業の一つ。サケとハリバが主要な漁獲物。

〈鉱業〉 鉱物資源に恵まれている。亜鉛、鉛、銀、銅、アスベストは、長い期
間にわたって採掘されてきている。

〈農業〉 混合農業と果樹栽培が多くの河川流域で営まれている。オカナガン・
バレイは果樹栽培地である。その他、豊かな農業地帯としては、ピース・リバー地
方、スチュアート・レイク地区がある。

〈水力〉 ブリティッシュ・コロンビア州はカナダ第2位の水力資源をもち、水力
発電開発では、わずかにケベック州とオンタリオ州に優位をわたしているにすぎな
い。

都市と町

〈チリワック〉（人口 都市圏：33,322人、市内：9,135人）

- ・バンクーバーの東、65マイル（104km）、フレージャー川南岸にあり、カナダでもっとも豊かな農業地帯に属する。
- ・フレージャー川流域東部の主要な小売取引センター
- ・主要産業としては、酪農、混合農業、林業がある。

〈ドーソン・クリーク〉（人口：11,885人）

- ・アラスカン・ハイウェイ沿いにあるこの町は、ハートおよびエドモントン・ハイウェイやB.C.ならびにノーザン・アルバータ両鉄道のターミナル・ポイントとなっている。
- ・天然ガスと石油が発掘されている。
- ・主要産業としては、穀物栽培、林業、酪農、家畜飼育がある。
- ・この地域は、よい狩猟場としても、また湖や川のよい釣り場でも有名である。

〈カムループス〉（人口：都市圏 43,790人、市内：22,168人）

- ・バンクーバーの北東、約250マイル（100km）のところにある。
- ・牛の飼育、林業、果樹栽培が栄えた地域で、取引の中心地となっている。
- ・重要な鉄道合流地点

〈クロウナ〉（人口 都市圏：36,956人、市内：19,412人）

- ・オカナガン湖に面している。
- ・果樹栽培、酪農、林業、混合農業が営まれている地域での中心地となっている。

〈ニュー・ウエストミンスター〉（人口：42,835人）

- ・大バンクーバー圏にある。
- ・フレージャー川の北岸の重要な淡水港
- ・ブリティッシュ・コロンビア州第2の工業地帯
- ・フレージャー川のサケ漁船団の中心的港
- ・ブリティッシュ・コロンビア州の製材業の中心地
- ・主要産業には製材業、二次木材、紙製品、醸造、蒸留業、ビール醸造がある。

〈ペンティクトン〉（人口：18,146人）

- ・オカナゴン湖の南端にあり、バンクーバーの東、256マイル(410km)のところにある。

- ・カナダ有数の果樹栽培地域

- ・大規模で近代的なかん詰工業、包装工場、肥料工場、農業機械製造が主要なもので、林業、家畜飼育、鉱業も同じく重要である。

〈プリンス・ジョージ〉 (人口 都市圏：49,100人、市内：33,101人)

- ・主要道路、鉄道、空路の中心地にある。

- ・ブリティッシュ・コロンビアの商業、輸送の中心地

- ・広大な森林が市内をとりかこんで各方面にのびている。

- ・大規模なパルプ、製紙工業

- ・銅、水銀、モリブデン、石炭の採掘地

- ・つりと水上スポーツが楽しめる湖が、この地域には無数にある。

〈プリンス・ルパート〉 (人口：15,747人)

- ・カナダでもっとも重要な海港、南岸部のほとんどはアラスカ、フェリーの発着港となっている。

- ・大規模なサケとハリバの漁船団の基地

- ・多くのサケかん詰工場や世界でも最大級の魚肉冷凍工場の拠点となっている。

- ・市内の公園には、インディアンのトーテムポールのすぐれたコレクションがある。

〈バンクーバー〉 (人口 都市圏：1,082,552人、市内：426,256人)

- ・カナダ第3の都市、太平洋、アジアへのカナダの玄関口

- ・大バンクーバー圏に含まれる都市はバンクーバー、ノース・バンクーバー、ニュー・ウエストミンスター、また、バーナビー、ウエスト・バンクーバー、リッチモンドなどの自治体で、面積は約500平方マイル(1,300km²)に及ぶ。

- ・この州の金融、商業、産業の中心地

- ・主要産業は、漁業、鉱業、林業

- ・たいいていのパルプ、紙、漁業、かん詰工業、各会社の本社がここにある。

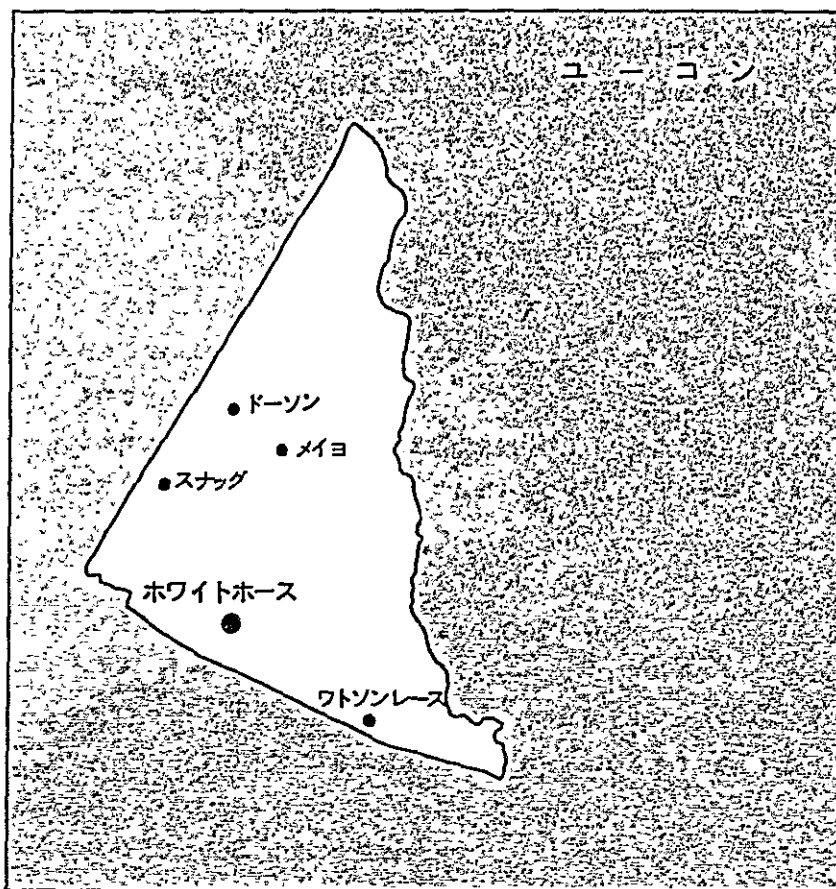
- トランス・マウンテン・パイプラインはエドモントンとバンクーバーをつないでおり、アルバータ州から太平洋岸に石油を送っている。
- スタンレー公園は、1,000エーカー(400ha)の公園で、森、湖、庭園があり、バンクーバーのダウン・タウンから5分のところにある。
- ブリティッシュ・コロンビア大学、サイモン・フレーザー大学(バーンバイ)がある。

〈ビクトリア〉 (人口:都市圏 195,800人、市内:61,761人)

- バンクーバー島の南端にある州都
- 温和な気候と庭園、とくにパッチャート・ガーデンの美しさが有名
- 世界最大級のドライ・ドックがある。
- ビクトリア大学がここにある。

II - 4 準 州

a) ユーコン準州



人 口 18,388人

主要人種 イギリス系 49%、原住民インディアン 14%、ドイツ系 8%、
フランス系 7%、スカンディナヴィア系 5%

州 都 ホワイトホース (人口:11,217人)

地 理

ユーコン準州は、北は北極海に面し、西はアラスカ、南はブリティッシュ・コロンビアに、東はノースウェスト準州に接している。この準州は、広大な河川流域、なだらかな台地、起伏のゆるやかな丘、北アメリカでもっとも高い山々などからなっている。大きな川としては、ベール川、ユーコン川がある。気候は変化に富んでおり、夏は暖かく、短い、冬は非常に寒い。適度の降雨はあるが、成育に適する期間が短いため、それほど多くの穀物は育たない。

産 業

〈鉱業〉 鉱業が主要産業である。ユーコン準州は、19世紀末クロンダイクで金が発見されて以来、鉱業がさかんである。その時以来、銀、鉛、亜鉛、銅の開発がすすめられている。

〈漁業とトラッピング(ワナによる捕獲)〉サケとホワイトフィッシュが大量にとれる。漁業とトラッピングは主要な収入源になっている。

〈観光〉 ユーコン準州第2の産業である。

都市と町

〈ドーソン〉 (人口:762人)

- ・ユーコン川とクロンダイク川の合流地点にある。
- ・1897-98年のゴールドラッシュの中心地であった。

〈ホワイト・ホース〉 (人口:11,217人)

- ・アラスカ・ハイウェイにそって準州の南部にある。
- ・ユーコン準州の州都で、州内最大の都市
- ・交通の中心地で、政府の行政機関がある。
- ・銅の採掘の中心
- ・商業航空が運航している。

b) ノースウェスト準州



人 口 34,807人

主要人種 イギリス系 25%、原住民 21%、フランス系 6%、ドイツ系 4%

州 都 イエローナイフ (人口: 6,122人)

地 理

ノースウエスト準州は、カナダの3分の1の面積を占め、北極群島の島々を含んでいる。この地方はほとんどが低地であるが、北部の北極の島々の中には海拔8,500フィート(2,250m)の高さに及ぶものもある。この準州の淡水部の表面積は、5,1000平方マイル(13,2600km²)以上で、これにはマッケンジー川、グレート・ベア湖、グレート・スレーブ湖が含まれる。泥沼が広範囲にわたって広がっており、樹林地帯の北は不毛なツンドラ地帯となっている。1960年代後半、石油とガスの調査隊が大勢やってくる以前には、イヌート(エスキモー)、インディアン、宣教師、RCMP隊員、狩人、ヘドソン・ベイ・カンパニーの従業員のほかに、住民はいなかった。樹木地帯以南では、夏は暖かいが、これより北方にいくと、気候は極地気候である。冬は、非常に寒いが、降雨量はそれほど多くない。4月~10月にかけては、1日の日照時間が20~24時間にも及ぶ。

〈交通〉 4つの民間航空が就航しており、定期便の乗客サービスと、貨物輸送をおこなっているが、水上輸送の方がまだ主力である。

〈通信〉 有線通信、極超短波、対流圏散乱システムと民間のラジオ・ネットワークを組み合わせ、もっとも孤立した集落と外界を連絡している。北部ではテレビはまだまだものめずらしい存在である。

産 業

〈鉱業〉 準州の豊かな鉱物資源については、亜鉛、鉛、金を産出する重要な鉱脈があるにもかかわらず、ほとんど手がつけられていない。

〈その他の産業〉 イヌート族の多くの者が、商業漁業、木材搬出、造船、小売業、工芸品・彫刻品の製作などの協同作業に従事しており、南部売却して、収入源としている。

〈イエローナイフ〉（人口：6,122人）

- グレート・スレーブ湖の北岸に位置しており、アルバータ州との境界の北側にある。
- この町は、1934年に創立され、1967年にノースウエスト準州の州都となった。
- 合理的な都市計画に基づいて設計され、住宅は心地よく、近代的である。

第Ⅲ章 移 住



エンプロイメント・センターではカナダでの生活、
仕事などについて相談に応じている。

- Ⅲ-1 申請のしかた
- Ⅲ-2 健康診断
- Ⅲ-3 申請の進行プロセス
- Ⅲ-4 面 接
- Ⅲ-5 出発の準備

移住の物語は、事実上、過去100年間のカナダの歴史でもある。世界各地から集った移住者のエネルギー、熱意、技術は、カナダの発展に多大な貢献をしてきた。

最初の移民法は、1869年に発効した。この時から、カナダへの移住者はますます増え、1972年5月には連邦成立以来、1,000万人目の移住者がカナダに入国した。

カナダ開発の初期の時代、移住者は辺境においやられ、土地を切り拓き、歴史の浅いこの国の土壌を開こんだ。カナダが農業国から高度に工業化された社会になる過程で、熟練労働者の需要の増加に応じてきたのは、さらに何千人という移住者たちであった。

その後、労働力の需給バランスからみて、外国人をいれる必要性が次第になくなってきた。カナダの失業率がふえるにつれて、移住者の流入を安定的なものにし、労働市場でのニーズに、より密着させようとするための対策がとられるようになった。

今日のような複雑な社会では、人口の変化は、経済建設、公共サービスの提供、都市や町における生活様式等、国民生活のあらゆる側面に影響を与える。人間が多すぎれば、都市部は混み合い、住宅不足、耕作地への圧迫、環境破壊などをもたらす。カナダの発展にとって移住が重要な要因であったことをふまえて、将来の政策を決定するに際しては、慎重に研究しなければならない。

1952年に発布された現行の移民法の下では、割り当て制はなく、二つの主要概念が今日の政策の基本となっている。非差別と平等である。簡単に言えば、このことは世界のどの国から来た人も、同じ基準で選ばれ、人種、皮膚の色、信条、生まれた国、国籍によっていかなるものも排除されないということである。その他、主として考慮する点は、家族の結合と、難民受け入れに対する準備である。

移住してきた人の才能や技術、希望が尊重されるよう、就職志願者はこうした要因をくわしく調べられる。うまく条件にあった人にとって、カナダでの生活の未来は、まったく明るいものとなるであろう。

Ⅲ - 1 申請のしかた

申請のしかた

カナダへの移住希望者のため、各国にカナダ政府の事務所がある。こうした事務所、カナダ外交官が、移住を希望する人の申請をうけ、カナダの生活の諸側面について、アドバイスし、情報を提供する。

カナダ政府によるこのようなサービスは無料である。移住希望者は、申請の過程で、手数料を請求する個人又は会社には気をつけなければならない。これらの機関や職員は、申請が認められるかどうかということについては、確約も保証もできないのである。

カナダへの移住を希望する場合は次の三通りの方法で申請できる。

- (1) 最寄りのカナダ移民事務所へ、自分で申請しに行く。
- (2) すてにカナダに住んでいる親類の呼寄せという形式による。
- (3) カナダに住む近い親類の者がスポンサーになる。

自主申請者

年齢が18才以上で、自分の意志でカナダに移住を希望する人は、最寄りのカナダ大使館、高等弁務官、各国の領事館に問合せれば手続きに関する情報を入手できる。カナダ永住を希望する人は、年齢、教育、技量、カナダにおける希望職種、目的地、フランス語か英語の語学力、個人的適性、カナダの親類縁者等、詳細な事情を、大使館、高等弁務官、領事館の移民担当官に報告、提出しなければならない。カナダでの仕事先が決まっていることや、カナダに住む親類縁者がいることが、即申請の受理を保障するわけではないが、有利に働くことは確かであろう。

呼寄せによる申請者

指名もしくは呼寄せによる移住希望者は、最低限、年齢18才以上のカナダ居住者で、カナダ市民であるか、あるいはカナダ永住者であるという条件をみたしている者によって指名、もしくは呼寄せられたのでなければならない。カナダへの移住を希望する場合、カナダ在住の縁故者に対して、もよりのカナダ移民センターで申

請するよう要請するとよい。親類縁者の者が必要な情報を提供した後、移住希望者を指名する。もしくは、呼寄せるといふ申請書が、一時受理されると、担当のカナダ大使館もしくは領事館から連絡がある。

指名され得る親族とは、21才以上の息子、又は娘、21才以下の結婚した息子、又は娘、兄弟および姉妹、両親および60才以下の祖父母、おい、めい、叔父、叔母、孫である。

呼寄せをうける扶養者とは、配偶者、婚約者、21才以下の結婚していない息子、又は娘（養子縁組を18才以前にしている場合には、結婚していない養子を含む）、60才以上の両親および祖父母（もしくは、寡婦となっているか、自立できない場合には、60才以下でもよい）、孤児となった18才以下の兄弟、姉妹、めい、おい、孫、施設に入れられており、スポンサーとなる者が養子にするつもりである13才以下の子どもが含まれる。

呼寄せられる扶養者は、年齢や教育、カナダの二つの公用語の知識の有無などという通常の選択基準によっては評価されることはないが、身元の証明がきちんとできるようであればならない。また、すべての移住希望者が、健康、人格ともにすぐれていなければならないことはもちろんである。

指名、呼寄せの手続進行中は、連絡があるまでは、地域のカナダ大使館や領事館に問い合わせないこと。

選択方法

選択の過程で次の3段階のチェックを受けなければならない。

- ・カナダで充分生活ができるかという居住能力の査定
- ・健康診断
- ・経歴チェック

カナダ居住能力の査定が選抜の基礎である。カナダ市民として、もしくは、正規移住者としてすでにカナダに居住する近親者がスポンサーとなっている場合は除き、すべての移住申請者は、この方法で選抜される。

カナダの入国許可を得るため、自主もしくは指名による申請者は、カナダで必要とされている職業、もしくはカナダ人雇用主との雇用に関する取り決めをしなければならぬ。

雇用の取り決めというのは、カナダ人、もしくは、正期移住者の誰もがりまく遂行できない職種に対して、カナダの雇用主から確定的に雇用の申し出があるということである。カナダ政府が、当該職業が現在のカナダ居住者では遂行できないものなのか、どうかの決定をする。

認可された就職先があることを証明するものを、自主申請者、指名者は、カナダ入国に際して提出しなければならない。尚、就職証明書は、申請者の裏づけにはなるが、カナダ入国自体を保証するものではないことを、留意しておく必要がある。

Ⅲ - 2 健康診断

健康診断

カナダ移住者は、入国前に健康診断を受けなければならない。胸部X線写真とレントゲン技師の報告書が必要であるが、11才以下の子どもについては、省の医療担当官の決定がなければ、除外される。いくつかの医療検査も又、費求されるであろう。

診断料金は自分持ちなので、移民担当官から連絡があるまでは検査をうけてはならない。

Ⅲ - 3 申請の進行プロセス

申請手続

すべての申請書は、可能な限り迅速に処理される。毎年、何万枚もの申請書が出されるので、緊急の場合の迅速処理という優先措置が世界各国で行なわれている。下に示したリストは優先順である。

- (1) スポンサーに呼寄せられている扶養者（すなわち、カナダ市民もしくは正規移住者となっている近親者がいる者）は、人格に問題がなければ入国可
- (2) 自主申請移住者もしくは指名移住者で雇用の事前約束のある雇用関係や指定された職（労働力不足）のある者
- (3) その人の入国により雇用が創出される（企業家）場合
- (4) 自主申請移住者および指名移住者

・ 避難民は、個々の必要に応じて扱われる。大使館、高等弁務官、領事館への不
必要な問合せは、申請事務を遅らせることになるので、結婚や子どもの誕生、
住所の変更等があった場合以外、向こうから求められない限り問合せをしない
こと。

重要：現在の勤務先をやめたり、職業を捨てたりするのは、手続きがすべて完了し、カナダ政府が入国を認める正式の通知をするまで待つこと。

Ⅲ - 4 面 接

面 接

申請者の記載内容から、カナダ永住の可能性が認められた場合、個別面談に応じるよう連絡がある。家族ぐるみの場合は、その構成員全員が面接に応じるのが望ましい。面接のとき、移民担当官は、次の点について尋問する

語学力

移民担当官は、カナダの公用語のうちいずれか一方が話せるかということを重視する。自分の定住希望地が、英語とフランス語のうち、いずれが優勢なのかを尋ねるべきである。そして、出国前に、その言語をマスターすべく努力すべきである。家族全員にとって英語かフランス語が話せるということは、カナダで気楽に過ごすための重要な鍵である。

教育条件

カナダでも教育を引き続き受けたいと思ひ移住者は、報告書、資格認定書、大学記録、学位、学位論文の証明書がなければならない。これらにより資格を査定し、カナダのどの教育システムの中に入学許可されるかが決まる。

重要：ケベック州では、移住者の子どもは英語とフランス語のいずれかの能力を査定する試験を受けなければならない。それにより流暢な方の語学で教育を行なっている学校への通学を要請される。いずれの語学もだめな場合は、フランス語学校に行かなければならない。

宿泊施設

通常、独身者や夫婦が家具つきの部屋あるいは、まかないつきの宿舎を見つけるのは容易であるが、家族用の賃貸住宅を見つけるのは非常に困難である。とくに、大都市ではむずかしい。家族の長で、就職先もきまっていない場合は、家族が入国する前に敷を確保し、適切な宿泊施設を見つけるために、家族より先に出国するようすすめられるであろう。カナダの住宅費について、又、実生活が始まる前の生活費や雑費として、どれくらいの金銭を持っていったらよいか情報を得ることは出来るだろう。

雇 用

移民担当官が就職を世話することはできないが、カナダで職を探す場合の最良の方法を教えてくれるだろう。

・
〈カナダ・マンパワー・センター(エンプロイメント・センター)〉 カナダに入
国してまずやるべきことのひとつが、カナダ・マンパワー・センターへの登録である。
センターは、各都市、名町のほとんどに設立されており、カナダ移住者や正規移住者
の水職活動を援助している。また、宿泊先のあっせんもしている。サービスは無料
であるが、これはカナダに居住している者のみに対しておこなわれる。

〈専門職業の免許認定機関〉 カナダでは、だいたいの専門職の開業は、専門職の
協会、州立府により規制されている。カナダでの自分のもつ資格の認定機関につ
いて移民担当官に訊ねるのがよい。

条件を満たしていなければ、カナダの基準に合うよう学びつつ、別の雇用先をみ
つける準備をしなければならない。

重要：ケベックではフランス語がビジネス用語なので、ケベック州の専門職協会
は、仕事の上で使う程度のフランス語の知識のない者には、許可を出していない。
しかしながら必要な語学をマスターするまでの期間として、一年間の臨時許可も有
効とされる場合がある。

〈熟練職工〉 カナダでは、熟練職工は、州、自治体、組合の基準により規制をう
け、その職につこうとしている者は、自分の資格証明書を提出しなければならない。
これがカナダの国内機関に受理されると、さらに訓練が必要とされる。

〈州にまたがる基準〉 雇用・移民省は、州の再試験、再資格認定を行なう
ことなく、全ての州で労働者が就職できるよう「Red Seal」として知られるプ
ログラムの調整を行なっている。最近ではRed Sealの資格認定書は建設、整備
点検、修理、サービスなどの職種をはじめとする多くの職種に通用するようになっ
てきている。州にまたがって通用する職人の資格をもつ労働者は、その資格証明書
に赤いシールがついている。

資格の認定や州の登録等、特定の情報には、移住地域の州当局から入手できる。

〈労働組合員〉 故国で組合員であっても、それが自動的にカナダでの組合員資格
にはならない。職人は自分の職種の職工組合に申請しなければならない。業種によ
っては、組合加入が新しい仕事につく前、もしくは、その後の義務になっているも
のもある。また、組合へ加入、不加入を個人の自由意志にかからせるところもある。

〈社会保険番号〉 雇用、失業保険、納税その他のために社会保険番号が必要である。カナダに入国後、すぐに社会保険番号を申請すべきであろう。入国地点の移民局や税関に書類がなければ、居住地となるところのカナダ・マンパワー・センターから入手するとよい。

〈事業の開始〉 カナダは、事業や農業を始めるのに必要な知識、資本をもつ移住者を歓迎している。カナダで小規模事業を設立しようという場合は、連邦および州からの援助が期待できる。これについては、移民担当官が詳しく教えてくれるであろう。

〈カナダでの農業〉 カナダでの土地獲得競争は厳しいので、農業を始めるには相当の投資がいる。やはり、詳細な情報を移民担当官に求めるのがよいだろう。

〈所得税〉 カナダ居住者として、カナダ内外から入る所得にはすべて所得税が課せられる。連邦政府の機関が連邦と州双方の所得税を徴収しているので、所得税の書式は一通でよい。ただし、ケベック州においてのみ、居住者は、連邦用と州用として、2通の書式が必要である。

〈健康保険〉 カナダでは入院費と医療費は非常に高いので、入国後すぐに政府が運営している病院・医療保険に登録することが大切である。入国したところで、申請書が渡されなかったり、居住予定地での給付に関する情報をうけなかったという場合は、翌日にでも、もよりのカナダ・マンパワー・センターから入手すること。尚、通常の歯科治療および薬の処方せんはこの保険には入っていないことに注意。

Ⅱ - 5 出発の準備

出発準備

税関手続

自分で所持し、使用する日用品、身のまわり品など、到着前からのものは無税でカナダ国内に持ちこめる。しかし、こうしたものはすべて、入国後12カ月は保

持していなければならない。さもないと、通常の関税が課せられる。業務用の品目については、この規制の枠外である。すでにもっている自動車やトラックで、到着前から自分で所有し、使用していたものは、カナダの安全基準を満たしているものでさえあれば、家族の足として、カナダに持ちこむことができる。無関税品目がカナダ到着前に使用されたものでなければならないという条件は、花嫁支度品や贈物については適用されない。関税規則についての詳しい情報は、カナダ大使館、高等弁務官、領事館から入手できる。

何をもっていくべきか

アドバイスとしては、個人の身のまわり品、家族用リンネル類、食卓用品をもっていた方がよいが、特別の金銭的価値、もしくは思い出に残るものでない限り、家具は輸送しない方がよい。

家庭用照明と小電気器具の電源は、110ボルト、60サイクルである。変圧はすすめられない。110ボルトで使用できない器具はもっていかない方がよい。

服 装

カナダでは、だいたいどこでも四季がある。

〈冬〉 11月中旬、下旬までには冬支度が必要になってくる。ブーツ、帽子、手袋、スカーフ、暖かい冬用コート、上着がいる。

暦の上では3月21日から春に入ることになっているが、雪まじりの寒い天候が4月中旬までつづくことがよくある。小さい子ども用の冬服は、上下つながったスノースーツが便利である。

〈春〉 春の訪れとともに、重いコートが軽いウールのコートやレインコートにかわり、冬のブーツは脱がれる。夏は、暦の上では6月21日からということになっているが、5月中旬あたりに突然、われわれを驚かすようにやってくることもある。

〈夏〉 夏は日昼、非常に暑くなるが、夜は肌寒くなり、軽い夏用コート、上着、セーターが必要である。夏の服装としては軽く、洗たくしやすいものがよい。洗たくが簡単で、アイロンがけがいらぬドリップードライ機能はカナダでは人気がある。

〈秋〉 9月は全般的にすどしやすく、気温はまだ暖かいが、秋の気配が肌を感じる。

られるようになる。秋は暦の上では9月21日からだが、その前にかるい霜がおり、ることがある。スエードや皮のコートがほしくなる季節である。秋、冬にカナダ人に人気のあるのは、ナイロンのスキー用ジャケットで、非常に暖かく、軽量で価格も安い。

荷物明細書

手荷物として携帯する予定のものすべての明細書と、別便で船で送るものすべてについての明細書を二部ずつ用意しなければならない。カナダに無関税で持ちこめるのは、記入済のものだけなので、この明細の作成は入念に行った方がよい。この明細書はカナダ入国時に必要なので、荷物の中に入れてしまわないで、自分の身につけておいた方がよい。

その他の書類

自分と家族が、カナダに定着する際に必要とされるであろうすべての書類を忘れずに準備していかなければならない。これには、職業上の資格、専門に関する以前の雇用者からの照会状、人物証明書、会員カード、家族全員に関する教育・出生あるいは洗礼の証明書の他、結婚証明書、離婚・離別証書、その他の書類等が考えられる。医師の処方せんをもっていれば、そのうつしをもって来るべきである。書類はできれば定住先に応じて、英語またはフランス語に翻訳しておくとい。

出発時期

9月の新学期に子どもを間に合せたいと思うなら、少くとも一週間前に到着して、登録やその他の手続きができるようすべきである。できれば、子どもは、故国での学期を終えてからの方がよいだろう。

パスポート又は旅行書類

入国した際にすぐ必要となるので、パスポートや旅行書類は、荷物の中にしまっ
てしまわないで、身近に携帯しておく方がよい。

第Ⅳ章 カナダ到着



カナダには多くのデパートやスーパーマーケットが見られ、買物には好適である。

- N-1 入国地にて
- N-2 雇 用
- N-3 宿 泊 施 設
- N-4 生活の中の経済
- N-5 定着のために
- N-6 カナダ生活に慣れて

Ⅳ-1 入 国 地 に て

入国したところで

カナダに到着するすべての人、これにはカナダ市民はもちろん、帰国者、訪問者、移民がいるが、だれもが植物検疫、健康、入国審査、税関などの検査をうけねばならない。カナダの入国港に着くと、検査の場所を示す多くの外国語でかかれた掲示を見ることであろう。こうした検査にパスポートや、認可旅行証明書など、カナダの外交又は領事事務所からもらった公式書類あるいはカナダへの移住を示した書類が必要である。

移住者の場合、一般入国者よりも詳しい検査を受けなければならない、ここでさらに書類に書きこまねばならないこともある。必要なら手続き方法を聞くこともできるし、また、通訳が必要な場合は無料でたのめる。書類その他、問題なしと移民官がみとめれば、正規移住者として入国許可になる。その後、税関に申告する。この際、カナダにもちこんだ品物の明細書が2通必要であり、又、別便で車をカナダに送った場合には、自動車の所有証明書がある。税関申告がすめば、目的地に向かって出発してよい。

その先の旅行の手配、親類や友人への連絡、翌朝までの宿泊地の選定などについてアドバイスがほしい場合は、ここで移民官に尋ねるとよい。直接手伝ってくれるか、または手伝ってくれる人のところへ連れていってくれる。

Ⅳ - 2 雇 用

雇 用

カナダ・マンパワー・センター（エンプロイメント・センター）

定住目的地に着いたら、最寄りのカナダ・マンパワー・センターをさがし、登録する。このセンターは、カナダに永住しようとする人にはだれにでも無料で職業のあっせんをしてくれる。到着したばかりの移住者には、適当な宿泊所をさがしてくれたり、経済、その他の問題について相談にもってしてくれる。社会保険番号、医療、病院保険の申請書にまだ記入していなければ、カナダ・マンパワー・センターでこの用紙をもらって記入するとよい。

求 職

カナダ・マンパワー・センターにリストアップされている仕事だけでなく、日刊紙の求人欄をチェックしたり、大きな会社や組織の人事部を訪問してみるなど、その他の就職先を見つける努力をしてみるのもよい。

カナダに来たばかりの人は、自分がカナダでの労働条件をよりよく知っており、語学の知識も自分より高い人々と競争しているのだということをよく肝に命じておく必要がある。

求職活動がうまくゆかず、公平な扱いをうけていないと感じたら、カナダ・マンパワー・センターのカウンセラーと話すのがよい。故国ではよい方法であっても、カナダの国柄ではあわないアプローチのしかたをしているかもしれない。カウンセラーは、何が障害になっているかを教えてくれるし、自分を生かす道をもっと効果的に提示してくれるであろう。

ある職種に就こうとする前に、その職種の最低賃金について、マンパワー・センターのカウンセラーに相談するとよい。そうすれば、契約の際、雇用者が自分に払おうとしている給与が適度なものであるかがわかる。

自分にあった職がない場合、別の就職口をさがしてもよいし、自分の条件をより有利にさせるため、職業訓練をうけるという方法もある。

訓練コース

カナダ・マンパワー・センターのカウンセラーから、就職先につく前に、語学の集中コースに参加する必要があると言われた場合には、政府が開いている全日制の生活費付きの語学コースに照会するとよい。しかし、こうしたコースに入る前に、多少、またされる場合もある。カナダの永住者として、職業訓練に申しこんだり、就職を有利にすすめるために、転居のための援助に申しこむこともできる。

さらに、カナダではたいいのところで、新来者のための語学コースが、地域の教育機関や、移民援助グループなどの後援で、働きながら学べるコースとして開催されている。

〈注意〉 新聞広告やセールスマンにより、私設の言語、ビジネス、通信教育、職業等の学校を知り、その学校への入学をすすめられることがあるかもしれない。こうした訓練は良いには良いのだが、値段の高いことがよくある。だから、この点については、前もってマンパワー・センターのカウンセラーに、相談する方がよい。

IV - 3 宿 泊 施 設

宿 泊 設 備

一時的住居

勤務先や住居が見つかるまでの間、一時的に泊まれるところが必要になる。こうした宿泊先を選ぶときには、実際にそこまで行ってサービスの内容をはっきりとつかむことが大切である。まかないつきの場合もあるし、食事がつくれる簡易施設がついている場合もある。これは料理用の電気コンロや冷蔵庫が部屋についているものであるが、“Kitchen privileges” というのは、食事を準備するため、ある程度台所を使えるということである。家賃は、通常、前払いで、週払いか、月払いである。

宿泊先に電話がない場合は、すぐにもその設置を欲するようになると思われる。特に、まだ就職先が見つかっていない場合は、電話は就職活動をするうえでの数々の手数を省いてくれるからである。

電話を入れる場合は、地域の電話会社に連絡して入れてもらう。設置料と毎月のレンタル料、長距離通話料は自分で払わなければならない。たいてい、電話は申請後一週間で設置される。電話の設置が無理であれば、公共の建物、大きな店、バスや鉄道の発着地には、ほとんど公衆電話があるから、これを利用すればよい。

電話帳のフロントページには、電話のじょうずな利用の仕方、長距離電話のかけ方、たとえば、長距離にはどのようにして直接ダイヤルするか、などの情報がついており、警察、火事、救急などの非常時の番号もまたのっている。電話帳の職業別記載欄 (yellow page) には、職種別、アルファベット順にすべての地域の電話加入者の名称と電話番号がのっている。

恒久的宿泊施設

賃貸であれ、購入であれ、場所が重要である。もちろん、交通、買い物、学校、教会、就職先に近いところを望むであろう。

家屋やアパートを借りる場合、賃貸借契約に署名しなければならないだろう。契約は月ごとのこともあり、また、1～3年に及ぶこともある。契約書類に署名する前、または口頭の契約による室、アパート、二世帯家屋、タウンハウス、一軒家に賃貸を決める前に、次の点をチェックすべきである。

- 賃貸料の中に冷蔵庫、ストーブ、暖房、給湯、電気が含まれているかどうか。
- 駐車場はあるか、あれば費用はいくらか。
- ペットや子どもに対する規制はないか。
- せんたく場、貯蔵施設があるか。
- 修理の責任はどちらがもつか。
- 賃借人がペンキを塗ったり、壁紙をはることができるか、もしそうであれば、その仕事の手配や、支払いはどちらが負担するか。
- 家主は転貸を認めるかどうか、賃貸借契約に違反した場合の罰金はどのくらいか。

・維持費については、賃借人と家主の負担はどのようなものか。

一般的に言って、カナダ入国後一年以内は、家は買わない方がよい。カナダの住宅条件をよく知るには、少なくとも一年は必要であり、仕事の関係で住所をかえなければならないこともあるからである。

独立家屋や共同住宅は、日刊紙の広告の欄や不動産屋で売りに出されている。業者を通して買う場合に注意すべきことは、業者の仲介料は、物件を売る人が払うのであって、買う人ではないということである。

家が見つかって買いたいと思ったときには、手続きをする前に、弁護士（ケベック州では公証人）を利用すべきであろう。

又、購入価格を計算するときは、財産税について考慮しておかねばならない。この税金は高額なことが多い。弁護士費用もまた、含めなければならない。さらに、州によっては、土地譲渡税を払わされるところもある。

家を購入する際にはどういう融資があるかについての情報は、マンパワー・センターのカウンセラー、銀行のマネージャー、中央抵当住宅公社（住宅の章を参照）の担当者に相談するのがよい。

Ⅳ - 4 生活の中の経済

生活の中の経済

銀行

金銭や貴重品の安全確保のためにはカナダに到着したら、できるだけ早く銀行や信託銀行の口座を開くのがよい。この時は銀行や信託銀行のマネージャーと知り合うのによい機会でもある。

たいていの金融機関は、週に5日間（夜間は週に一度）営業をしている。信託会社を含めると、日曜営業するところもある。

銀行口座には、いくつかの種類があるが、次に示すのは、もっとも一般的な三種類のものである。

〈預金口座〉 貯蓄と、その利息を目的とするもので、引き出しは自由であるが、振り出すことのできる小切手の枚数は限られている。預金口座によっては前もって料金を支払わずには、小切手を振出せないものもある。

〈個人当座勘定〉 個人の月払い勘定の小切手による支払いを目的とした口座。預金者は、通常、口座に充分な預金をもっており、定期的出費をすべて扱うようにしている。この口座の手数料は、わずかなもので、毎月、決済済みとなった小切手と銀行の月次報告を受ける。

〈当座勘定〉 主として業務用で、利用者はすべての取引の定期会計をうけとる。

海外に送金するときは、支払保証小切手、為替、銀行為替手形を銀行、または、信託銀行からうけとることになっており、現金を送ってはならない。カナダ国外の家族を扶養するために送金するのならば、所得税用に受領証をとっておくべきであろう。

金銭の安全確保のための業務のほかに、銀行には、宝石や遺言状、株、証券、債券、抵当、証文、保険証券などのような書類を預かる貸金庫がある。

クレジット

クレジット、つまり預金を支払わずに購入できるやり方は、カナダではごく一般的に行なわれている。多くの銀行や商店は、顧客との信用が成立すると、クレジットカードを発行する。

賢明な使い方をすれば、クレジットはとても便利であるが、次の点を肝に命じておく必要がある。

- ・浪費しがちである。
- ・利子が高い
- ・決められた時期に支払わないと、買ったものは、販売先もしくは金融会社のものになってしまう。

クレジットしない方がよいのは、額が大きい時である。価格、利子率、運送費等をよく吟味した上で決めた方がよい。

〈消費者保護のガイドライン〉 国民にクレジットについての注意を喚起し、じょうずな利用の仕方についての常識をもたせるためカナダ消費者企業局が設置されている。この省は、また、消費者問題の解決を目的として15以上の都市に、消費者保護事務所をもっている。また、すべての州政府は、この分野の連邦政府の業務を補完する形で、消費者部をもっている。

カナダにいるときには、カナダ人消費者としての権利について知ってほしいと思うであろうが、そういう時は「The Consumer, Box. 99, Ottawa」に手紙で照会するとよい。

政府以外から情報を得たい時は、“Canadian Consumer”を定期購読するか書店やニューススタンドで買うとよい。これは、カナダ消費者協会が出版しているもので、この協会がテストした各種の製品についての情報がのっている。

買い物

住宅街の付近には多くのショッピング街がつくられている。ブロナードの中にはいろいろな種類の店舗があり、無料の大きな駐車場もある。

概して、開店は、朝9時、閉店は夕方5時30分～6時である。ドラッグストアは夜間もあいており、中には、日曜日に開いているところもある。最近では、夕方に買い物をするのが一般的となっており、たいていの店では一週間にすくなくとも一度は夜間もあいている。

〈食料品店〉 大きなセルフサービスの店、スーパーマーケットは、各種の食品と日用品を巾広く扱っており、一つの売場の中にほとんどの品目がある。こうした店では品物の回転が大きいので、小さい店に比べ価格は安い。

ほとんどの家にも冷蔵庫があり、一週間分の食品を貯えておくことができる。さらに冷凍庫をもっていれば、大量の肉、魚、野菜、ジュース、パン類などを貯蔵し、新鮮に保存しておくことができる。これにより、最初に冷凍庫を買う時に金がかかっても大量に買い、家庭に貯蔵しておくことで節約できる。

スーパーマーケットも、他の商店と同様、安い手数料で家まで配達してくれることもある。

〈コンビニエンス・フード〉 かつては準備に長い時間を必要としたものに省力化

をめざして改良が加えられたもの。それらには次のものがある。

- ・水、牛乳、時にはたまごをいれ、ただオープンにいれるだけでよい。パイ、ケーキ、ソース、また、その他のインスタント食品のもと。
- ・肉、ケーキ、パンなどすでに調理済みで、ただ包装をとけばよいもの
- ・くだもの、野菜、酪農品、デザートなどといった冷凍包装品
- ・使い捨て皿にはいった調理済冷凍食品は、暖めて（通常30分以下）出すだけでよい。

こうしたコンビニエンス・フードは、通常、原材料の合計額よりも価格は高くつく。

〈ワインと酒類〉 カナダ産ワインはもちろん大きな町では輸入品も手に入る。

ワインと酒類は、州政府の認可をうけた特定の商店で売っている。カナダはまた、約120種のビールを生産している。カナダで飲酒できる年齢は、州により異なり18～21才である。

〈ドラッグ・ストア〉 ドラッグ・ストアは薬剤の調合をするだけでなく、新聞、雑誌、化粧品、アイスクリーム、タバコ、キャンディーなどの商品もあつかう。

〈コーナー・ネイバーフッド・ストア〉 たいていの住宅地には「ネイバーフッド」とか「コーナー」とか呼ばれる小さな店があり、夜も開いており、各種の食料品、商店などをおいており、価格は通常の時間帯に閉店するところよりも少し高い。

〈特殊食料品店〉 外国の食品の需要を満たすため、多くの店が外国食品を専門にやっている。カナダにやってきたばかりの人は、自国の料理をしてみたいと思うだろうし、カナダ人の方も、海外の味覚に精通するようになってきている。スーパーマーケットでも、一定の外国食品は手に入るが、この特殊食料品店では、より広範な各種の外国食品がそろっている。健康食品の店も大きな町では、たいていのところで見うけられる。

〈ドライクリーニング〉 カナダでは、背広、コート、ドレス、ドレーズ、その他の品目はふつう、ドライクリーニングする。ドライクリーニングの店は、しばしば洋服の当日仕上げをやっている。また、こうした店はシャツや家庭用綿類のランドリーとアイロンサービスもいっしょに行なっている。セルフ・サービスのコイン・

ランドリーとドライクリーナーも、たいていの都市や大きな町では利用が可能である。

自動車を買う

市内および郊外では公共交通の利用が便利であるが、小さな町や田園地帯では、車が必要になることが多い。

〈自動車の安全〉 カナダで製造され、流通しているすべての自動車は、安全基準に合致していなければならない。中古車を買う場合は、あらかじめ州で適用される安全基準を知っておく必要がある。州によって中古車を売る人は、買入人に、その車の機械的適応についての証明書を出さなければならないというところもある。

〈免許と保険〉 各州には、自動車の登録と保険、運転免許について独自の規制がある。この種の情報には、自分の市、町の州交通局から得ることができる。

〈外国の運転免許証〉 外国の運転免許証や外国の免許プレートが通用するかどうかは、州によって異なるので、詳細は州交通局事務所に問い合わせるとよい。

〈運転免許試験〉 たいていの州では、ドライバーは16才以上で、免許取得資格をもつ。免許を得るには、住んでいる州が行なうテストに合格しなければならない。

Ⅳ - 5 定着のために

定着について

保育所

カナダでは保育所が不足しており、どこの保育所でも、あきかてるまで待たなくてはならないというのが現状である。保育料金は高く、サービスは他の国々のものと比べるとあまり良いとは言えない。

このようなサービスが必要である場合、電話番号帳にでている州の児童・福祉サービス担当の局に連絡するのがよい。

学 校

落ち着き先に到着したら、できるだけ早く、子どもを通わせる学校についてその地域の教育委員会に問合わせるのがよい。住んでいる地区外の学校に子どもを通わせたいと思うのであれば、交通費の負担を覚悟しなければならない。

カナダでは、一般に9月の第1週が新学期である。子どもの登録をする時には、学習歴についてのすべての書類を持っていく方がよい。

学期がスタートした後、到着した場合は、子どもをどの学年に入れるかについて、校長に相談することになるであろう。

家族の健康

〈かかりつけの内科医と歯科医の選定〉 家族の医師と歯科医を選ぶのに助言がほしければ、住んでいる地区のインフォメーション・センター、地区の病院、子どもの学校の養護員、または付近にある移民援助グループでもアドバイスを受けることができるだろう。また、電話番号帳の職業別記載欄に、内科医、外科医、歯科医のリストがある。

カナダでは、医師はほとんど住診しない。だから、よい開業医の名を見つけたら、できるだけ早く連絡して、非常時のために顔見知りになっておくのがよい。もし、病気になるたり、事故にあった場合には、もよりの病院の救急部に行く。電話番号の表紙のうらには、非常用電話番号がのっている。

〈家族計画〉 カナダ政府は、家族計画プログラムを持っている。その目標は、すべての人が、子どもの数および間隔について自由に選択できるようにする方法、手段についての知識を提供することである。

家族計画の情報とサービスは、各開業医、ボランティアの家族計画クリニック、州、自治体の厚生機関、病院クリニックなどの各機関から入手できる。こうしたサービスはたいていその一部又は全部が医療・病院保険に含まれている。

〈墮胎〉 カナダでは、病院の医師委員会が手術を決定した時にかぎり、合法的に墮胎することができる。しかしながら、すべての病院に委員会があるわけではない。

〈妊娠〉 カナダの婦人は普通、病院で子どもを出産する。赤んぼの介助を専門とする助産婦や看護婦がいないので、医師が行なう。病院によっては父親の立会い

が許可されている。

分娩をひかえた母親は、毎月病院で検診を受ける。出産に要した医療費、入院費は、州の医療保険に含まれる。

信仰の場所

自分の住んでいる町に、自分の信仰する宗教の場があるかどうかを知りたいければ、地域の新聞の土曜版を調べると、多くの宗教団体が定期的な案内を行なっている。電話帳の職業別記載欄にもまたキリスト教会やユダヤ教会の部がある。

情報源

大きな都市では、地域のインフォメーション・センターを設立する傾向が強まっている。もし付近にセンターがあれば、いろいろな公共サービスや活動についての情報を提供しており、便利である。公立図書館もまた、情報源として利用できる。

Ⅳ-6 カナダ生活に慣れて

カナダ生活に慣れて

外国の生活に適應することは、決してやさしいことではない。人によっては適應にかなりの困難を示す人もいるが、初めから、カナダに暮らすことは故国とは異なっているのだという覚悟がしっかりしている人は、比較的容易に適應できるようになる。

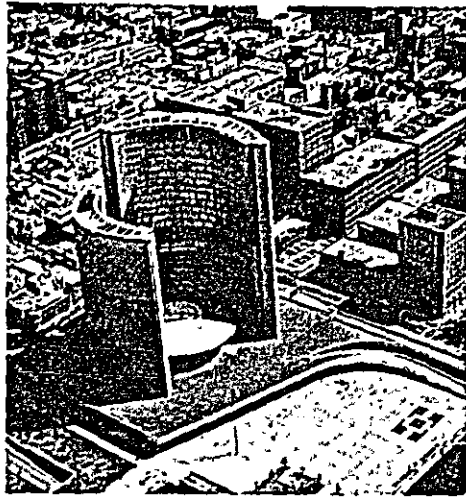
故国とカナダとのギャップをうめるために、自国の言語、自分自身の問題をよく知っている民族集団に加わることもよいであろうし、まだ英語にもフランス語にもたんなるでなふれば故国でおこっていることがらを知っておき、また、カナダの出来事を自国語で読むために民族語新聞をとってみるのもよいであろう。肝心なのは、自分たちだけがカナダに来たばかりの家族だと思わないことである。カナダでは、新しい仕事とか、その他の個人的な理由から、一生のうち、何度も住居をかえる人々も多い。カナダの大きさと多様性のために、環境にもなれ、友人もできるま

では、弱い形での「カルチャア・ショック」を経験する。このため移住後の新しい隣人はカナダ生まれのカナダ人かもしれないが、友好的な態度さえ示せば、それ相応の接し方をしてくれるはずである。

すぐ近くの隣人とのつきあいだけでなく、他にも友人の輪を拡げる方法はたくさんある。これには地域の教会主催の会合、リクリエーション活動、社会センター、多様文化センター、趣味の会などへの参加があげられる。地域の学校や大学の夜のコースに登録してもよい。あるいはサイクリング、スケート、クロスカントリースキー、ダウンヒルスキーなどの戸外活動を通じてあらゆる年齢層のカナダ人とのつきあいを広めていくこともすばらしい。

友人をつくり、新しい社会の生活に関わっていくにつれて、じきにカナダの生活にもすっかり順応するようになるだろう。

第V章 市民権



トロント市の有名な建物である市庁舎

V-1 市民としての権利義務

V-2 カナダ市民権法

カナダの生活に順応していくにつれて、ちゃんとしたカナダ市民となることが有利だと、疑いなく考えるようになるだろう。

カナダの市民権を獲得するということは、故国との絆を断ちきるということではなくて、自分を受け入れた国に対し、より一層の帰属意識をもつということである。

V-1 市民としての権利義務

市民の権利・義務

カナダ市民として、連邦、州、自治体選挙の選挙権をもつ。このことは、立法および公的資金のつかい道について、自分の意見を反映させるという意味をもつ。

一当カナダ市民になると、公的な職業に就く資格をもち、もし選出されればカナダの将来を決定する役割をになりことさえ可能である。また、市民権獲得後は、カナダのパスポートをとる権利が与えられ、市民権が条件となっている職業への雇用の道も開かれる。

市民権により、個人はある程度の権利と特権を獲得することになるが、それと同時に、ある程度の義務と責任も負担しなければならない。これには、法と移序の尊重、他社の権利の尊重、地域的あるいは国家的レベルの問題を解決し、公共の福祉に貢献するため、自分の才能、知識、経験をすすんで活用するということがある。

V-2 カナダ市民権法

カナダ市民権法

現行のカナダ市民権法は1947年1月1日に発効したものだが、この市民法

の下では移住者が、市民権の資格をもつのはカナダに5年間居住した後である。これに対して、新しい市民権法が、目下、議会の承認を待って、これが通過すると市民権申請者は、次の条件に従うよう要請されることになる。

- 正規移住者であること。
- 入国以来、カナダ居住歴が3年以上であること。
- フランス語か英語を話せること。
- よい人格であること（雇用主、銀行家、社会のリーダー、その他の代表となっている市民が、照会状を出したり、カナダ市民権法廷に現れることにより、志願者に代わって立証する）
- 忠誠の宣誓をすることに同意すること。

参 考 資 料

1. メートル法

2. 休 日

3. 各地の気温

メートル法

カナダは現在、メートル法への移行途上にある。次に示す表は、カナダメートル法委員会によるもので、国民が新しいシステムに慣れるよう作成されたものである。

メートル法換算法

メートル法測定値への概算的換算

現在の単位	掛ける	新単位	記号
(長さ)			
インチ	2.5	センチメートル	cm
フィート	0.3	メートル	m
ヤード	0.9	メートル	m
マイル	1.6	キロメートル	km
(面積)			
平方インチ	6.5	平方センチ	cm ²
平方フィート	0.09	平方メートル	m ²
平方ヤード	0.8	平方メートル	m ²
平方マイル	2.6	平方キロメートル	km ²
エーカー	0.4	ヘクタール	ha
(重量)			
オンス	28	グラム	g
ポンド	0.45	キログラム	kg
トン(2000ポンド)	0.9	トン	t
(体積)			
フルイドオンス	28	ミリリットル	ml
ピント	0.57	リットル	L
クォート	1.14	リットル	L
ガロン	4.5	リットル	L
立方フィート	0.03	立方メートル	m ³
立方ヤード	0.76	立方メートル	m ³
(温度)			
華氏	$F - 32 \times 5/9 = C$	摂氏	C

カナダの祝祭日

NEW YEAR'S DAY ・ 1月1日

EASTER 普通 3月か4月のうちのいずれかの日を選ばれる。

SOVEREIGN'S BIRTHDAY 5月25日後最初の月曜日に祝う

DOMINIOM DAY 7月1日 カナダ誕生の祝日

LABOUR DAY 9月の第1月曜日に祝う

THANKSGIVING DAY 10月の第2月曜日に祝う

REMEMBRANCE DAY 11月11日 1918年休戦調印日の記

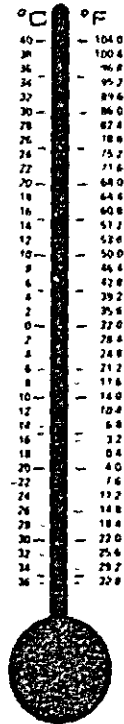
念日 現在では、二つの大戦の戦死者を記念する。

CHRISTMAS DAY 12月25日 キリスト誕生を祝うキリスト教徒
の祝日

各地の気温

Daily average of the lowest (L) and highest (H) temperatures in 25 Canadian cities

	DEGREES CELSIUS																							
	JAN		FEB		MAR		APR		MAY		JUNE		JULY		AUG		SEPT		OCT		NOV		DEC	
	L	H	L	H	L	H	L	H	L	H	L	H	L	H	L	H	L	H	L	H	L	H	L	H
NEWFOUNDLAND																								
St. John's	6	3	7	0	4	1	2	6	2	10	6	15	11	18	12	18	8	15	5	10	0	6	5	1
PRINCE EDWARD ISLAND																								
Charlottetown	12	3	12	4	7	1	1	7	4	14	10	18	15	23	14	23	11	19	6	13	0	6	7	1
NOVA SCOTIA																								
Halifax	8	0	9	1	4	3	0	8	5	14	9	19	13	23	14	23	11	19	6	14	1	8	5	2
Yarmouth	6	3	6	1	3	4	2	8	6	13	9	17	12	21	13	22	10	18	7	14	4	9	3	3
NEW BRUNSWICK																								
Fredricton	16	4	16	3	8	3	7	9	14	17	9	22	13	26	12	24	8	20	2	13	3	6	12	2
St. John	11	2	11	2	6	3	0	6	5	16	9	16	12	21	13	21	9	19	5	12	1	7	9	0
QUEBEC																								
Quebec	17	7	12	6	11	1	3	5	2	12	8	19	12	24	9	23	8	19	1	12	5	3	13	4
Montreal	12	5	13	4	6	2	1	10	8	18	14	23	17	26	16	24	11	19	5	13	1	5	9	2
Quebec	16	7	14	6	9	0	1	9	6	16	12	22	12	24	14	22	9	18	4	11	3	3	13	4
ONTARIO																								
Ottawa	16	6	16	6	8	1	1	10	8	18	12	24	14	27	13	26	9	21	3	12	3	4	12	4
Thunder Bay	15	3	19	7	11	1	3	7	3	14	8	20	14	29	12	27	7	17	1	11	7	1	14	6
Toronto	8	1	9	1	4	4	7	11	8	18	13	24	16	27	18	26	12	22	6	14	1	7	6	1
MANITOBA																								
The Pas	27	16	24	12	17	4	6	7	2	16	8	21	12	24	10	23	4	16	2	9	13	4	22	13
Winnipeg	22	13	21	10	13	2	2	8	5	18	17	23	14	27	12	26	7	19	1	11	9	1	17	8
SASKATCHEWAN																								
Prince Albert	24	13	22	10	15	2	3	9	3	18	8	23	12	25	10	23	4	17	1	10	11	2	21	10
Regina	22	11	21	9	12	2	3	10	3	18	8	23	13	27	9	24	4	16	2	12	11	7	18	8
ALBERTA																								
Banff	18	6	14	2	9	3	4	9	1	15	4	16	6	23	5	22	2	16	7	10	8	1	12	4
Calgary	16	3	14	2	9	3	11	3	17	7	20	8	24	6	22	4	18	0	12	8	3	13	2	
Edmonton	17	8	17	4	10	1	2	11	4	18	8	21	11	24	8	22	4	17	0	11	9	1	14	7
Jasper	16	6	13	1	8	4	3	11	1	16	5	20	7	23	6	22	3	17	0	11	8	2	13	4
BRITISH COLUMBIA																								
Prince Rupert	1	4	1	6	1	7	3	10	6	13	8	16	10	18	11	18	8	15	7	12	3	8	1	5
Vancouver	1	6	1	8	3	11	6	14	8	18	11	21	13	23	12	23	10	18	7	14	4	9	2	7
Victoria	2	6	3	8	4	10	6	12	8	18	10	18	11	20	10	18	8	14	6	9	2	7	7	
YUKON																								
Whitehorse	20	11	19	17	11	1	6	5	1	14	6	19	7	16	6	18	3	13	2	5	13	6	20	12
NORTHWEST TERRITORIES																								
Yellowknife	32	23	31	21	24	12	14	2	1	9	7	14	11	21	10	18	4	11	3	2	18	10	29	21





JICA

1981-2-1500